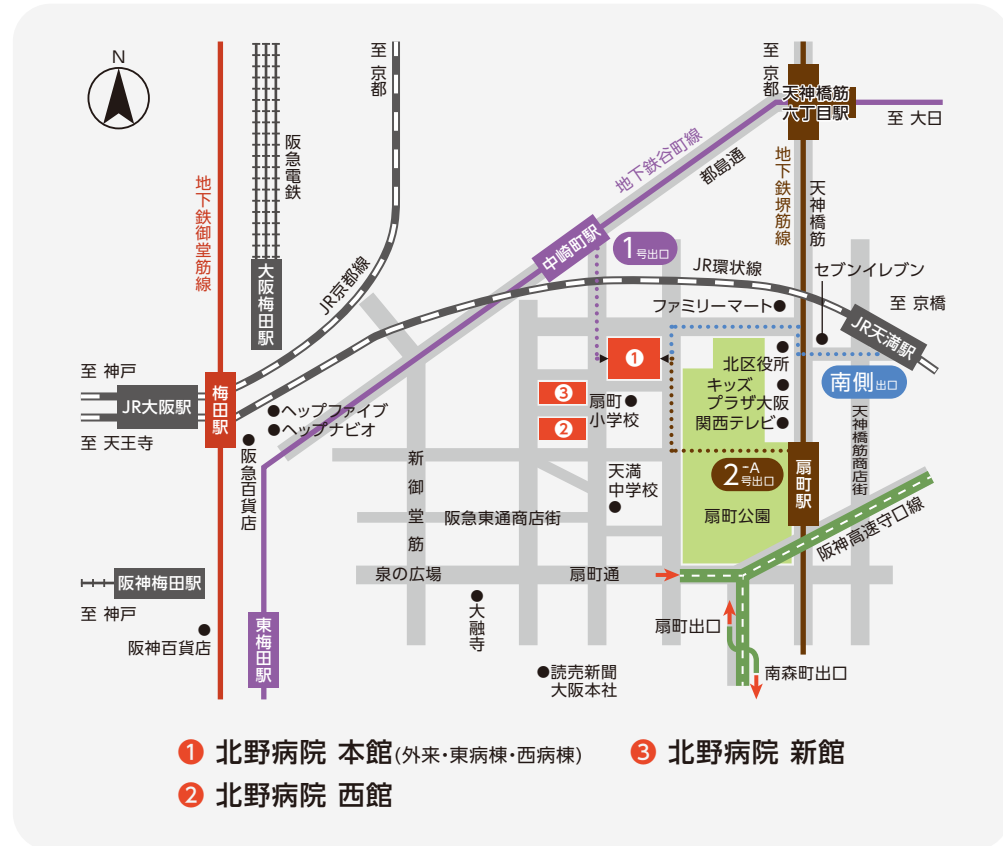


公益財団法人田附興風会

医学研究所北野病院

診療案内 2023

Medical Research Institute KITANO HOSPITAL



電車

- 地下鉄堺筋線「扇町駅」徒歩約5分
- 地下鉄谷町線「中崎町駅」徒歩約5分
- JR大阪環状線「天満駅」徒歩約7分



車(阪神高速より)

- 12号守口線 北行「扇町」出口 約3分
- 12号守口線 南行「南森町」出口 約5分

地域医療サービスセンター

地域医療係

TEL.06-6131-2955 (受付時間) 月～金曜日 / 8:45～19:00

医療相談係

TEL.06-6131-2956 (受付時間) 月～金曜日 / 8:45～17:25

FAX

FAX.06-6312-8620
※FAXは24時間受信しておりますが、受付時間後のFAXは、翌営業日のお返事となります。



公益財団法人田附興風会
医学研究所北野病院

〒530-8480 大阪市北区扇町2丁目4番20号
TEL.06-6312-1221(代表) FAX.06-6361-0588(代表)
<https://www.kitano-hp.or.jp>

診療受付時間 8:45～11:30(月～金) ※診療科によって異なる場合もありますので、ホームページをご確認ください。

休診日 土曜日、日曜日、祝日、年末年始(12/29～1/3)



理念と基本方針

Kitano Quality



理念

- 質の高い医療を実践し、信頼される病院をめざします。
- 病む人の立場に立った安心の得られる病院をめざします。
- 各自が医療人としての誇りをもって最善を尽くす病院をめざします。

基本方針

- 地域の中核病院として先進の医療を実践します。
- 人権尊重を基盤として情報公開とインフォームドコンセントを推進します。
- 快適・安全・清潔な医療環境を提供します。
- 医療水準の向上のために教育・研修および臨床研究に努めます。
- 各自が自覚をもって経営の健全化に協力します。

理事長挨拶

理事長 稲垣 暢也



平素より関係の皆さまには大変お世話になり有難うございます。

医学研究所北野病院は2022年10月から新たな体制でスタートしました。

田附興風会は、田附政次郎氏が医学に関する総合研究に資することを目的に、京都帝国大学(現 京都大学)医学部に提供されたご寄付により1925年に設立され、1928年に医学研究所北野病院が開設されました。間もなく100周年を迎えようとしている現在、これからも、患者さんの立場に立った医療を提供し、地域の皆さまの命を守り、皆さまに愛される病院であり続けたいと願っています。

そのためには、患者さんが安心して満足できる治療が受けられるように、安全で最新で最良の医療を提供するとともに、地域の先生方との役割分担と連携が不可欠であると考えています。2020年の新館竣工に合わせてこれまでに進めてまいりました本館のリノベーション工事も2023年度秋には完了し、より快適な環境で高度な治療を受けていただくことが可能となります。これからも、地域の先生方とのさらなる連携を推し進めるべく、先生方や患者さんとできる限りの情報共有を行い、ご要望が届くような病院をめざして、職員一同、努力してまいりたいと思いますので、引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます。

病院長挨拶

病院長 秦 大資



2022年度も新型コロナウイルス感染症に振り回された1年となりました。特に7月から9月にかけては大規模な流行の中で病院機能が大幅に低下し、一般の救命救急医療、専門性の高い高度先進医療、新型コロナウイルス感染症の診療のすべてを満足できるレベルで維持することが極めて困難な状況となりました。地域の医療機関の先生方や地域の方々に大変ご迷惑をおかけしてしまい、申し訳ございませんでした。幸い10月以降は徐々に通常の状態に戻り、危惧していた8波も比較的小さな波でおさまり、胸をなでおろしているところです。

さて、3年間にわたる本館の大規模な改修工事が最終年に入っています。2022年度にGCU、ICU、リハビリテーション科、地域医療サービスセンターの改修、拡張、デイ・サージャリー室2部屋の新設工事が終了し、現在ハイブリッド手術室を含む手術室2部屋の増設工事を実施中で、2023年度夏に完成予定です。また、手狭な救急外来の改修工事も2023年度に予定しています。これらの改修により患者さんの利便性、快適性、安全性が大きく向上するものと期待しています。

診療面では最新の専門性の高い診療に加えて、救急患者さんのほぼ全例に近い受け入れを地域の中核病院の責務と考え、病院をあげて取り組んでいます。今後新型コロナウィルス感染の動向が読めないところではありますが、職員一同力を合わせて、近隣の住民の皆さま、医療機関の先生方のご期待の応えられるように努力してまいります。皆さまのご指導、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

医学研究所北野病院 概要

概要

名称	公益財団法人田附興風会 医学研究所北野病院 Medical Research Institute KITANO HOSPITAL, PIIF Tazuke-kofukai
所在地	〒530-8480 大阪府大阪市北区扇町2丁目4番20号
TEL	06-6312-1221 (代)
FAX	06-6361-0588 (代)
URL	https://www.kitano-hp.or.jp/
開設年月	1928年(昭和3年)2月
病院の種類	一般病院、DPC対象病院 (急性期入院医療診断群分類包括評価方式対象病院)
許可病床数	一般685床
看護体系と体制	体系：一般病棟 7対1入院基本料 体制：継続受持制
診療受付時間	8：45～11：30(月～金) ※診療科によって異なる場合もありますので、ホームページをご確認ください。
休診日	土曜日、日曜日、祝日、 年末年始(12/29～1/3)

医学研究所

腫瘍 研究部：消化器外科、消化器内科、呼吸器外科、乳腺外科、泌尿器科、産婦人科、血液内科、腫瘍内科、病理診断科、緩和ケア科
呼吸・循環 研究部：循環器内科、不整脈科、心臓血管外科、呼吸器内科、臨床工学部
内分泌・代謝・腎臓 研究部：糖尿病内分泌内科、腎臓内科、栄養部
炎症・免疫 研究部：リウマチ膠原病内科、皮膚科、感染症科
神経・感覚運動器 研究部：脳神経内科、眼科、神経精神科、整形外科、形成外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科
発達・再生 研究部：小児科、小児外科
病態生理・薬理 研究部：麻酔科、集中治療部、救急部、薬剤部
保健・健康 研究部：放射線科、健診部、臨床検査部、医療情報部、看護部、リハビリテーション科、歯科・口腔外科

指定・認定

認定・承認	<ul style="list-style-type: none">地域医療支援病院大阪府アレルギー疾患医療連携協力病院産科医療補償制度加入医療機関大阪府難病診療連携拠点病院大阪府外国人患者受入れ地域拠点医療機関動きやすい病院評価・認証大阪府がん診療拠点病院地域周産期母子医療センターISO9001認証取得小児がん連携病院大阪産婦人科相互援助システム(OGCS)準基幹病院ISO15189認定取得大阪府小児中核病院大阪新生児診療相互援助システム(NMCS)参加病院
診療指定	<ul style="list-style-type: none">被爆者一般疾病医療機関大阪府肝炎専門医療機関大阪府肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関感染症予防法による指定届出機関結核指定医療機関生活保護法による指定医療機関生活保護法による指定介護機関(訪問リハビリ)生活保護法による指定介護機関(介護予防訪問リハビリ)公害医療機関戦傷病者特別援護法指定医療機関
救急指定	<ul style="list-style-type: none">大阪府二次救急告示医療機関(内科・小児科)二次後送病院(眼科・耳鼻科)
研修・実習病院	<ul style="list-style-type: none">厚生労働省基幹型臨床研修病院卒後臨床研修評価機構認定施設助産師学校実習指定病院臨床検査技師実習指定病院母体保護法第14条指定医師研修機関看護学校実習指定施設薬剤師実務実習施設視能訓練士実習指定病院

診療科目

診療センター・診療科
<ul style="list-style-type: none">救急部(救急科・初期診療科・発熱外来)呼吸器センター(呼吸器内科・呼吸器外科)消化器センター(消化器内科・消化器外科)神経センター(脳神経内科・脳神経外科)心臓センター(循環器内科・不整脈科・心臓血管外科)化学療法センター(腫瘍内科)放射線治療センター(腫瘍放射線科)緩和ケアセンター(緩和ケア科)アイセンター(眼科)腎臓内科泌尿器科糖尿病内分泌内科血液内科リウマチ膠原病内科神経精神科小児科小児外科産婦人科乳腺外科皮膚科形成外科整形外科耳鼻咽喉科・頭頸部外科歯科口腔外科リハビリテーション科麻酔科放射線診断科病理診断科感染症科
専門外来
<ul style="list-style-type: none">難聴・鼓膜再生センター漏斗胸センターこどものヘルニアセンター
支援部門
<ul style="list-style-type: none">血液浄化センター健康管理センタープレストセンターがん診療センター

学会認定	<ul style="list-style-type: none">日本内科学会認定教育施設日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設日本呼吸器学会呼吸器専門研修プログラム(施設群)基幹施設日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設(成人部門)呼吸器外科専門医合同委員会専門研修基幹施設日本循環器学会認定循環器専門医研修施設日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設三学会構成心臓血管外科専門医認定機構心臓血管外科専門医認定機構基幹施設日本胸部外科学会認定医認定制度指定施設日本肝臓学会認定施設日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設日本消化器病学会専門医制度認定施設日本胆道学会指導施設日本脾臓学会認定指導施設日本外科学会外科専門医制度修練施設日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設(認定施設)日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技能専門医修練施設B日本食道学会食道外科専門医認定施設日本消化管学会胃腸科指導施設日本神経学会専門医制度教育施設日本脳神経外科学会専門研修プログラム 基幹施設・連携施設日本脳卒中学会研修教育施設日本腎臓学会認定教育施設日本急性血液浄化学会認定指定施設日本腎臓財団賛助会員日本腎臓財団透析療法従事職員研修実習指定施設日本透析医学会専門医制度認定施設日本アフェシス学会認定施設日本糖尿病学会認定教育施設I日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設日本血液学会専門研修認定施設日本がん治療認定医機構認定研修施設日本リウマチ学会教育施設日本小児科学会専門医基幹施設日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設(小児部門)日本小児血液・がん学会認定小児血液・がん専門医研修施設日本小児神経学会小児神経専門医研修施設日本小児感染症学会指導医教育研修プログラム施設	<ul style="list-style-type: none">日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法(NCPR)トレーニングサイト施設日本血液学会専門研修認定施設(小児)日本小児外科学会認定施設日本泌尿器科学会専門医拠点教育施設日本眼科学会専門医制度研修施設日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設日本気管食道科学会認定気管食道科専門医研修施設(咽喉系)日本耳科学会耳科手術認可研修施設日本専門医機構研修基幹病院日本産科婦人科学会専門研修プログラム基幹施設日本周産期・新生児医学会周産期専門医認定施設(指定施設)日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設日本女性医学会認定研修施設日本婦人科腫瘍学会指定修練施設A日本生殖医学会生殖医療専門医制度研修連携施設日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設日本整形外科学会専門医制度研修施設日本手外科学会認定研修施設日本脊椎椎間病学会脊椎椎間科専門医基幹研修施設日本形成外科学会認定施設日本皮膚科学会認定専門医研修施設日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設日本臨床腫瘍学会認定研修施設日本緩和医療学会認定研修施設日本救急医学会救急科専門医指定施設日本麻酔科学会麻酔科認定病院日本心臓血管麻酔学会専門医認定基幹施設日本集中治療医学会専門医研修施設日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関日本核医学会専門医教育病院日本病態栄養学会病理専門医研修登録施設日本臨床細胞学会認定施設日本臨床細胞学会教育研修施設日本形成外科学会専門医制度研修施設日本感染症学会認定研修施設日本人間ドック学会人間ドック健診専門医研修施設日本病態栄養学会認定・病態栄養専門医研修認定施設日本医療薬学会認定薬剤師研修施設日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設	<ul style="list-style-type: none">日本医療薬学会地域薬学ケア専門薬剤師研修施設(基幹施設)日本臨床薬理学会認定薬剤師制度研修施設日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修施設薬学教育協議会薬学生長期実務実習受入施設日本リハビリテーション医学会研修施設日本超音波医学会超音波専門医研修施設関連10学会構成日本ステントグラフト実施基準管理委員会 胸部ステントグラフト実施施設関連10学会構成日本ステントグラフト実施基準管理委員会 腹部ステントグラフト実施施設浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設IMPELLA補助循環用ポンプカテーテル実施施設日本循環器学会認定ビンダール導入施設・認定施設日本不整脈心電学会経皮的カテーテル心筋冷凍焼灼術に関する認定施設日本不整脈デバイス工業会、日本不整脈心電学会認定 植え込み型心臓デバイス植え込み手術認定施設日本消化器内視鏡学会 JED Project 参加施設一次脳卒中センター(PSG)日本Awake Surgery学会脳腫瘍覚醒下マッピングを行うための覚醒下脳外手術認定施設多発性嚢胞腎協会施設会員日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療連携施設日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会インプラント実施施設日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会エキスパンダー実施施設下肢静脈瘤血管内焼灼術実施・管理委員会 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設日本医学放射線学会画像診断管理認証施設日本病態栄養学会栄養管理・NST実施施設補助人工心臓治療関連学会協議会インペラ部会事務局認定 IMPELLA実施施設日本形成外科学会専門医制度研修プログラム基幹施設多血小板血漿 (PRP：Platelet-Rich Plasma)を用いた難治性潰瘍治療鼻咽喉閉鎖不全に対する自家脂肪注入基準施設乳房増大用エキスパンダーおよびインプラント実施施設日本造血・免疫細胞療法学会 非血縁者間造血幹細胞移植を施行する診療科の認定基準移植施設
-------------	--	--	--

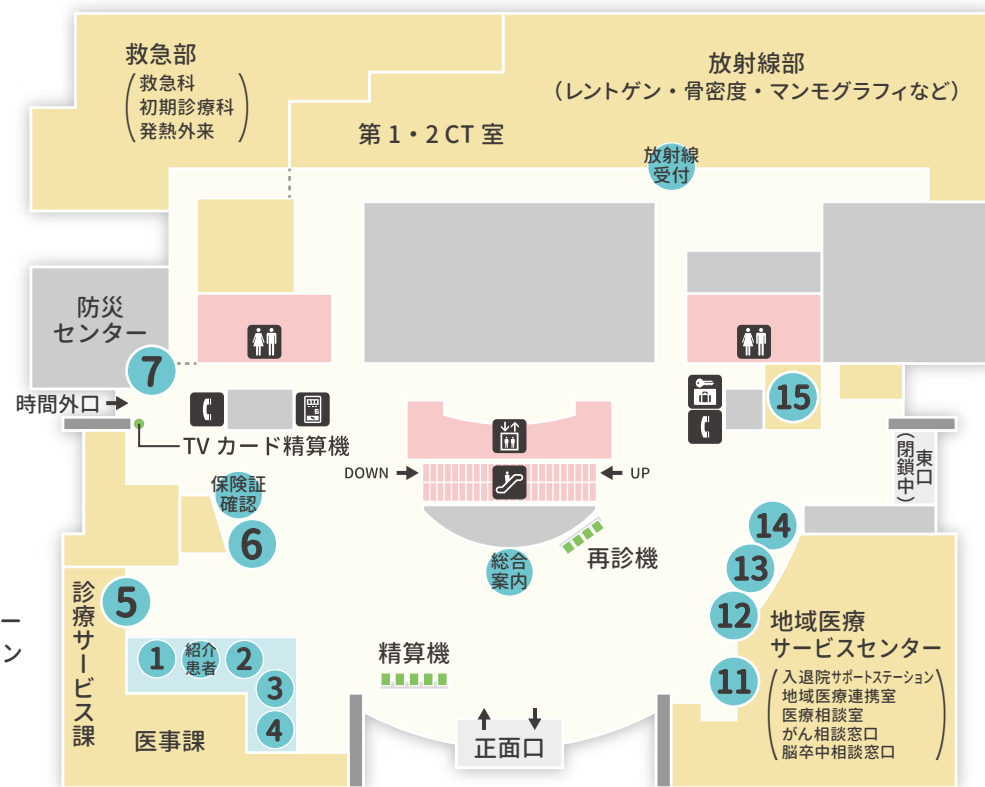
沿革

1925(大正14)年 9月	医学に関する総合研究を行い、あわせて京都帝国大学(現 京都大学)医学部における学術研究を助成し、研究の成果の普及を図り、もって学術・文化の発展に寄与することを目的として、田附政次郎氏が寄付金を提供。財団法人田附興風会を設立する。	2013(平成25)年 5月	森之宮医療大学と相互連携協定を締結する。
1928(昭和 3)年 2月	病床数120床をもって、京都帝国大学医学部に付属する臨床医学研究用として、北野病院を開設。中新館(西側)の増築により、病床数が188床に増床。連合国軍に接収される。	2014(平成26)年 4月	腎泌尿器センターを開設する。
1938(昭和13)年 4月	財団法人田附興風会を設立する。	2015(平成27)年 4月	プレストセンターを開設する。
1945(昭和20)年 10月	中新冠(西側)の増築により、病床数が188床に増床。連合国軍に接収される。	2017(平成29)年 3月	化学療法センターを開設する。
1950(昭和25)年 11月	連合国軍接収解除に伴い、188床で再開院。	2018(平成30)年 10月	NPO法人卒後臨床研修評価機構(JCEP)の認定取得。人間ドック健診専門医研修施設の認定取得。
1951(昭和26)年 11月	本館4階寄宿舎を病室に転用し、244床に増床。	2020(令和 2)年 4月	「ISO 9001:2015」の認証を受ける。
1952(昭和27)年 7月	本館4階寄宿舎を病室に転用し、244床に増床。	2019(平成31)年 4月	当財団第20代・22代理事長を務めた本庶佑先生がノーベル生理学・医学賞の受賞が決まる。
1954(昭和29)年 12月	結核病床の増設などにより、353床に増床。	2019(令和元年) 6月	漏斗胸センターを開設する。
1962(昭和37)年 4月	新館の増築により、510床に増床。	7月	「大阪府難病診療連携拠点病院」の指定を受ける。
1968(昭和43)年 7月	厚生省の臨床研修病院に指定される。	10月	入退院サポートステーションを開設する。
1981(昭和56)年 3月	西館の増築により、741床に増床。	11月	歯科口腔外科を開設する。
1985(昭和60)年 4月	文部省から「特定公益増進法人」の指定を受ける。	10月	がん診療センターを開設する。
1993(平成 5)年 3月	文部省から「日本育英会学資金返還免除対象研究所」の指定を受ける。	11月	緩和ケア科を開設する。
1998(平成10)年 4月	脳卒中センターを開設する。	2020(令和 2)年 4月	「小児がん連携病院」の指定を受ける。
2000(平成12)年 4月	救急部を開設する。	2021(令和 3)年 4月	臨床検査部が「ISO 15189:2012」の認証を受ける。
2001(平成13)年 9月	現地に新築移転する。	11月	難聴・鼓膜再生センターを開設する。
2006(平成18)年 4月	健診部を開設する。(現 健康管理センター)	11月	新館を増築する。
5月	NICU・GCUを開設する。	2019(令和元年) 6月	放射線部を開設し、放射線科を放射線診断科と放射線治療センター(腫瘍放射線科)に組織改編する。
6月	ICUを開設する。	7月	病床数を見直し、685床に変更。
10月	SCUを開設する。	9月	こどものヘルニアセンターを開設する。
10月	CCUを開設する。	10月	緩和ケアセンターを開設する。
10月	「動きやすい病院評価」の認定取得。	2022(令和 4)年 1月	血液浄化センターを本館4階から本館6階へ移転する。
2007(平成19)年 3月	病床数を見直し、707床に変更。	3月	化学療法センターを本館1階から本館6階へ移転する。
2009(平成21)年 4月	「大阪府がん診療拠点病院」の指定を受ける。	10月	眼科外来を本館3階から本館5階へ移転し、アイセンターを開設する。
11月	「地域医療支援病院」の承認を受ける。	4月	リハビリテーション科を本館4階から本館5階へ移転する。
2010(平成22)年 2月	「地域周産期母子医療センター」の認定を受ける。	7月	大阪府から「大阪府小児中核病院」に指定される。
2011(平成23)年 9月	北野病院附属画像診断クリニックを開設する。	10月	地域医療サービスセンター、入退院サポートステーションが移転・拡充される。
11月	内閣府から「公益財団法人」の指定を受ける。	11月	ICU(集中治療室)が移転、全室個室化される。
2012(平成24)年 4月	厚生労働省から「DPCⅡ群病院」の指定を受ける。	2023(令和 5)年 1月	本館3階にデイ・サージャリー室を開設する。
2013(平成25)年 3月	病床数を見直し、699床に変更。腫瘍内科を開設する。	4月	第1・第3・第5土曜日を休診日とし、完全週休二日制に移行する。

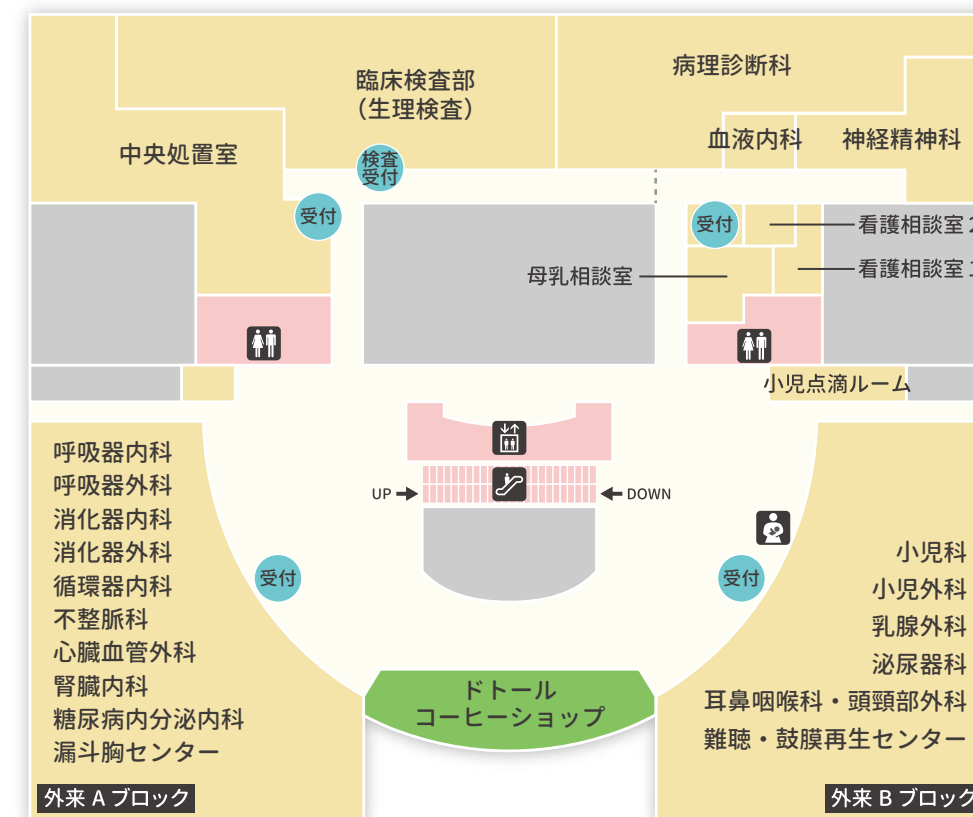
外来フロア (本館) の紹介

1F

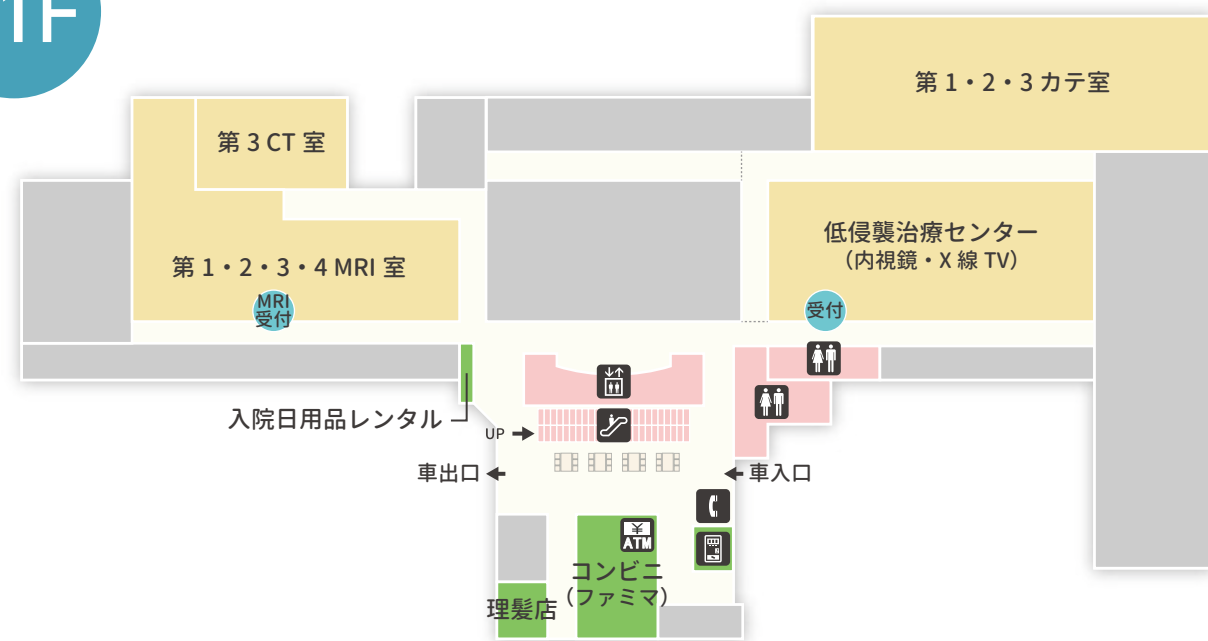
- 1 初診受付
- 2 計算窓口
- 3 会計
- 4 文書受付
- 5 患者相談窓口
- 6 薬窓口
- 7 救急・時間外受付
- 11 入院受付
- 12 地域医療サービスセンター
入退院サポートステーション
- 13 持参薬確認
- 14 検査説明
- 15 がん相談支援センター



2F



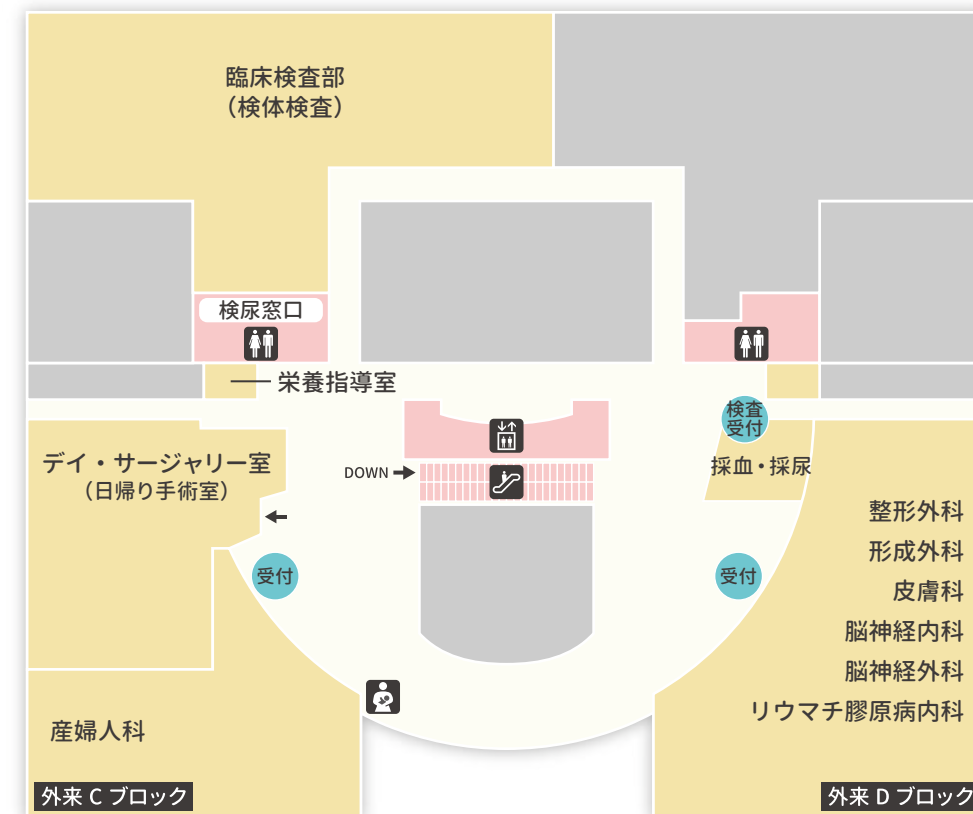
B1F



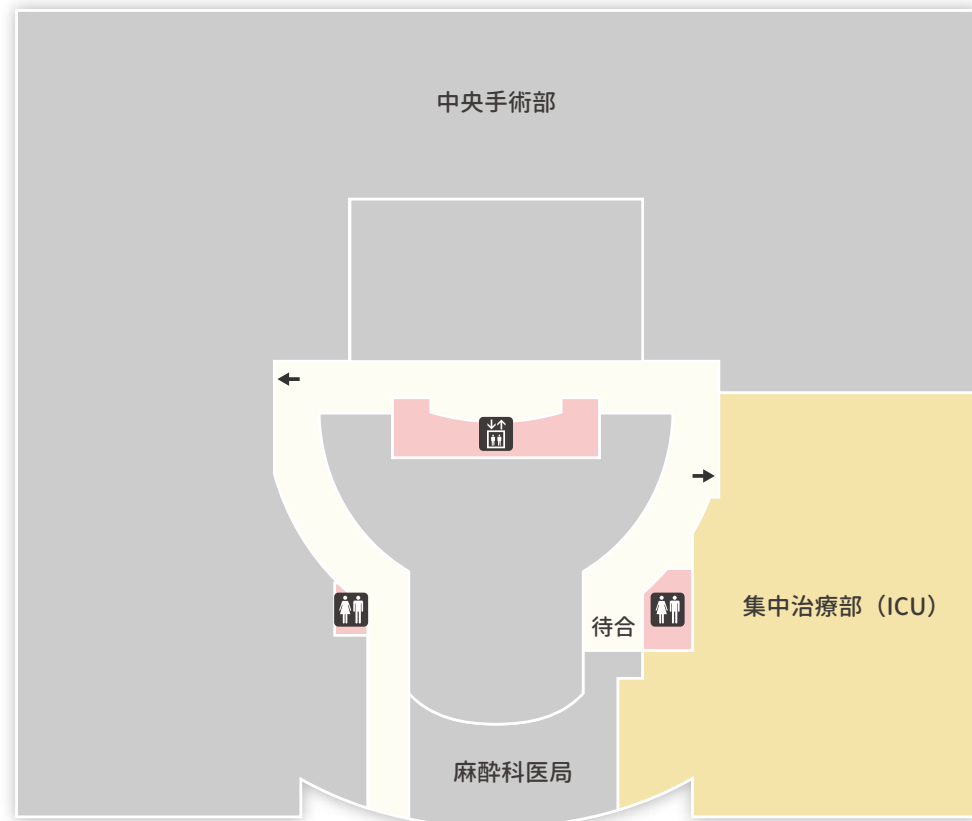
- ♿ トイレ
- 🚪 エレベーター
- 🚶 エスカレーター
- ☎ 公衆電話
- 👛 コインロッカー
- 📺 飲料自動販売機
- 🏧 銀行ATM
- 👶 授乳室

※ 2023年4月現在、本館改装工事を順次行っております。最新のフロアマップはホームページをご確認ください。

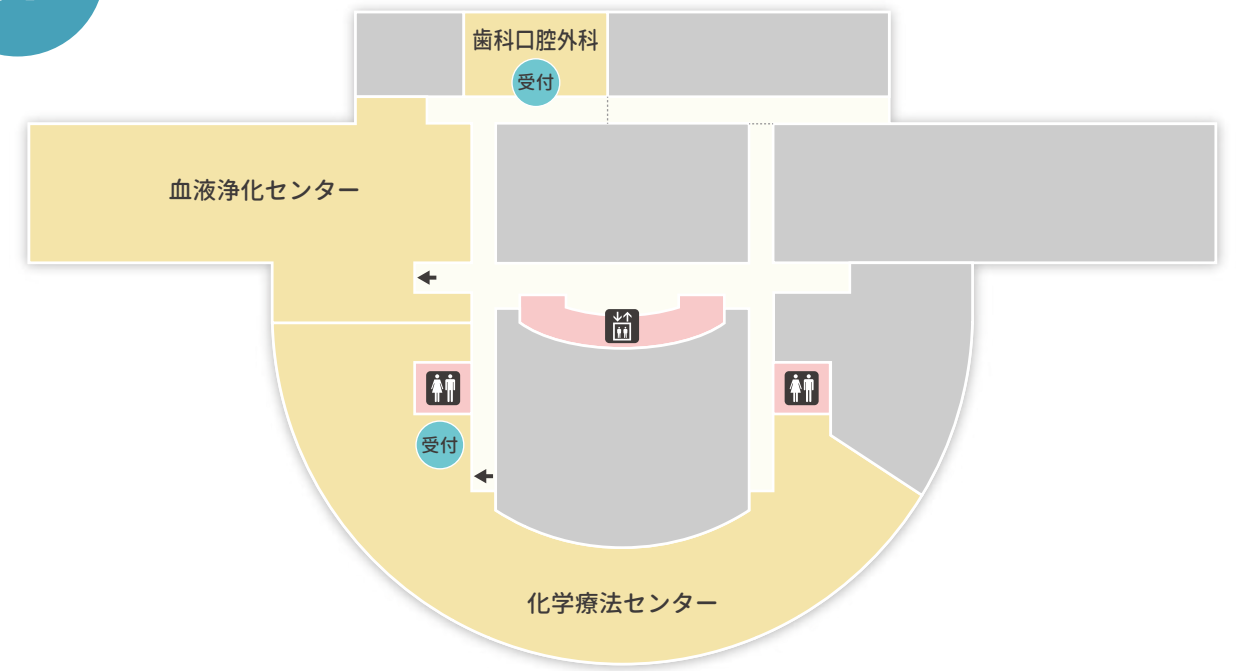
3F



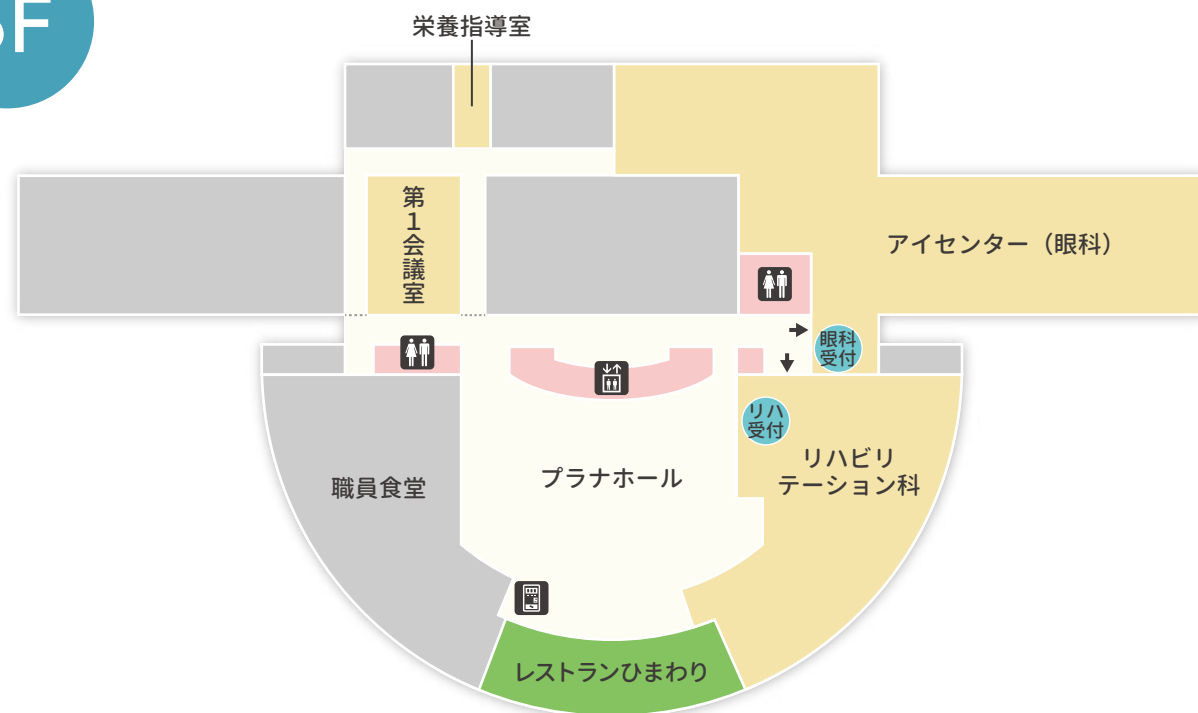
4F



6F



5F

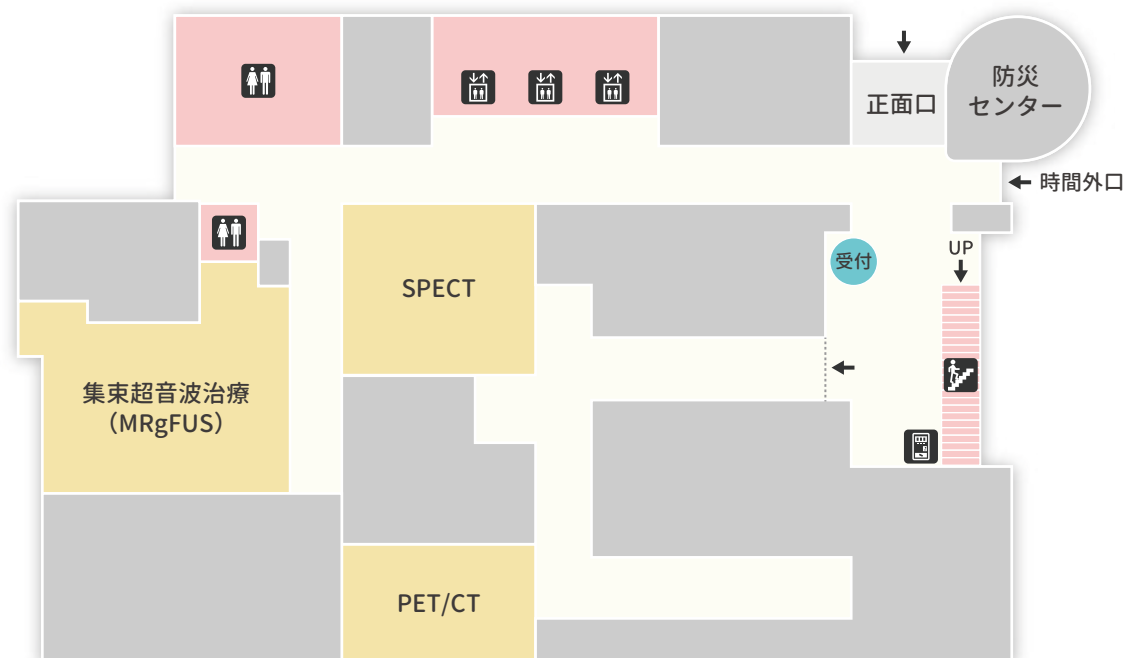


トイレ
 エレベーター
 階段
 飲料自動販売機

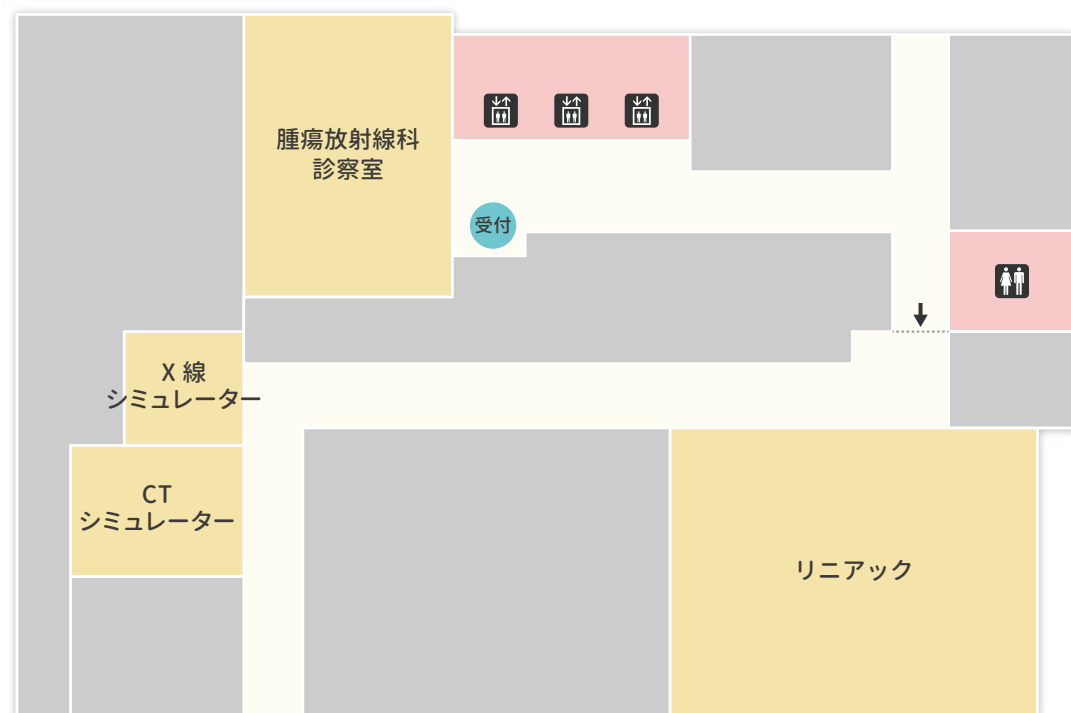
※ 2023年4月現在、本館改装工事を順次行っております。最新のフロアマップはホームページをご確認ください。

外来フロア（新館）の紹介

1F



B1F



トイレル イレベーター 階段 飲料自動販売機

目次

理事長・病院長挨拶 P1
 医学研究所北野病院 概要 P2
 外来フロアの紹介 P4
 目次 P9

地域医療サービスセンター P10

地域医療サービスセンター P11
 ファクシミリ診療予約依頼書 P13
 入退院サポートステーション P14
 登録医制度・開放型病床について P15
 開放型病床入院申込書 P16
 開放型病床入院同意書 P17
 セカンドオピニオンについて P18
 セカンドオピニオン申込書 P19

診療科のご案内 P20

診療センター

救急部 救急科 P21
 消化器センター 消化器内科 P22
 消化器センター 消化器外科 P24
 心臓センター 循環器内科 P25
 心臓センター 不整脈科 P26
 心臓センター 心臓血管外科 P27
 呼吸器センター 呼吸器内科 P28
 呼吸器センター 呼吸器外科 P29
 神経センター 脳神経内科 P30
 神経センター 脳神経外科 P31

内科系診療科

腫瘍内科 P32
 放射線治療センター 腫瘍放射線科 P33
 糖尿病内分泌内科 P34
 腎臓内科 P35
 小児科 P36
 リウマチ膠原病内科 P38
 血液内科 P39
 神経精神科 P40
 緩和ケアセンター / 緩和ケア科 P41

外科系診療科

乳腺外科 P42
 整形外科 P43
 形成外科 P44
 皮膚科 P45
 アイセンター (眼科) P46
 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 P47
 歯科口腔外科 P48
 泌尿器科 P49
 小児外科 P50
 産婦人科 P51

支援系診療科・部門

麻酔科・集中治療部 P52
 中央手術部 P53
 放射線診断科 P54
 病理診断科 P55
 感染症科 P56
 健康管理センター・人間ドック P57
 リハビリテーション科 P58
 栄養部 P59
 看護部 P60
 薬剤部 P61
 支援部門 P62
 支援部門 (チーム医療) P66
 がん診療センター P70
 最新機器紹介 P72

病気の名前から診療科を探す P73

医学研究所北野病院FAQ ～よくある質問～ P89

地域医療 サービスセンター

地域医療サービスセンター

当センターは、地域の医療機関様と連携し、患者さんに高水準かつ一貫性のある医療を迅速に提供することを目的としています。ご紹介いただきます患者さんの診療予約・検査予約のスムーズな手続きなどのサービスを行っています。



主な業務

地域医療係

- 紹介患者さんの受診予約
- かかりつけ医のご紹介
- 当院への転入院相談
- 医療機関からの救急受診手配
- 医療機関からの検査予約

入院係

- 入院に関する各種手続き
- 高額療養制度のご案内
- 出産育児一時金の手続き
- 入院患者さんの病棟へのご案内

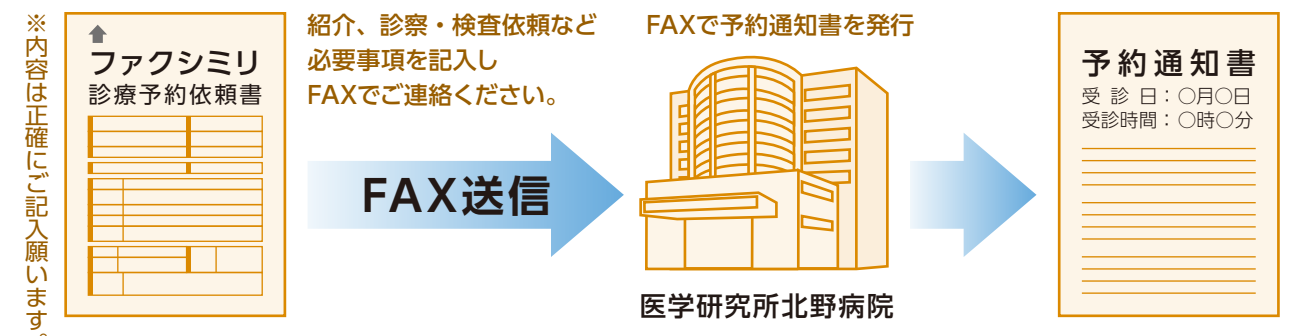
医療相談係

- 在宅退院支援
- 転院支援
- その他相談支援



診察申し込みから当日受付までのフロー

当院に対して診察・検査などのご利用については、地域医療サービスセンターへ「ファクシミリ診療予約依頼書」(13ページ)をFAXでお送りいただきますと、当該診療科・部門と調整を行い、診察・検査日をFAXで「予約通知書」にてご返信いたします。 ※必要に応じて診療情報提供書を取り寄せさせていただくことがあります。



- 患者さんへは、ご受診日当日に「予約通知書」「診療情報提供書」「健康保険証」をお持ちの上、当院1階初診受付の「紹介患者窓口」へお越しいただくよう、ご案内願います。
- 入院治療につきましては、当該診療科をご受診の上、ご症状により、担当医が説明・指示させていただきます。

地域医療サービスセンター

50103D03505

送信先：医学研究所北野病院 地域医療サービスセンター FAX:06-6312-8620

FAX 診察予約依頼書

■紹介元医療機関		記載日：西暦 年 月 日	
名称	医師名	印	
住所 〒	担当者名		
	電話	-	-
	FAX	-	-

■紹介先	
受診科	(医師の指定があれば： 医師)

■患者情報
希望日 ① 月 日 ② 月 日 ③ 月 日
受診歴 <input type="checkbox"/> 有 [ID:] <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 不明
保 険： <input type="checkbox"/> 国保 <input type="checkbox"/> 協会 <input type="checkbox"/> 共済 <input type="checkbox"/> 組合 <input type="checkbox"/> 後期高齢 <input type="checkbox"/> 生保 <input type="checkbox"/> 私費 <input type="checkbox"/> 交通事故 <input type="checkbox"/> 労災 <input type="checkbox"/> 公費 自己負担割合： <input type="checkbox"/> 1割 <input type="checkbox"/> 2割 <input type="checkbox"/> 3割

フリガナ	フリガナ			
氏名	旧姓 (男・女)			
<table border="1"> <tr> <td>実母の名 (必須)</td> <td>記入例 はなこ 花子</td> <td>フリガナ</td> </tr> </table>	実母の名 (必須)	記入例 はなこ 花子	フリガナ	西暦 年 月 日生 歳
実母の名 (必須)	記入例 はなこ 花子	フリガナ		
住所 〒	電話 - -			

現 状 <input type="checkbox"/> 入院中 <input type="checkbox"/> 外来通院中 <input type="checkbox"/> 透析中 (施行曜日：)
来 院 <input type="checkbox"/> 本人 <input type="checkbox"/> 家族のみ ※患者様が来院されない場合は保険適用外。
移動方法 <input type="checkbox"/> ストレッチャー <input type="checkbox"/> 車いす <input type="checkbox"/> 歩行
外国の方 <input type="checkbox"/> 日本語(可・不可) <input type="checkbox"/> 英語(可・不可) <input type="checkbox"/> 通訳同行(可・不可) <input type="checkbox"/> 日本の健康保険証(有・無)

依頼内容 <input type="checkbox"/> 診察(翌日以降の外来・当日救急外来)
★放射線検査は「放射線検査専用の申込書」でお申込み下さい。
<input type="checkbox"/> 検査(エコー：腹部・甲状腺) (上部内視鏡：経口・経鼻 抗血栓薬：(無・有[薬剤名]))
★鎮静希望は、まず消化器内科の外来を受診して下さい。

病名・症状 ★かならず「診療情報提供書(紹介状)」を添付送信して下さい。

.....

.....

.....

受付：月～金 8:45～19:00

休診日：土・日・祝日・12月29日～1月3日

2023年4月1日より、土曜日は原則休診日となりました(小児外科外来、漏斗胸外来除く)

受付時間終了後の申込みは「翌日のお返事」となります。
問合先：地域医療サービスセンター TEL 06-6131-2955(直通)

予約可能な検査

医学研究所北野病院では、地域の医療機関から各種検査のみの直接予約をお受けしています。

- 検査結果は、ご依頼いただいた医療機関宛に郵送いたします。
- ご依頼元の医療機関より、検査を受けられた患者さんへ結果のご説明・ご報告をお願いいたします。
- お申し込み書類は、当院ホームページの地域医療サービスセンター → 診療・検査予約ページよりダウンロードいただけます。

	申し込み方法	
CT	放射線検査申込書 兼 診療情報提供書に必要事項をご記入の上、地域医療サービスセンターへ FAXで送信してください。	【地域医療サービスセンター】 電話番号 06-6131-2955(直通) FAX番号 06-6312-8620(直通) 受付時間 ● 月曜～金曜 / 8:45～19:00
MRI		
PET	※希望日時・・・決定した検査日時 ※紹介目的・・・依頼検査項目	
RI	① 放射線科にお電話の上、検査日時の決定をしてください。	② 地域医療サービスセンターへお電話にてご連絡ください。
骨密度		
インプラント	【放射線科受付】 電話番号 06-6312-8840(直通)	【地域医療サービスセンター】 電話番号 06-6131-2955(直通) FAX番号 06-6312-8620(直通)
胃透視	受付時間 ● 月曜～金曜 / 8:45～17:25	受付時間 ● 月曜～金曜 / 8:45～19:00
注腸透視		
腹部エコー	診察依頼書に必要事項をご記入の上、地域医療サービスセンターへ FAXで送信してください。	【地域医療サービスセンター】 電話番号 06-6131-2955(直通) FAX番号 06-6312-8620(直通)
甲状腺エコー		
胃内視鏡(鎮静なし)	※依頼される検査項目を、紹介目的の欄にご記載ください。 ※大腸内視鏡検査の場合、まず消化器内科の診察予約のご案内をさせていただきます。	受付時間 ● 月曜～金曜 / 8:45～19:00

お問い合わせ

地域医療係

TEL.06-6131-2955
FAX.06-6312-8620

〈受付時間〉

- 月曜日～金曜日 / 8:45～19:00

医療相談係

TEL.06-6131-2956

※FAXは24時間受信していますが、受付時間後のFAXは、翌営業日のお返事となります。

〈受付時間〉

- 月曜日～金曜日 / 8:45～17:25

入退院サポートステーション

当院は、PFM(Patient Flow Management)※を導入しています。具体的な介入は、予定入院の患者さんの健康状態・生活背景を把握し、多職種とのチーム連携で問題解決を行いながら、入院前から退院後までの流れをマネジメントしています。

※ PFM：入院前から退院後までの流れの管理を行います。



入退院サポートステーションの方針

① 標準化した入院・手術のマネジメント

- クリニカルパスを使用することで入院期間・治療の標準化を図ります。患者さんには外来の段階で患者さん用のクリニカルパスを用いて入院前から治療や経過などの教育をさせていただきます。

予定入院患者さんにクリニカルパスを使用

入院日数の
目安が分かる

患者パス使用
患者教育



② 入院前から多職種連携のマネジメント

入院前から多職種連携し、患者満足度の上昇に向け質の高い安全・安心な医療を提供させていただきます。

- **看護師**
患者さん情報の聴取、入院生活に関する説明、患者パスの説明
- **薬剤師**
服薬中の薬剤確認、中止薬の説明
- **栄養士**
食物アレルギーの確認、栄養・嚥下の確認
- **MSWや認定看護師など**
社会資源や介護に関する情報提供、退院後の生活に関する相談



③ 地域連携パスによるかかりつけ医との連携

急性期病院として、治療後は逆紹介によりかかりつけ医と連携を強化させていただきます。2人の主治医が連携しているという安心感を患者さんにご提供させていただきます。

〈入退院サポートステーションで運用中の地域連携パス〉

- 大腸がんパス ● 乳がんパス
- 胃がんパス ● 心不全パス
- 胃ESDパス



きたのん



サポちゃん

登録医制度・開放型病床について

登録医制度について

当院の登録医は、当院の理念と本制度の趣旨を賛同・承諾の上、当院制定の登録医届出書を提出された方のうち、当院病院長が認定した方を指します。本制度は、当院が登録医からの紹介患者さんに対して、高水準かつ一貫性のあるより良い医療を提供するために、診療の連携と医療技術の向上および研鑽に努めることを目的としています。

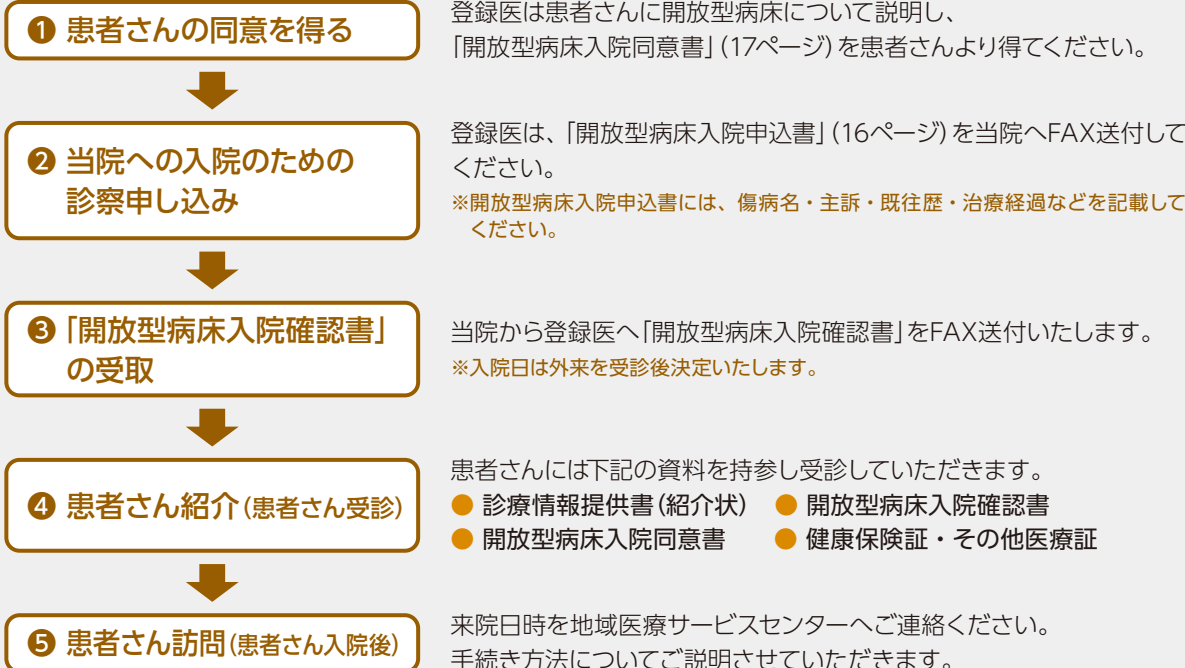
※登録医としての認定期間は登録後1年間としており、当事者のどちらか一方より、何らかの異議がなければ自動更新しています。
※北野病院または開放型病床運営協議会が、登録医として不適切と判断した場合には、その時点で登録を抹消することがございます。

登録を希望いただける場合、地域医療サービスセンターへご連絡をお願いいたします。
必要書類を送付させていただきます。

開放型病床について

「開放型病床」とは、地域医療機関の登録医と当院の医師が共同して患者さんの治療を行える病床のことを指します。高水準かつ一貫性のある医療を地域住民に提供することを目的としています。

ご利用方法



登録医制度・開放型病床についてのお問い合わせは

地域医療サービスセンター

TEL.06-6131-2955
FAX.06-6312-8620

〈受付時間〉

- 月曜日～金曜日 / 8:45～19:00

西暦 年 月 日

開放型病床入院申込書

公益財団法人田附興風会 医学研究所北野病院
地域医療サービスセンター御中

受診科	医師名
科	先生
紹介元医療機関	TEL
	FAX
医師名	
受診希望日： 西暦 年 月 日 ()	

フリガナ		性別	被保険者	続柄
患者氏名		男・女		
生年月日	明・大・昭・平	年 月 日 生れ (歳)		
住所	〒 TEL ()			
保険番号		公費負担番号		
記号・番号		受給者番号		
本人・家族	本人・家族	入院： 割・外来： 割	一部負担金	1割・2割・一部負担助成

【傷病名】
【紹介目的】
【既往症・家族歴】
【症状の治療・経過及び検査結果】
【現在の処方】
【備考】

開放型病床入院同意書

紹介医療機関名： _____

医 師 名： _____

この度、開放型病床についての説明を十分に聞き納得しましたので、公益財団法人田附興風会 医学研究所北野病院の開放型病床に入院する事に同意いたします。

_____年 月 日

住 所 _____

電 話 _____

氏 名 _____

代理人 _____ (続柄 _____)

セカンドオピニオンについて

50103D03001

当院では、「セカンドオピニオン」として、現在の診療内容や治療方針について主治医以外の専門医が意見を提供し、患者さんやそのご家族さんに治療法を選択する際の参考にさせていただいています。

下記の事例での相談は受け付けていません

- 主治医が了解していない場合
 - 現在受診中の病院・主治医に対する不満
 - 医療過誤および裁判係争中に関する相談
 - 医療費の内容、医療給付に関わる相談
 - 死亡された患者さんを対象とする場合
 - 患者さん・ご家族さん以外からの相談
 - 相談内容が、当院の専門外の場合
 - 「診療情報提供書」、検査データ、画像データなどの資料、また当院が指定した資料をお持ちでない場合
- ※当院で診療を受けており、他院でのセカンドオピニオンをご希望される場合、主治医にご相談ください。

料金 一回 **3万3,000円** (税込) ※相談時間は30分～1時間程度

お申し込み方法

① セカンドオピニオン利用申し込み

- お申し込みは医療機関からのみ受け付けています。患者さんからの直接のお申し込みは受け付けていません。
- セカンドオピニオンは原則、予約が必要となります。
- 患者さんの「診療情報提供書(紹介状)」・検査データ・画像データなどの資料をお手元にご準備ください。
- セカンドオピニオン申込書(19ページ)に必要な事項を記入の上、FAXにてお送りください。

FAX. 06-6312-8620

② 日程の調整

お送りいただいた申し込み内容を担当診療科の専門医師が確認し、相談が可能かどうかを判断させていただきます。その後、相談日時を決定し、ご連絡いたします。

- ※お申し込みいただいてから相談までに、数日かかる場合がございます。
- ※確認事項などがある場合、お電話にてご連絡をさせていただく場合がございます。
- ※ご相談内容・診療科により、前もって「診療情報提供書(紹介状)」をお届けいただく場合がございます。
- ※内容によっては、通常の外来受診のご案内や、セカンドオピニオンをお断りさせていただく場合もあります。あらかじめご了承ください。

③ セカンドオピニオン当日

相談日当日は予約時間の10分前に、資料一式をお持ちの上、当院1階・地域医療サービスセンターまでお越しください。

オンライン・セカンドオピニオンを始めました

詳しくは当院ホームページをご確認ください。
https://www.kitano-hp.or.jp/section/local/online_2nd



セカンドオピニオン申込書

(医療機関からのみ申込みができます)

申込日 西暦 年 月 日

■ご紹介医療機関の情報

医療機関名			
所属部署		事務担当	
住所	〒		
TEL	()	FAX	()

■患者様の情報

フリガナ				生年月日		
氏名	男・女	西暦	年	月	日	歳
当院受診歴	有	無	当院ID			
住所・TEL	〒			TEL	()	
希望する診療科	科 (希望の医師があれば)			医師		
都合の悪い日時						
相談事項	※必ず診療情報提供書(紹介状)を添えてお申込みして下さい。					
持参資料	<ul style="list-style-type: none"> ・診療情報提供書(紹介状) ・画像データ(CT MRI X線フィルム) ・検査データ(血液 病理 内視鏡 エコー) ・カルテの写し 					

FAX番号 06-6312-8620
TEL番号 06-6131-2955
医学研究所北野病院 地域医療サービスセンター

診療科のご案内

救急部 救急科

救急指定病院として24時間365日、皆さまに安心と信頼を提供します。
微力ながら地域医療に尽力して参りたいと考えています。

強い熱意と誠意をもって救急医療に取り組む

今日の救急医療現場では、年齢、性別、重症度、罹患臓器に関わらず、短時間での対応を迫られる場合が多く、従来の各診療科での縦割り方式では対応できない場面が多くみられます。当院救急科は、あらゆる領域の救急患者さんの初期診療に対し適切な診断と治療を行い、強い熱意と誠意をもって救急医療に取り組んでいます。

救急科を受診される際のお願い

当院での受診を希望される場合は、必ず前もってお電話をいただきますようお願いいたします。
患者さんには迅速かつ安心していただけるような診療を心がけていますが、重症の患者さんが来られた場合には、すぐには診察ができずご迷惑をおかけすることがあります。
また、他病院へのご紹介をさせていただかなければならないこともありますので、ご容赦のほど宜しくお願い申し上げます。

救急医療体制

救急外来エリアには重症患者さんの集学的な治療が行える初期治療室および救急処置ブース13床(新型コロナウイルス感染症に対応可能な3床含む)を有しています。
時間内は救急科専従医(日本救急医学会指導医1名、専門医1名含む)の医師が1次~3次救急(循環器、脳血管障害など)患者さんの初期診療に当たり、各診療科と連携することで患者さんの治療戦略を立てています。
時間外では専門的な検査・治療が必要となる症例に備えて、すべての科がバックアップ待機体制を敷いています。

スタッフ紹介



主任部長

平川 昭彦 (ひらかわ あきひこ)

〈専門領域〉

- 救急全般 ■ 外傷 ■ 中毒
- 熱傷 ■ 災害医療

資格など

- 医学博士
- 日本救急医学会認定指導医
- 日本腹部救急学会認定教育医
- 日本中毒学会認定トキシコロジスト
- 日本職業・災害医学会認定労災補償指導医
- 日本職業・災害医学会認定海外勤務保健管理指導医
- 日本DMAT・統括DMAT隊員
- 名古屋市立大学医学部 客員教授
- プログラム責任者養成講習会修了
- 日本救急医学会認定専門医
- 日本外科学会専門医
- 日本外傷学会認定専門医
- 日本AcuteCareSurgery学会認定外科医
- 災害医療コーディネーター
- 臨床研修指導医講習会修了

(所属医師・スタッフ)

医師名	役職	資格など
王 徳雄(おう とくお)	医員	日本救急医学会認定専門医
木内 俊一郎(きうち しゅんいちろう)	非常勤医師	日本救急医学会認定専門医

診療対象となる主な疾患

- 1次から3次救急疾患(循環器、脳血管障害など)に対応

※左記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

受付について

時間内

- 平日 / 8:45 ~ 17:25

地域医療サービスセンター(TEL: 06-6131-2955)にご連絡ください。地域連携担当者(看護師・事務)が対応致します。

時間外

左記時間以外および土曜・日曜・祝日・年末年始
時間外受付(TEL: 06-6312-1221)にご連絡ください。

救急
消内
消外
循内
不整脈
心外
呼内
呼外
脳内
脳外
腫内
放治療
糖内
腎内
小児
リ膠
血内
精神
緩和
乳腺
整形
形成
皮膚
眼科
耳鼻
齒科
泌尿
児外
産婦
麻酔
手術
放診断
病理
感染
健診
リハ
栄養
看護
薬剤
支援
チーム
がん

がんの死亡者数で1番多いのは肺がんですが、2~6番目は大腸がん、胃がん、膵臓がん、肝臓がん、胆嚢・胆管がんが続きます。コロナの影響で患者さんが受診控えをしがちですが、おかしいかなと思ったら気軽に検査を受けて患者さんを安心させてください。

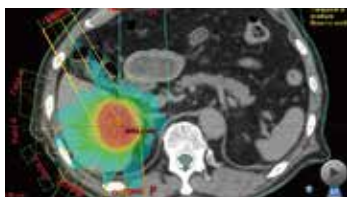
やはり多い消化管のがん (食道、胃、十二指腸、大腸)

がんの罹患数は1位が大腸がん、2位が胃がんで年々増加傾向となっています。当院では早期の消化管がんに対しては、積極的に内視鏡治療を行っています。病気の早期発見・早期治療のため、定期的な内視鏡検査の程宜しく願います。



肝臓がんに対する定位放射線治療

肝臓がんの局所治療のひとつとして放射線治療科と高精度放射線照射治療を開始しました(2021年9月末から)。肝腫瘍近傍に経皮的に埋め込んだ金属マーカーを認識することで、呼吸で肝臓が移動してもより正確な照射が可能となりました。耐術能が低下している高齢者などが良い適応と考えていますのでご紹介ください。



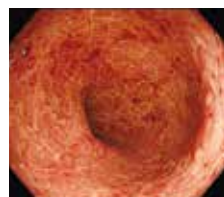
胆膵疾患：QOLを保つための超音波内視鏡下胆道ドレナージ

経乳頭的胆道ドレナージ困難例では、超音波内視鏡を使用して経胃的に肝内胆管(EUS-HGS)もしくは経十二指腸的に胆管/胆嚢(EUS-CDS/GBD)にステントを留置しています。経皮チューブが出ないのでQOLを保つことができる処置です。特に手術適応のない高齢の急性胆嚢炎患者に対する治療として有用です。



増加し続けている炎症性腸疾患 (IBD: inflammatory bowel disease)

IBD患者は未だに増加傾向で、2014年末の時点で潰瘍性大腸炎が17万人、クローン病が4万人を超えています。長期間にわたる原因不明の腹痛や下血などの患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介をお願いします。



診療対象となる主な疾患

食道

- 食道がん
- 食道静脈瘤
- 食道粘膜下腫瘍
- 逆流性食道炎

胃

- 胃潰瘍
- 胃ポリープ
- 胃炎
- 胃がん
- 胃マルトリリンパ腫
- 胃粘膜下腫瘍
- 胃悪性リンパ腫
- 胃静脈瘤
- 上部消化管出血

十二指腸

- 十二指腸潰瘍
- 十二指腸腫瘍
- 十二指腸乳頭部腫瘍

小腸

- 原因不明の消化器出血
- 小腸腫瘍
- クローン病
- 小腸結核
- 非特異性小腸潰瘍
- 腸管ペーチェット病

大腸

- 大腸がん
- 大腸ポリープ
- 潰瘍性大腸炎
- 下部消化管出血
- 感染性腸炎
- 大腸憩室
- 虫垂炎
- 腸管ペーチェット病

肝臓

- 急性肝炎
- 慢性肝炎
- 劇症肝炎
- ウイルス性肝炎(B型・C型など)
- 肝臓がん
- 肝内胆管がん
- 肝細胞がん
- 肝嚢胞
- 肝腫瘍
- 肝良性腫瘍
- 急性肝不全
- 肝硬変
- 原発性胆汁性肝硬変
- 脂肪肝
- 薬物性肝障害
- ウィルソン病
- 肝不全
- 肝腫瘍
- 自己免疫性肝疾患
- 非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)
- ヘモクロマトーシス
- 特異性門脈圧亢進症

胆嚢・胆管

- 急性胆嚢炎
- 胆嚢ポリープ
- 胆嚢結石
- 総胆管結石
- 胆嚢がん
- 胆管がん
- 閉塞性黄疸
- 胆石
- 胆管結石
- 原発性硬化性胆管炎
- 膵臓
- 急性膵炎
- 慢性膵炎
- 膵石
- 膵臓がん
- 膵内分泌系腫瘍

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

スタッフ紹介



主任部長 兼 低侵襲治療センター長
兼 消化器センター副センター長

八隅 秀二郎(やずみ しゅうじろう)

〈専門領域〉

- 消化器一般
- 胆膵領域の疾患の診断・治療

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本内科学会認定総合内科専門医
- 日本消化器病学会認定専門医
- 日本消化器病学会 評議員
- 日本消化器内視鏡学会認定専門医
- 日本消化器内視鏡学会 評議員
- 日本胆道学会指導医
- 日本がん治療認定医機構 暫定教育医
- 京都大学医学部臨床教授
- 日本内科学会認定指導医
- 日本消化器病学会認定指導医
- 日本消化器病学会 近畿支部評議員
- 日本消化器内視鏡学会認定指導医
- 日本消化器内視鏡学会 近畿支部評議員
- 日本膵臓学会指導医



部長
高 忠之(こう ただゆき)

〈専門領域〉

- 消化器がんの薬物治療
- がんゲノム医療

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本内科学会認定総合内科専門医
- 日本消化器病学会認定専門医
- 日本消化器内視鏡学会認定専門医
- 日本肝臓学会認定指導医
- 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
- 日本内科学会認定内科医
- 日本内科学会認定指導医
- 日本消化器病学会認定指導医
- 日本肝臓学会認定専門医
- 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医

(所属医師・スタッフ)

医師名	役職	専門領域
山内 淳嗣(やまうち あつし)	副部長	消化器内科一般、消化管疾患の診断・治療
栗山 勝利(くりやま かつとし)	副部長	消化器一般、胆膵領域の疾患の診断・治療
東 俊二郎(あずま しゅんじろう)	副部長	消化器内科一般、胆膵領域の疾患の診断・治療
廣橋 研志郎(ひろはし けんしろう)	副部長	消化器一般、消化器がんの診断と治療
森田 敏広(もりた としひろ)	副部長	消化器内科一般、胆膵領域の疾患の診断・治療

医師名	役職	医師名	役職	医師名	役職
吉川 貴章(よしかわ たかあき)	医員	池谷 桃子(いけたに ももこ)	専攻医	川口 清隆(かわぐち きよたか)	非常勤医師
中神 聡太(なかかみ そうた)	医員	山本 真也(やまもと しんや)	専攻医	高橋 健(たかはし けん)	非常勤医師
川井 祐弥(かわい ゆうや)	医員	伊丹 久実(いたみ くみ)	専攻医	吉野 琢也(よしの たくや)	非常勤医師
伊藤 凌(いとう りょう)	医員	小坂 太郎(こさか たろう)	専攻医	飯森 啓(いもり けい)	非常勤医師
森 雄貴(もり ゆうき)	医員	大薄 直也(おおすき なおや)	専攻医		
大沢 一希(おおさわ かずき)	医員	長江 麻由(ながえ まゆ)	専攻医		

消化器センター 消化器外科

患者さんやご家族にとって最善の外科的治療が提供できるように、**スタッパー丸「ワンチーム」**で診療に取り組んでいます。



高度な専門的外科診療と腹腔鏡手術適応拡大に向けた取り組み

上部消化管・下部消化管・肝胆膵の各領域に特化した診療経験豊富な指導医のもとに、専門性の高い最新の外科診療を行っています。手術については、低侵襲手術である腹腔鏡手術の適応を拡大し、ロボット支援手術も導入しています。ぜひご相談ください。

地域との積極的な病病・病診連携

がん地域連携パスなどを用いたチームとしての地域医療病々病診連携のシステム構築をめざしています。綿密な報告・連絡・相談を実践し「気持ちを通じ合える連携」が生まれるように努力します。

多職種/多部門を交えたチーム医療

多くの専門的知識と臨床経験を有する上級医と若手医師の複数で患者さんを担当する「チーム診療体制」を取っており、症例によっては多職種/多部門による横断的協議(消化器センターカンファレンス、カンサーボードなど)で診療方針を決定しています。

集学的治療によるブレイクスルー

切除不能な高度進行悪性腫瘍に対し、化学療法や化学放射線療法により腫瘍縮小が得られ、切除可能になった集学的治療有効症例(食道がん、大腸がん、膵がん、転移性肝がんなど)も多数経験しています。

スタッフ紹介



副院長 兼 主任部長
兼 消化器センター長 兼 がん診療センター長
兼 地域医療サービスセンター長

寺嶋 宏明(てらじま ひろあき)

〈専門領域〉

- 肝胆膵外科
- 肝がん・胆道がん・膵がん
- 消化器外科
- ヘルニア外科

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本外科学会認定指導医
- 日本消化器外科学会認定指導医
- 日本肝胆膵外科学会高度技能指導医
- 近畿外科学会評議員
- 京都大学先端・国際医学講座客員准教授
- 京都大学医学部臨床教授
- 優秀専門臨床医 2021-2024
- 緩和ケア研修修了
- 日本外科学会認定専門医
- 日本消化器外科学会認定専門医
- 日本消化器外科学会消化器がん治療認定医
- 日本肝胆膵外科学会評議員
- 京都大学先端・国際医学講座客員准教授

資格など

- 医学博士
- 日本外科学会認定医
- 日本外科学会認定指導医
- 日本消化器外科学会認定専門医
- 日本消化器外科学会消化器がん治療認定医
- 日本肝胆膵外科学会高度技能専門医
- 京都大学医学部附属病院医師臨床研修指導医講習会修了
- 京都府緩和ケア研修会修了
- 日本外科学会認定専門医
- 日本移植学会認定移植認定医
- 日本消化器外科学会認定指導医
- 日本消化器外科学会消化器がん治療認定医
- 日本肝胆膵外科学会認定指導医
- 日本肝胆膵外科学会評議員
- 京都大学医学部附属病院医師臨床研修指導医講習会修了
- 近畿外科学会評議員
- 京都大学医学部臨床教授

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
福田 明輝(ふくだ めいき)	副部長	大腸外科、消化器外科、結腸がん・直腸がん、腹腔鏡手術、腹部救急
田中 英治(たなか えいじ)	副部長	食道・胃外科、内視鏡外科、消化器外科、ヘルニア外科
井口 公太(いぐち こうた)	副部長	肝胆膵外科、肝がん・胆道がん・膵がん、消化器外科

医師名	役職	医師名	役職	医師名	役職
奥知 慶久(おくち よしひさ)	医員(北野カデット)	山本 健人(やまもと たけひと)	医員(北野カデット)	大下 恵樹(おおしも よしき)	専攻医
河合 隆之(かわい たかゆき)	医員	久野 晃路(ひさの こうじ)	医員	中能 玲央(なかの れお)	専攻医
仲野 健三(なかの けんぞう)	医員				

診療対象となる主な疾患

食道	大腸	胆道	慢性膵炎	消化管間葉系腫瘍
<ul style="list-style-type: none"> 食道がん 食道裂孔ヘルニア 逆流性食道炎 特発性食道破裂 	<ul style="list-style-type: none"> 大腸狭窄 大腸憩室症 虫垂炎 虫垂腫瘍 直腸脱・肛門脱 痔核・痔瘻・痔裂 	<ul style="list-style-type: none"> 胆管がん(肝門部胆管がん、肝外胆管がん) 胆嚢がん 乳頭部がん 胆石症(胆嚢結石、胆管結石) 胆嚢炎(急性/慢性) 胆嚢腺筋腫症 胆嚢ポリープ 総胆管拡張症 膵管胆管合流異常 	<ul style="list-style-type: none"> 膵管癒合不全 外傷性膵破裂 脾臓 脾腫 脾腫瘍 外傷性脾破裂 ヘルニア 鼠径ヘルニア 大腿ヘルニア 膈ヘルニア 腹壁癒痕ヘルニア 腫瘍 消化管悪性リンパ腫 	<ul style="list-style-type: none"> (GIST) 神経内分泌腫瘍 後腹膜腫瘍 救急・その他 急性腹症 腸閉塞 腹膜炎 腹腔内出血 消化管出血 内臓動脈瘤(肝動脈瘤、脾動脈瘤など) 後腹膜腫瘍
<ul style="list-style-type: none"> 胃・十二指腸・小腸 胃がん 胃・十二指腸潰瘍 十二指腸がん 小腸腫瘍 大腸 大腸(結腸・直腸)がん 潰瘍性大腸炎 クローン病 	<ul style="list-style-type: none"> 肝臓 原発性肝がん(肝細胞がん、肝内胆管がん など) 肝内胆管がん 転移性肝がん 良性肝腫瘍 外傷性肝破裂 肝内結石症 	<ul style="list-style-type: none"> 急性膵炎 膵臓 膵がん 急性膵炎 		

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

心臓センター 循環器内科

致命的な疾患に対して迅速に高度な専門医療を提供します。
新しく第2心カテ室が稼働し、一層地域医療に貢献します。

経皮的冠動脈インターベンション(PCI)

冠動脈造影におけるFFR測定、冠動脈CTにおけるFFR測定(FFR CT)、負荷心筋シンチにおける心筋虚血を精査しPCI適応を正確に判断しています。最良の予後を達成すべく血管内エコーなどで病変を精密に評価しロータブレードなどの高度な治療機材を駆使して治療を行っています。

高齢心不全患者の早期退院の取り組みと地域心不全チーム医療

入院早期からのリハビリテーション、入院中の患者教育、退院後の生活のサポートを行って早期退院と再入院減少を達成しています。このような先進的な取り組みを「大阪心不全地域医療連携の会OSHEF」を通じて広い地域で活用いただいています。

下肢閉塞性動脈硬化症の治療

間欠性跛行を有する患者さんの治療のみならず、近年増加しつつある重症下肢虚血の症例にも取り組んでいます。完全閉塞病変に対する高度な血行再建を施行することに加えて、皮膚科、形成外科とのチーム医療でできる限り足趾を温存できるように心がけています。

ダイレクトコール

患者さんのご紹介、相談につきましては
ご遠慮なく下記までお電話ください。

- 循環器内科 主任部長 **06-6131-2817**
- 循環器内科 日直・当直 **06-6131-2818**
(1につながらないとき、夜間、休日)

スタッフ紹介



循環器内科 主任部長
兼 心臓センターセンター長

猪子 森明(いのこ もりあき)

〈専門領域〉

- 心不全
- 虚血性心疾患

資格など

- 医学博士
- 日本内科学会認定総合内科専門医
- 日本循環器学会認定循環器専門医
- 日本心血管インターベンション治療学会名誉専門医
- 京都大学臨床教授
- 徳島大学臨床教授
- Best Doctors in Japan™ 2022-2023

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
中根 英策(なかね えいさく)	副部長	心不全、虚血性心疾患、運動療法
福田 弘毅(ふくだ ひろき)	副部長	心不全、虚血性心疾患
山地 雄平(やまぢ ゆうへい)	副部長	冠動脈、抹消血管のインターベンション治療
北野 真理子(きたの まりこ)	副部長	心臓弁膜症、心エコー
伊藤 慎八(いとう しんや)	副部長	心臓弁膜症、虚血性心疾患、心不全、心エコー

医師名	役職	医師名	役職	医師名	役職
濱口 桃香(はまぐち とうか)	医員	原 諒輔(はら りょうすけ)	専攻医	加藤 貴雄(かとう たかお)	非常勤医師
齊藤 亘(さいとう わたる)	医員	長谷川 雄平(はせがわ ゆうへい)	専攻医		
山本 裕貴(やまもと ゆうき)	医員				

診療対象となる主な疾患

<ul style="list-style-type: none"> 感染性心内膜炎 急性動脈閉塞 狭心症 大動脈瘤 	<ul style="list-style-type: none"> 高血圧 心筋炎 心筋梗塞 心筋症 	<ul style="list-style-type: none"> 心臓腫瘍 心臓弁膜症 深部静脈血栓症 心不全 	<ul style="list-style-type: none"> 先天性心疾患 大動脈解離 肺血栓塞栓症 閉塞性動脈硬化症
--	---	---	---

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

心臓センター 不整脈科

全ての不整脈疾患に対応し、先進医療を提供しています。また、全ての心臓ペースメーカー、植込み型心臓除細動器などの心臓デバイス手術を行い、遠隔モニタリングシステムを活用して、外来患者管理を行っています。



2023年度より新規導入した
リズムマッピングシステム

頻脈性不整脈(心房細動、心室頻拍)に対するアブレーション治療

他施設に先んじて、持続性心房細動へのアブレーション治療(高周波・クライオ)に取り組み、心不全患者さんの治療オプションとして確立させています。また、最新のカルト、リズムア、エンサイトなどを駆使して、複雑な回路の心房粗動、心室頻拍にもアブレーションを積極的にを行っています。

ダイレクトコール

患者さんのご紹介、相談につきましては
ご遠慮なく下記までお電話ください。

1. 不整脈科 主任部長 **06-6131-2709**
2. 不整脈科 日直・当直 **06-6131-2818**
(1につながらないとき、夜間、休日)

スタッフ紹介



不整脈科 主任部長
春名 徹也 (はるな てつや)

〈専門領域〉

- 不整脈 ■ カテーテルアブレーション治療
- ペースメーカー植込手術・管理
- 植込み型心臓除細動器手術・管理 ■ 心臓再同期療法

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本内科学会認定総合内科専門医
- 日本循環器学会認定循環器専門医
- 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医
- 植込み型心臓除細動器(ICD)/CRT研修修了登録医

(所属医師・スタッフ)

医師名	役職	専門領域
張田 健志 (はりた たけし)	副部長	不整脈、カテーテルアブレーション治療、ペースメーカー植込手術・管理 植込み型心臓除細動器手術・管理、心臓再同期療法

医師名	役職	専門領域
木村 光輝 (きむら こうき)	医員	不整脈、カテーテルアブレーション治療、ペースメーカー植込手術・管理 植込み型心臓除細動器手術・管理、心臓再同期療法

診療対象となる主な疾患

● 遺伝性不整脈	● 心臓ペースメーカー植込み	● 心室頻拍	● 房室ブロック
● 期外収縮	● 心臓植込み型心臓除細動器	● 洞不全症候群	● 発作性上室性頻拍症
● 左脚ブロック	● 心房細動	● 頻脈性不整脈	● WPW症候群
● 失神	● 心室細動	● プルガダ症候群	● QT延長症候群
● 心電図異常			

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

心臓センター 心臓血管外科

ハイボリュームセンターで培ったノウハウを活用し
安心安全な手術を提供しています。

成人心臓・大血管手術すべてに対応します

心臓血管外科では成人の冠動脈疾患、弁膜症、大動脈疾患、末梢動脈疾患すべてに対応いたします。狭心症・心筋梗塞に対する単独冠動脈バイパス術では心停止下、心拍動下冠動脈バイパス術を患者さんの病態に合わせて選択します。僧帽弁閉鎖不全症に対しては可能な限り自分の弁を温存、修復する僧帽弁形成術を積極的に行い、抗凝固薬(血液をさらさらにする薬)をできるだけ飲まなくて済むよう、患者さんの生活の質を低くさせないよう努めています。大動脈疾患に対しては高齢の患者さんには身体への負担の少ないステントグラフトによる治療も行っています。今後は大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)など低侵襲治療の導入もめざします。

総合病院の強み

北野病院では、循環器内科、不整脈科、心臓血管外科が心臓センターという一つのチームでひとりひとりの患者さんについて議論し最善の治療を提供しています。そして呼吸器内科外科、糖尿病内分泌内科、腎臓内科(透析)、消化器内科・外科をはじめ多くの診療科がそろった総合病院であり、総合力で術前術後の治療を行っています。伝統的に心臓リハビリにも力をいれており、早期回復のお手伝いをしています。患者さんに安心して手術を受けていただけるよう医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士、薬剤師、管理栄養士、放射線技師など多職種が力を合わせて治療にあたっています。



ダイレクトコール

患者さんのご紹介、相談につきましては
ご遠慮なく下記までお電話ください。

心臓血管外科 主任部長

06-6131-2904

スタッフ紹介



主任部長 兼 心臓センター副センター長
兼 臨床工学部長
金光 ひでお (かねみつ ひでお)

〈専門領域〉

- 成人心臓血管外科

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本外科学会認定専門医
- 日本外科学会認定指導医
- 日本心臓血管外科学会認定専門医
- 日本心臓血管外科学会認定修練指導医
- 植込型補助人工心臓実施医



特任部長
荻野 均 (おぎの ひとし)

〈専門領域〉

- 心臓血管外科、外科手術

資格など

- 日本外科学会認定外科専門医
- 日本外科学会認定外科指導医
- 日本胸部外科学会認定認定医
- 日本胸部外科学会認定指導医
- 日本心臓血管外科学会認定心臓血管外科専門医
- 日本心臓血管外科学会認定心臓血管外科修練指導医
- 日本循環器学会認定専門医
- 日本脈管学会認定脈管専門医
- 植込型補助人工心臓実施医

(所属医師・スタッフ)

医師名	役職	専門領域
熊谷 基之 (くまがい もとゆき)	副部長	心臓・大血管外科治療、末梢血管の外科治療

医師名	役職
川東 正英 (かわとう まさひで)	非常勤医師

診療対象となる主な疾患

冠動脈疾患に対する外科治療

- 冠動脈バイパス術
- 心拍動下冠動脈バイパス術

弁膜症に対する外科治療

- 大動脈弁置換術
- 僧帽弁形成術
- 三尖弁形成術
- 大動脈弁温存基部置換術
- ベントール手術

大動脈瘤に対する外科治療

- 弓部大動脈瘤人工血管置換術
- 胸部大動脈瘤ステントグラフト治療
- 腹部大動脈瘤人工血管置換術
- 腹部大動脈瘤ステントグラフト治療

末梢血管に対する外科治療

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

呼吸器センター 呼吸器内科

常に最新で、かつ患者さん中心の優しい医療を提供していきます。
COVID-19対応でも地域の心強い砦になればと思います。



多彩な呼吸器疾患に対して最新の医療を提供するとともに、全人的な診療をめざします

肺がん、肺炎、喘息・COPD、間質性肺疾患、呼吸不全、睡眠時無呼吸症候群など多彩な呼吸器疾患に対して最新の医療を提供するとともに、複雑な病態や併存症を有した患者さんに対してもチーム医療や他科との密な連携により全人的な診療をめざします。

間質性肺疾患患者において新しい診療スタイルをめざします

特発性肺線維症(IPF)は原因不明の予後不良疾患として知られていますが、慢性過敏性肺炎などの鑑別が困難です。当科では、問診や環境調査などによりまず過敏性肺炎の可能性を徹底的に追求し、その原因抗原を除去することで成果を上げています。

呼吸器疾患を通じて地域連携の充実をめざします

北区薬剤師会や保険薬局と協同で「吸入指導ネットワーク」を立ち上げ、喘息やCOPD患者の吸入療法の正しい手技の取得やアドヒアランス向上に大きく貢献しています。また、「地域包括呼吸ケアを考える会」などを通じて、地域の医療・介護スタッフとの連携を深めています。

慢性呼吸不全患者の最善の在宅呼吸ケアを追求しています

様々な非侵襲的モニタリングを用いて、慢性呼吸不全患者の病態をより正確に解明することで、それに適した在宅呼吸ケアを選択・設定することが可能となっています。また在宅まで連続して行われる包括的リハビリテーションの確立をめざしています。

スタッフ紹介



副院長 兼 主任部長 兼 呼吸器センター長
兼 初期診療センター副センター長
兼 医師卒後教育センター長 兼 医学研究所副所長

福井 基成 (ふくい もとなり)

<専門領域>

- 呼吸不全
- 呼吸器内科全般
- 睡眠呼吸障害



部長 兼 病院長補佐 兼 感染制御対策室長
兼 初期診療センター副センター長

丸毛 聡 (まるも さとし)

<専門領域>

- 気管支喘息
- 慢性閉塞性肺疾患 (COPD)
- 抗酸菌症
- 間質性肺炎



部長 兼 感染制御対策室副室長

井上 大生 (いのうえ だいき)

<専門領域>

- 呼吸器内科全般

(所属医師・スタッフ)

医師名	役職	専門領域	医師名	役職	専門領域
北島 尚昌 (きたじま たかまさ)	副部長	呼吸器内科全般	森本 千絵 (もりもと ちえ)	副部長(カデット)	

医師名	役職	医師名	役職	医師名	役職
神野 志織 (かんの しおり)	医員	船内 敦司 (ふなうち あつし)	専攻医	白石 祐介 (しろいし ゆうすけ)	非常勤医師
野原 瑛里 (のほら えり)	医員	嶋村 優志 (しまむら ゆうし)	専攻医	林 優介 (はやし ゆうすけ)	非常勤医師
植木 康光 (うえき やすみつ)	専攻医	大倉 千明 (おおくら ちあき)	専攻医	伊元 孝光 (いもと たかみつ)	非常勤医師
塚本 信哉 (つかもと しんや)	専攻医				

診療対象となる主な疾患

● 肺がん	● 肺結核	● 気管支喘息	● 過敏性肺炎	● 薬剤性肺炎	● 肺高血圧症	● 気胸
● 中皮腫	● 非結核性抗酸菌症	● 好酸球性肺炎	● 器質性肺炎	● 血管炎	● 胸水	● 縦隔気腫
● 肺炎	● 肺膿瘍	● サルコイドーシス	● 膠原病肺	● 肺胞出血	● 胸膜炎	● 睡眠時無呼吸症候群
● 気管支炎	● 肺アルベスギルス症	● 間質性肺炎	● じん肺	● 肺血栓塞栓症	● 膿胸	● 呼吸不全
● 気管支拡張症	● 慢性閉塞性肺疾患 (COPD)					

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

呼吸器センター 呼吸器外科

肺がんや縦隔腫瘍、気胸、膿胸などの呼吸器系疾患、重症筋無力症、手掌多汗症に対して、外科的治療を行っています。



dual operatorの平行剥離による胸腔鏡手術

胸腔鏡手術は低侵襲であるだけでなく、拡大視ができ、スタッフが同一の視野を共有(コモンビュー)できる利点があります。しかし、胸腔鏡手術において一人の術者だけのアプローチでは、手術操作の自由度にある程度の制限があります。そのため、私たちは開胸手術と同じ手術操作を心がけて、胸腔鏡下肺葉切除術における手術手技の標準化を行ってきました。完全鏡視下手術で全例行っています。血管壁などの組織に対する緊張を最小限にする手術手技を基本としています(平行剥離)。そのため、術者と第一助手の共通認識のもと、4本の手が自由な角度から、安全で確実な手術操作を行っています。

バイオマーカーに基づく肺がん個別化化学療法

肺がんは様々な性格をもった多様性の富んだ病気で、それぞれの肺がんの性格に基づいた個別化治療を行うことが重要です。私たちは手術で摘出した肺がん組織における抗腫瘍剤関連バイオマーカーの発現を、北野病院の医学研究所で免疫組織化学法を用いて評価し、有効な抗がん剤の選択を行っています。TS発現が低い肺がんでは、5FU系またはPemetrexed (Pem)を中心とした化学療法を行います。TUBB3発現が低い肺がんでは、タキサン系を中心とした化学療法を行います。局所進行期肺がんにおける術後補助化学療法で有効性が認められています。

スタッフ紹介



主任部長
兼 呼吸器センター副センター長
兼 医学研究所副所長

黄 政龍 (こう せいりゅう)

<専門領域>

- 呼吸器外科全般
- 胸腔鏡手術

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本外科学会認定指導医
- 日本呼吸器外科学会認定指導医
- 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医
- 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
- Active member of American Association for Cancer Research (AACR)
- Active member of American Society of Clinical Oncology (ASCO)
- 緩和ケア研修修了
- 京都大学医学部非常勤講師
- 日本外科学会認定専門医
- 日本呼吸器外科学会認定専門医
- 日本呼吸器外科学会 評議員
- 日本胸部外科学会認定指導医
- 日本肺癌学会 評議員
- 臨床研修指導医講習修了
- 京都大学医学部臨床教授

(所属医師・スタッフ)

医師名	役職	専門領域
長 博之 (ちやう ひろゆき)	副部長	呼吸器外科全般、胸腔鏡手術
尾田 博美 (おだ ひろみ)	副部長(カデット)	呼吸器外科全般、胸腔鏡手術

医師名	役職	医師名	役職
平山 安見子 (ひらやま やすみこ)	医員	熊谷 陽介 (くまや ようすけ)	専攻医

診療対象となる主な疾患

● 気胸	● 胸壁腫瘍	● 重症筋無力症	● 転移性肺腫瘍	● 肺がん
● 胸部外傷	● 縦隔腫瘍	● 手掌多汗症		

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

神経センター 脳神経内科

あらゆる脳神経内科疾患に対応し、脳外科とともにSCUを運営し、脳卒中急性期に対して的確かつ迅速な診断、説明、治療を行います。

24時間365日、脳卒中急性期に対応します

脳梗塞発症4.5時間以内の症例では、tPAの静注療法を行い、脳神経外科と連携して経皮的血栓回収療法へ移行します。いかに早く病院へ紹介いただくかが急性期脳卒中診療の鍵とされていますので、疑わしい症例ではまずはお電話いただければ幸いです。

筋力低下や感覚障害は、神経伝導検査・筋電図検査で原因を調べます

筋力低下やしびれの鑑別は多岐にわたります。適切な問診と神経学的診察、神経伝導検査・筋電図検査と画像検査から総合的に診断を行います。状況により各診療科と連携し治療選択肢を提案させていただきます。


ふるえや手の使いづらさ、動作緩慢、歩行障害があればご紹介ください

当院はパーキンソン病や関連疾患症例を多数診療しています。希望に応じ検査入院の上で、診断および治療します。症例によっては薬物療法に加え、脳神経外科と連携し脳深部刺激療法やMRIガイド下集束超音波治療、経腸レボドパ持続注入療法も行います。

患者さんごとに環境調整の提案をさせていただきます

杖や車椅子を利用する通院困難な神経難病の方のために、複数の病院および診療所が連携し、訪問診療を行うシステムを開始しています。独居の方やご家族の状況など様々な理由で通院困難な方はご相談ください。

スタッフ紹介



主任部長
金子 鋭 (かねこ さとし)

〈専門領域〉

- 脳神経内科学
- 神経科学

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本内科学会認定内科医
- 日本神経学会認定神経内科専門医
- 日本神経学会認定指導医

〈所属医師・スタッフ〉		〈所属医師・スタッフ〉	
医師名	役職	専門領域	
小松 研一 (こまつ けんいち)	副部長	神経内科全般	
宮本 将和 (みやもと まさかず)	副部長	脳神経領域全般	
梅野 陽亮 (たの ようすけ)	副部長	脳神経内科一般、パーキンソン病およびその類縁疾患、パーキンソン病に対するデバイス補助療法(脳深部刺激療法・レボドパカルビドパ経腸療法)	
奥田 真也 (おくだ しんや)	副部長	パーキンソン病およびその類縁疾患	
後藤 昌広 (ごとう まさひろ)	副部長	てんかん	

医師名	役職	医師名	役職	医師名	役職
今中 翔平 (いまなか しょうへい)	医員	岡 良祐 (おか りょうすけ)	専攻医	濱野 利明 (はまの としあき)	非常勤医師
松本 佳己 (まつもと よしき)	専攻医	石田 光弘 (いしだ みつひろ)	専攻医		
森内 俊達 (もりうち としみち)	専攻医	津島 孝太郎 (つしま こうたろう)	専攻医		

診療対象となる主な疾患

● 一過性脳虚血発作	● 進行性核上性麻痺	● 椎骨脳底動脈循環不全症	● 皮膚筋炎
● 運動ニューロン病	● 髄膜炎	● てんかん	● フィッシャー症候群
● 炎症性脱髄性多発神経炎	● 頭痛	● 脳炎	● 複視
● 急性散在性脳脊髄炎	● 脊髄炎	● 脳血管炎	● 片頭痛
● ギラン・バレー症候群	● 脊髄障害	● 脳血管障害	● 本態性振戦
● 筋萎縮性側索硬化症	● 脊髄小脳変性症	● 脳梗塞	● 末梢神経障害
● 筋疾患	● 脊髄性筋萎縮症	● 脳塞栓症	● 無菌性髄膜炎
● 頸動脈プラーク	● 多系統萎縮症	● パーキンソン症候群	● めまい
● 視神経脊髄炎	● 多発性筋炎	● パーキンソン病	● ラクナ梗塞
● シャルコマリートゥース病	● 多発性硬化症	● ハンチントン病	● ランパートイトン筋無力症候群
● 重症筋無力症	● 多発性単神経炎	● 皮質基底核変性症	

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

神経センター 脳神経外科

当科は日本脳神経外科学会専門医6名が、各々の専門分野における認定資格を有し、その結果、脳血管障害、脳腫瘍から脊椎・脊髄疾患、機能的神経疾患に至るまで、ほとんどの脳神経外科疾患に対して、最先端の機器・技術を用いた治療を行っています。

良性腫瘍の外科治療・悪性脳腫瘍の集学的治療

良性脳腫瘍はできるだけ合併症を来さず、また悪性脳腫瘍は最大限の摘出と化学療法・放射線治療を併用する集学的治療を行っています。治験の相談にも対応しています。各種モニタリングや覚醒下手術を用いた機能温存手術、および間脳下垂体学会から施設認定を受ける内視鏡手術、さらに高精度な4K3D顕微鏡手術が当科手術の特徴です。

最新の脳血管内治療と脳血管障害手術

超急性期脳梗塞、内頸動脈狭窄症や脳動脈瘤の治療を行う際に使用する最新の血管撮影装置が導入され、高精度な治療を行っています。24時間体制で脳卒中治療にあたり、特に脳梗塞の後遺症をできるだけ最小限にするよう、急性期血行再建治療に神経センターの20名以上の医師が取り組んでいます。



また、血管内治療が必要な脳動脈瘤や脳動脈奇形、開頭手術が必要な脳卒中手術には脳血管内治療専門医・脳卒中の外科指導医・専門医が中心に取り組んでいます。

機能的脳神経外科：集束超音波治療による「きらない」手術


1980年代より三叉神経痛・顔面痙攣・舌咽神経痛に対する微小血管減圧術(神経減圧術)、また1990年代からパーキンソン病・振戦・ジストニアに対する定位脳手術に取り組んでいます。2021年には集束超音波治療によるきらない振戦やパーキンソン病の治療を導入します。これにより治療選択肢が広がります。

低侵襲脊椎手術による術後の早期回復

当科では整形外科、脳神経外科の両領域で認定される脊椎脊髄外科専門医2名が手足のしびれから巧緻運動障害、歩行障害まで脊椎・脊髄疾患の症状に対して精密検査を行いますので、ぜひ一度ご紹介ください。筋肉・靭帯・骨組織を温存した低侵襲手術(3cmの創部で頸椎椎弓形成術、低侵襲腰椎椎間固定術など)により、患者さんには術後早期に日常生活に復帰していただいています。



スタッフ紹介



主任部長
兼 神経センター長 兼 脳卒中センター長

戸田 弘紀 (とだ ひろき)

〈専門領域〉

- 脳腫瘍(髄膜腫、神経鞘腫、神経膠腫)
- 脳血管障害
- 脊髄・脊髄外科疾患
- 三叉神経痛
- 顔面けいれん
- 舌咽神経痛
- 脳深部刺激療法(パーキンソン病・振戦・ジストニア・斜頸・書痙)

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本脳神経外科学会認定指導医
- 日本脳卒中学会認定専門医
- 日本脳卒中学会認定指導医
- 日本脳卒中の外科学会技術指導医
- 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
- 日本脊髄外科学会認定医
- 日本脊椎脊髄病学会・日本脊髄外科学会認定脊椎脊髄外科専門医
- 日本定位・機能的脳神経外科学会 機能的定位脳手術技術認定医
- 京都大学臨床教授
- 京都大学非常勤講師

〈所属医師・スタッフ〉		〈所属医師・スタッフ〉	
医師名	役職	専門領域	
西田 南海子 (にしだ なみこ)	副部長	脳深部刺激療法、集束超音波治療、神経内視鏡、水頭症、脳腫瘍	
林 英樹 (はやし ひでき)	副部長	脊椎脊髄外科、血管内治療、脳神経外科全般	
石橋 良太 (いしばし りょうた)	副部長	脳神経外科全般、脳血管内手術、脳血管障害の外科	
菅方 宏州 (はしかた ひろくに)	副部長	脳神経外科全般、神経内視鏡、脳血管内手術	
澤田 真寛 (さわだ まさひろ)	副部長(カデット)	脳神経外科全般、脊椎脊髄外科、機能的神経外科	
武部 軌良 (たけべ のりよし)	副部長	脳腫瘍、脳神経外科全般	

医師名	役職	医師名	役職	医師名	役職
笠島 一洋 (かさしま かずひろ)	医員	羽生 敬 (はにゅう たかし)	専攻医	大槻 和也 (おおつき かずや)	専攻医
		山下 成仁 (やました まさひと)	専攻医		

診療対象となる主な疾患

脳腫瘍	脳血管障害	機能的脳神経外科	脊椎・脊髄疾患 頸椎から腰椎まで
● 神経膠腫	● 脳梗塞	● 三叉神経痛	● 脊髄椎間板ヘルニア
● 髄膜腫	● 脳動脈瘤	● 顔面痙攣	● 脊髄空洞症
● 下垂体腺腫	● 脳動脈奇形	● 書痙	● 脊柱管狭窄症
● 聴神経腫瘍	● 一過性脳虚血発作	● 舌咽神経痛	● 脊髄腫瘍 など
● 転移性脳腫瘍 など	● 脳内出血 など	● ジストニア など	● 後縦靭帯骨化症
		● 本態性振戦	その他
			● 正常圧水頭症

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

腫瘍内科

化学療法センターを中心としてがん化学療法関連の診療業務を行っています。がん化学療法
法の充実・向上のために尽力しています。

化学療法外来

各診療科と連携し、化学療法、支持療法、効果判定の診察など
を行っています。当院での化学療法を希望される患者さんをご紹
介いただける場合は各臓器別診療科または当科にご連絡ください。

コンサルテーション・セカンドオピニオン

原発不明がんや希少がんも含め、種々のがんに対する化学療法に
ついての相談をお受けしています。

化学療法センターの安全管理

がん化学療法の通院治療部門である化学療法センター内で診察を
行っており、治療中の患者さんの緊急時の対応を行います。また、
患者さんからの電話相談(ホットライン)に対応しています。

その他の特色

化学療法レジメンの申請・管理を行っています。各科化学療法
カンファレンスに参加し、治療方針の相談に対応しています。

スタッフ紹介



主任部長
兼 化学療法センター長

西村 貴文 (にしむら たかふみ)

〈専門領域〉
■ がん化学療法一般

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本内科学会認定総合内科専門医
- 日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職
富田 和輝 (とみた かずき)	医員

診療対象となる主な疾患

消化器癌 <ul style="list-style-type: none"> ● 食道癌 ● 胃癌 ● 小腸癌(空腸癌) ● 大腸癌(結腸癌・直腸癌・虫垂癌) ● 膵癌 ● 胆道癌(胆嚢癌・胆管癌・十二指腸乳頭部癌) ● 肝細胞癌 	婦人科腫瘍 <ul style="list-style-type: none"> ● 卵巣癌・卵管癌・原発性腹膜癌 ● 子宮癌(子宮頸癌・子宮体癌) ● 胚細胞腫瘍 ● 絨毛腫瘍 	肉腫 <ul style="list-style-type: none"> ● 平滑筋肉腫 ● 滑膜肉腫 ● 横紋筋肉腫
呼吸器腫瘍 <ul style="list-style-type: none"> ● 小細胞肺癌 ● 非小細胞肺癌 ● 胸腺癌 ● 悪性胸膜中皮腫 	泌尿器腫瘍 <ul style="list-style-type: none"> ● 尿路上皮癌(膀胱癌・尿管癌・腎盂癌) ● 前立腺癌 ● 腎細胞癌 ● 精巣癌 	皮膚腫瘍 <ul style="list-style-type: none"> ● 悪性黒色腫 ● 皮膚癌
乳腺腫瘍 <ul style="list-style-type: none"> ● 乳癌 	頭頸部腫瘍 <ul style="list-style-type: none"> ● 頭頸部扁平上皮癌(咽頭癌・喉頭癌・舌癌) ● 甲状腺癌 	脳腫瘍 <ul style="list-style-type: none"> ● 悪性脳腫瘍
その他 <ul style="list-style-type: none"> ● 原発不明癌 ● 神経内分泌腫瘍(肺・胃・直腸・卵巣・膵) 		

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

放射線治療センター 腫瘍放射線科

放射線治療はがんの根治的治療から緩和的治療までをカバーしています。
技術の進歩により限局した照射が可能となり、患者さんに優しい治療となっています。
これからも当院の臨床各科と連携してよりよいがん治療の提供に努めて参りますので、宜
しくお願い致します。



放射線治療センター

放射線治療センターでは、専任の医学物理士を配した医学物理室を設置
し、放射線治療専門医2名、専任医学物理士1名、放射線技師7名(放射
線治療専門技師3名を含む)、看護師2名(放射線治療認定看護師1名を含
む)の体制で、これからの高精度放射線治療に即した診療を行っています。

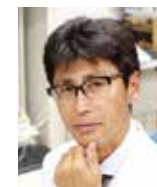
高精度放射線治療の実施

従来からの三次元原体照射のほか、画像誘導放射線治療、局所に限局し
た固形がんに対して強度変調放射線治療、早期肺がんに対する体幹部定
位放射線治療、肝臓がんに対して金マーカーを用いた動態追跡放射線治
療など、年々進歩する放射線治療に対応しています。

小線源治療の実施

リモートアフターローディングシステム(RALS)を用いて、子宮がんに対し
てCT、MRIを用いた画像誘導腔内照射も実施しています。

スタッフ紹介



主任部長
兼 放射線治療センター長

高木 雄久 (たかぎ たけひさ)

〈専門領域〉
■ 放射線治療

資格など

- 日本医学放射線学会認定 放射線治療専門医
- 日本専門医機構認定 放射線科専門医
- 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
熱田 智子 (あつた ともこ)	副部長	放射線治療
宮部 結城 (みやべ ゆうき)	医学物理士 室長	高精度放射線治療の治療計画・品質管理

医師名	役職
増井 浩二 (ますい こうじ)	非常勤医師
吉田 謙 (よしだ けん)	非常勤医師

診療対象となる主な疾患

- 悪性腫瘍全般、および一部の良性疾患(ケロイドなど)

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

糖尿病内分泌内科

糖尿病内分泌内科は、皆さまのお力となる最新の専門的診断と治療を、各診療科と相互に連携しながら幅広く提供します。



長期フォローの視点に立った糖尿病診療・支援をめざしています

糖尿病診療は日々アップデートします。当院では、各部署・職種を横断した「糖尿病サポートチーム」が、常に最新の治療・療養の知見を共有するよう努めています。かかりつけ先生方のプライマリケアから長年にわたるフォローまで、チーム一丸となって、トータル診療をサポートします。

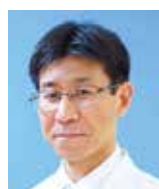
内分泌疾患の高度な専門性をもった診断と治療を行います

内分泌疾患はcommonなものから希少疾患まで、非常に多岐にわたります。当院ではこれらに幅広く対応して、専門的検査を駆使した診断を行うとともに最適な治療を提供します。診断はもとより、特に治療においては複数診療科の連携が欠かせません。当院は高い専門性をもつ各診療科を擁しており、最適な治療を行うたいへん大きな力となっています。

日常診療における糖尿病・内分泌疾患の診断と治療を連携診療で提供します

高血圧や電解質異常、画像検査から見出される下垂体・副腎・甲状腺疾患、検診で指摘される高血糖など、各種疾患・病態のスクリーニングから精査と治療、さらにその後のフォローにわたる各ステップを、かかりつけ先生方と共有させていただき病診連携をすすめています。

スタッフ紹介



主任部長
兼 医学研究所 医学研究支援センター
データ管理室長

濱崎 暁洋 (はまさき あきひろ)

〈専門領域〉
■ 内分泌代謝 ■ 糖尿病

資格など

- 医学博士
- 日本内科学会認定総合内科専門医
- 日本糖尿病学会認定指導医
- 日本内分泌学会認定指導医
- 日本内科学会認定内科医
- 日本糖尿病学会認定専門医
- 日本内分泌学会認定専門医
- 京都大学医学部臨床教授

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
稲垣 暢也 (いながきののぶや)	理事長	内分泌代謝、糖尿病
本麻 祥子 (ほんま しょうこ)	副部長 兼 栄養部長	内分泌代謝、糖尿病
渋谷 公尊 (しぶえ きみたか)	副部長	内分泌代謝、糖尿病
泉 諒太 (いづみ りょうた)	副部長	内分泌代謝、糖尿病

医師名	役職	医師名	役職	医師名	役職
長谷部 雅士 (はせべ まさし)	医員	塚口 諒 (つかぐち りょう)	専攻医	佐藤 雄一 (さとう ゆういち)	非常勤医師
酒井 麻里子 (さかい まりこ)	専攻医	松城 真里 (まつしろ まり)	専攻医	瀬野 陽平 (せの ようへい)	非常勤医師

診療対象となる主な疾患

● 亜急性甲状腺炎	● 高脂血症	● 上皮小体機能低下症	● 糖尿病性腎症	● 副腎偶発腫瘍
● インスリンノーマ	● 甲状腺機能亢進症	● 成人GH分泌不全症	● 二次性高血圧症	● 副腎腫瘍
● 下垂体機能低下症	● 甲状腺機能低下症	● 先端巨大症	● 尿崩症	● 副腎皮質機能低下症
● 下垂体腺腫	● 甲状腺疾患	● 低カルシウム血症	● 妊娠糖尿病	● プロラクチノーマ
● 褐色細胞腫	● 甲状腺腫瘍	● 低カルシウム血症	● 橋本病	● 末端肥大症
● クッシング症候群	● 甲状腺中毒症	● 低血糖症	● パセドウ病	● 無痛性甲状腺炎
● クッシング病	● 高プロラクチン血症	● 糖尿病	● 肥満症	● 1型糖尿病
● 原発性アルドステロン症	● 骨粗鬆症	● 糖尿病合併症	● 副甲状腺機能亢進症	● 2型糖尿病
● 高カルシウム血症	● 脂質異常症	● 糖尿病性ケトアシドーシス	● 副甲状腺機能低下症	● ACTH単独欠損症
● 高血糖性高浸透圧性昏睡	● 上皮小体機能亢進症	● 糖尿病性神経障害	● 副腎機能不全	● ADH分泌異常症

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

腎臓内科

軽微な尿所見異常から急性・慢性の腎不全、透析とその合併症、腎移植まで、患者さんに最適化した治療を提供します。



全ての腎疾患に対して患者さんに最適化した治療を提供します

①遺伝子異常を含む先天性腎臓病、②糸球体腎炎やネフローゼ症候群を代表とした一次腎臓病、③生活習慣病あるいは膠原病などに合併する二次腎臓病、④がんや心血管系疾患治療関連の腎臓病、⑤腎尿路感染症に対して標準治療の他に個別化治療を行います。

難治性腎臓病に対して最新の治療法を提供します

厚生労働省の難治性ネフローゼ症候群や難治性血管炎に関する研究事業での新規治療法開発に参加しており、新しい治療法開発のための臨床試験(治験)も行っています。これらを基盤として軽度の検査異常から早期に的確な診断をして患者さんに最適な治療を提供します。

慢性腎臓病では、かかりつけ医との連携診療を継続しています

慢性腎臓病では、管理栄養士や看護師のほか、薬剤師、臨床検査技士、理学療法士およびソーシャルワーカーからなる患者さん中心のチーム医療体制を構築しており、教育入院やかかりつけ医との慢性腎臓病地域連携パスを用いた連携診療を10年以上継続しています。

血液透析・腹膜透析・腎移植が可能で透析合併症にも対応します

院内全ての血液浄化療法(血液透析・腹膜透析・血漿交換など)を担当し、急性血液浄化、慢性透析導入、生体間腎移植のほか、シャント・トラブル、アミロイド症、がんや心血管系疾患治療を含めた透析関連合併症治療を他診療科と連携して実施しています。

スタッフ紹介



主任部長
兼 血液浄化センター長

塚本 達雄 (つかもと たつお)

〈専門領域〉
■ 腎臓内科学 ■ 透析学

資格など

- 医学博士
- 日本内科学会認定総合内科専門医
- 日本腎臓学会認定専門医
- 日本腎臓学会 評議員
- 日本透析医学会認定指導医
- 日本アフェリシス学会 評議員
- 日本急性血液浄化学会認定指導者
- 京都大学医学部臨床教授
- 日本内科学会認定内科医
- 日本内科学会認定指導医
- 日本腎臓学会認定指導医
- 日本透析医学会認定専門医
- 日本アフェリシス学会認定血漿交換療法専門医
- 日本アフェリシス学会 関西地方会理事
- 日本急性血液浄化学会 理事

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
遠藤 知美 (えんどう ともみ)	副部長	腎臓細管再生研究、血管炎・腎炎・ネフローゼ症候群
森 慶太 (もり けいた)	副部長	腎臓内科、血液浄化療法
半田 貴也 (はんだ たかや)	副部長	腎臓内科学、腎病理学、透析学
平木 秀輔 (ひらぎ しゅうすけ)	副部長 兼 医療情報部部長 兼 病院長補佐 兼 診療情報室室長	腎臓内科学全般、医療情報学、病院管理学

医師名	役職	医師名	役職	医師名	役職
東 良亮 (ひがし よしあき)	医員	丹羽 篤人 (にわ あつと)	専攻医	西岡 敬祐 (にしおか けいすけ)	非常勤医師
宮内 美帆 (みやうち みほ)	専攻医	福田 結以 (ふくだ ゆい)	専攻医	高柳 俊亮 (たかなぎ しゅんすけ)	非常勤医師
大植 薫 (おおうえ かおる)	専攻医	鹿野 友美夏 (しかの ゆみか)	専攻医		

診療対象となる主な疾患

● 悪性高血圧	● 検尿異常(顕微鏡的血尿、蛋白尿)	● 多発性嚢胞腎	● 薬剤性腎障害
● アルポート症候群	● 高度蛋白尿	● 糖尿病性腎症	● ループス腎炎
● 間質性腎炎	● 腎盂腎炎	● ネフローゼ症候群	● ANCA関連血管炎
● 急性糸球体腎炎	● 腎機能低下	● 慢性腎炎症候群	● IgA血管炎(紫斑病性腎炎)
● 急性腎不全	● 腎硬化症	● 慢性腎臓病(CKD)	● IgA腎症
● 急速進行性糸球体腎炎	● 先天性腎尿路異常	● 慢性腎不全	

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

最新の機器をそろえた臨床検査部、放射線科との連携によって、正確な早期診断、治療に努めています。

また、一般小児科だけでなく、小児アレルギー、免疫、感染症、神経、内分泌、心臓、血液・腫瘍、新生児・未熟児などの病気につき各小児科専門医が揃い、主に午後に専門外来を開き、最先端の医療を提供できるよう努めています。

治療体制

- 24時間365日小児科医が2名から4名体制で救急当直、NICU当直を行い、断らない医療を実践しています。
- 病棟に準PICU4床が備えられているので重症患者さんの受け入れが可能です。

医療設備

- 病床数は86床、うちNICU9床、GCU12床、準PICU4床です。
- NICU(新生児集中治療管理室)では、NICU専属医師が24時間待機しており、低出生体重児や病的新生児の診療を行っています。
- NMCS(大阪新生児診療相互援助システム)からの紹介入院に対応しています。新生児の緊急搬送の場合には06-6312-8824までご連絡ください。
- 日本周産期・新生児医学会指定研修施設に認定されており、一酸化窒素吸入療法・脳低体温療法など最新の医療機器を備え、超低出生体重児や外科治療を要する病的新生児まで、幅広い治療にあたっています。
- 毎年約100例のドクターカーによる新生児搬送入院があります。

心臓・循環器疾患は疑い症例を含めて全て診療可能です

日本胎児心臓病学会専門施設に認定。新生児は随時精査可。先天性心疾患は手術以外の診療を全て当科で行うシステムを確立。学校検診外来を設置。川崎病心臓病変は急性期から慢性期まで一貫して診療しており、心臓カテーテル検査・治療が可能です。

悪性腫瘍についても積極的に診断・治療しています

日本小児血液・がん学会の小児血液・がん専門医研修施設に認定され、白血病・悪性リンパ腫など血液腫瘍のみならず、小児外科・脳外科の協力のもと、脳腫瘍・神経芽腫・腎芽腫・肝芽腫など固形腫瘍も、夜間休日も断ることなく受け入れ治療しています。

アレルギー疾患やリウマチ膠原病の診療も行っていきます

日本アレルギー学会研修施設に認定。専門医4名中心に食物負荷試験、スギ・ダニの舌下免疫療法をはじめ専門性の高い診療を行っています。またリウマチ学会専門医2名中心にSLEなどの自己免疫疾患や炎症性腸疾患などについても生物学的製剤を含めた最先端の治療を行っています。

神経発達症、てんかん、心身症、急性の脳神経疾患などの診療も充実しています

日本小児神経学会認定小児神経専門医研修施設に認定され、神経発達症はじめ、てんかん、心身症、急性の脳神経疾患などの診療に当たっています。現在、小児神経専門医3名を中心に、長いこと付き合っていくことになるかもしれない状況に対しても、こどもたちのケアの面も意識した診療を心がけています。

スタッフ紹介



病院長
秦 大資 (はた だいすけ)

〈専門領域〉
■ アレルギー ■ 免疫感染症

資格など

- 医学博士
- 日本小児科学会認定指導医
- 日本アレルギー学会認定専門医
- 日本小児アレルギー学会 評議員
- Best Doctors in Japan™ 2020-2021
- 京都大学小児科学教室臨床教授
- 日本小児科学会認定専門医
- 日本小児科学会 代議員
- 日本アレルギー学会認定指導医
- 日本周産期・新生児医学会認定暫定指導医



主任部長
塩田 光隆 (しおた みつたか)

〈専門領域〉
■ 腫瘍 ■ 血液

資格など

- 医学博士
- 日本小児科学会認定指導医
- 日本血液学会認定指導医
- 日本小児血液がん学会指導医
- Best Doctors in Japan™ 2016-2021
- 日本小児科学会認定専門医
- 日本血液学会認定専門医
- 日本小児血液がん学会専門医
- 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医



部長
渡辺 健 (わたなべ けん)

〈専門領域〉
■ 先天性心疾患 ■ 小児循環器

資格など

- 医学博士
- 日本小児科学会認定指導医
- 日本小児循環器学会 評議員
- 日本胎児心臓病学会 幹事
- 日本小児科学会認定専門医
- 日本小児循環器学会認定専門医
- 日本小児肺循環研究会 幹事
- 大阪胎児心臓病研究会 幹事



部長
羽田 敦子 (はた あつこ)

〈専門領域〉
■ 夜尿 ■ 感染症 ■ 腎臓

資格など

- 医学博士
- 日本小児科学会認定指導医
- 日本感染症学会認定指導医
- 日本小児感染症学会認定暫定指導医
- 日本化学療法学会認定抗菌化学療法指導医
- 日本小児科医会 子どもの心相談医
- 日本小児科学会認定専門医
- 日本感染症学会認定専門医
- 日本感染症学会 評議員
- ICD (infection control doctor)
- 日本夜尿症学会 理事



小児科新生児部門 主任部長
水本 洋 (みずもと ひろし)

〈専門領域〉
■ 低出生体重児 ■ 低血糖
■ 持続糖モニタリング
■ 新生児蘇生 ■ 蘇生教育

資格など

- 日本小児科学会認定専門医
- NCPRインストラクター
- 日本周産期・新生児医学会認定周産期専門医(新生児)
- 日本周産期・新生児医学会認定周産期指導医(新生児)
- 新生児蘇生法普及事業小委員会委員
- 日本周産期新生児医学会B(小児科)領域 評議員
- Best Doctors in Japan™ 2014-2015, 2018-2021
- 日本小児科学会認定指導医

(所属医師・スタッフ)

医師名	役職	専門領域
吉岡 孝和 (よしおか たかかず)	副部長	アレルギー・免疫、リウマチ膠原病
熊倉 啓 (くまくら あきら)	副部長	小児神経、てんかん
中川 権史 (なかがわ けんじ)	副部長	アレルギー・免疫、リウマチ膠原病
阿水 利沙 (あすい りさ)	副部長	新生児、未熟児
三上 真充 (みかみ まさみつ)	副部長	腫瘍、血液
高折 徹 (たかおり とおる)	副部長	小児神経、てんかん
兵頭 勇紀 (ひょうどう ゆうき)	副部長	小児神経、てんかん
大西 健仁 (おおいし けんじ)	副部長	新生児・集中治療

医師名	役職	医師名	役職
専攻医16名在籍		山下 純英 (やました すみえ)	非常勤医師
		中田 昌利 (なかた まさとし)	非常勤医師
		河合 昌彦 (かわい まさひこ)	非常勤医師
		内山 環 (うちやま たまき)	非常勤医師
		成宮 牧子 (なるみや まきこ)	公認心理師、臨床心理士

診療対象となる主な疾患

● 悪性リンパ腫	● 甲状腺機能低下症	● 先天性血小板減少症	● 脳腫瘍
● アトピー性皮膚炎	● 固形腫瘍	● 先天性心疾患	● 肺炎
● 遺伝性球状赤血球症	● 抗リン脂質抗体症候群	● 先天性ヘモグロビン異常症	● 白血病
● インフルエンザ	● 骨代謝疾患	● グウン症	● 発達・発育障害
● ウイルス感染症	● 再生不良性貧血	● 血尿・蛋白尿	● 肥満症
● 下垂体機能低下症	● 三尖弁閉鎖症	● チック	● 百日咳
● 川崎病	● 自己免疫性好中球減少症	● 昼間遺尿・尿失禁	● フォンビルブランド病
● 肝芽腫	● 思春期早発症	● 低血糖症	● 副腎疾患
● 感染性腸炎	● 食物アレルギー	● 低身長症	● 不整脈
● 気管支炎	● 神経芽腫	● てんかん	● 不明熱
● 気管支喘息	● 神経症	● 糖尿病	● 蜂窩織炎
● 急性糸球体腎炎	● 心身症	● 特発性血小板減少性紫斑病	● マイコプラズマ肺炎
● クループ症候群	● 新生児黄疸	● 乳児血管腫・母状血管腫	● 麻疹
● 血球貪食症候群	● 腎炎	● 尿路感染症	● 無月経
● 血友病	● 腎不全	● 熱性痙攣	● 夜尿症
● 高血圧	● 髄膜炎	● ネフローゼ症候群	● Evans症候群
● 膠原病	● 喘息性気管支炎	● 脳炎・脳症	● IgA腎症
● 甲状腺機能亢進症			

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

リウマチ膠原病内科

リウマチ膠原病内科では、いわゆる「リウマチ性疾患」「膠原病」の患者さんを対象として、その診断と治療を行っています。

総合病院として、それぞれの専門医と連携して診療します

「リウマ」とは流れを意味する古代ギリシャ語で、体の中の悪い流れにより引き起こされると考えられていた関節を侵す疾患を「リウマチ」と呼んでいました。

リウマチ性疾患では関節以外にも障害されることも多く、病気の障害部位にコラーゲン(膠原)が存在していることに由来して、「膠原病」や「結合組織病」とも称されます。

自己免疫により様々な臓器が障害されますが、当院は総合病院として各臓器の専門医が揃っており、適宜連携して診療しています。

患者さんひとりひとりに対応したオーダーメイド医療をめざします

リウマチ・膠原病疾患は同じ診断名でも、それぞれの患者さんで病気の活動性が違い、侵される臓器や障害の程度も異なります。治療も長期にわたることが多いため、いかに患者さんの良きパートナーになれるかが重要です。そのため、当科では十分な説明と同意のもと、科学的根拠に基づいたオーダーメイド医療を行っています。

スタッフ紹介



主任部長
兼 医療安全管理室 副室長

井村 嘉孝 (いむら よしたか)

〈専門領域〉

- 臨床免疫学(リウマチ・膠原病疾患)

資格など

- 日本内科学会認定内科医
- 日本内科学会認定指導医
- 日本リウマチ学会認定リウマチ専門医
- 日本リウマチ学会認定指導医
- 日本内科学会認定総合内科専門医
- 日本リウマチ学会認定リウマチ専門医
- 日本リウマチ学会 評議員

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
高橋 令子(たかはし れいこ)	副部長	臨床免疫学(リウマチ・膠原病疾患)
中島 俊樹(なかじま としき)	副部長 兼 感染制御対策室副室長	臨床免疫学(リウマチ・膠原病疾患)
船曳 正英(ふなびき まさひで)	副部長	臨床免疫学(リウマチ・膠原病疾患)

医師名	役職	医師名	役職
菱谷 道生(むぎたに みちお)	医員	岩阪 晋吾(いわさか しんご)	専攻医
木下 慶一郎(きのした けいいちろう)	専攻医	田村 汐里(たむら しおり)	専攻医

診療対象となる主な疾患

- | | | | |
|--|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 関節リウマチ 偽痛風 強皮症 血球貧食性症候群 結節性多発動脈炎 血栓性血小板減少性紫斑病 | <ul style="list-style-type: none"> 顕微鏡的多発血管炎 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA) 抗リン脂質抗体症候群 混合性結合組織病 シェーグレン症候群 シェーンライン・ヘンッホ紫斑病 | <ul style="list-style-type: none"> 成人スチル病 全身性エリテマトーデス 大動脈炎症候群(側頭動脈炎も含む) 多発血管炎性肉芽腫症(GPA) 多発性筋炎 皮膚筋炎 | <ul style="list-style-type: none"> ベーチェット病 リウマチ性多発筋痛症 IgG4関連疾患 |
|--|---|--|---|

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

血液内科

血液疾患は頻度も低く、わかりにくいご印象をお持ちかもしれませんが、ご不明な点がありましたらいつでもお問い合わせください。

造血幹細胞移植を行っています

自家末梢血幹細胞移植、同種骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植を患者さんごとに適応を検討し行っています。骨髄バンクの骨髄および末梢血幹細胞の採取施設としても認定されています。新規薬剤も積極的に導入し、血液疾患の予後改善に努めています。

悪性疾患以外の血液の疾患に幅広く対応しています

病棟では、主に悪性疾患の患者さんの診療を行っていますが、悪性腫瘍以外の血液疾患全般に対応しています。緊急入院も積極的に受け入れていますので、血液に関してお困りの患者さんがいらっしゃいましたら、いつでもお問い合わせください。



スタッフ紹介



主任部長

北野 俊行 (きたの としゆき)

〈専門領域〉

- 腫瘍内科
- 血液疾患全般

資格など

- 日本内科学会認定総合内科専門医
- 日本血液学会認定専門医
- 日本血液学会 評議員
- 日本臨床腫瘍学会認定指導医
- 京都大学医学部臨床教授
- 日本内科学会認定指導医
- 日本血液学会認定指導医
- 日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医
- 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
田端 淑恵(たばた すみえ)	副部長	血液疾患全般
坂本 宗一郎(さかもと そういちろう)	副部長	血液疾患全般
瀧内 曜子(たきうち ようこ)	副部長	血液疾患全般
稲野 将二郎(いな の しょうじろう)	副部長	血液学、腫瘍学
高橋 慧(たかはし さとし)	副部長	血液内科

医師名	役職	医師名	役職	医師名	役職
島田 充浩(しまだ みつひろ)	医員	土井 究(どい きわむ)	専攻医	梅田 隆志(うめだ たかし)	専攻医
河崎 直人(かわさき なおと)	医員	大島 正義(おおしま せいぎ)	専攻医	羽田 美沙祈(はだ みさき)	専攻医
		井手口 耕(いでぐち こう)	専攻医		

診療対象となる主な疾患

- | | | | |
|---|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 悪性リンパ腫 キャッスルマン病 原発性マクログロブリン血症 | <ul style="list-style-type: none"> 骨髄異形成症候群 骨髄線維症 再生不良性貧血 | <ul style="list-style-type: none"> 真性多血症 赤芽球癆 多発性骨髄腫 | <ul style="list-style-type: none"> 特発性血小板減少性紫斑病 白血病 本態性血小板増多症 |
|---|--|---|--|

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

神経精神科

当院神経精神科は、精神医学領域での幅広い疾患・病態・障害を対象として診療を行っています。

ていねいな外来診察をこころがけています

外来診療において、一人ひとりの患者さんに十分な診察時間を確保できるように心掛けています。そのため外来診療は主治医制、完全予約制とさせていただきます。

総合病院における精神科として他科との連携をはかっています

総合病院における精神科の役割が見直されてきていますが、当科では他科の外来・入院診療へのアシストの役割を重視しています。

スタッフ紹介



主任部長
高木 賢一 (たかぎ けんいち)

〈専門領域〉
■ 精神科一般

資格など

- 日本精神神経学会認定精神科専門医
- 精神保健指定医
- 一般病院連携精神医学専門医
- 日本精神神経学会精神科専門医制度指導医

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	医師名	役職
加藤 諒 (かとう りょう)	専攻医	深尾 憲二郎 (ふかお けんじろう)	非常勤医師
山村 啓真 (やまむら けいじん)	専攻医	岩崎 明日香 (いわさき あすか)	非常勤医師
		波多腰 桃子 (はたこし ももこ)	非常勤医師
		吉岡 千波 (よしおか ちなみ)	公認心理師、臨床心理士

診療対象となる主な疾患

● うつ病	● 強迫性障害	● ストレス関連障害	● 統合失調症
● 解離性障害	● 神経症	● 躁うつ病	● パニック障害
● 気分障害	● 身体表現性障害	● 適応障害	● 不安障害
● 急性ストレス反応			

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

緩和ケアセンター/緩和ケア科

緩和ケアは、苦痛緩和と希望実現によって患者さんと家族のQOLを高めることが目的です。で、早期から多職種で関わっています。



緩和ケアセンター

緩和ケアセンターの役割

1. 多職種から構成される医療チームが専門的ケアを提供し、全人的苦痛(身体や心の痛み、スピリチュアルな苦しみ)を緩和することで、患者さんと家族の希望に寄り添った生活の質(クオリティ・オブ・ライフ)の向上をめざします。
2. 医療情報を分かりやすく提供して各科主治医との医療コミュニケーションを円滑にし、看護カウンセリングや人生会議(アドバンス・ケア・プランニング)など心理社会的な支援を充実させ、豊かな人生を過ごすための意思決定や希望の実現をサポートします。
3. 地域に根差した緩和ケアセンターとして、地域の医療介護スタッフと密に連携した在宅療養支援を行います。

緩和ケア科

全人的苦痛の緩和

全人的な苦痛には、痛みなどの身体的な苦痛のみならず、気持ちのつらさやせん妄などの精神的苦痛、経済的不安や療養場所の選択などの社会的苦痛、生きる意味の喪失などの実存的苦悩(スピリチュアルペイン)が含まれます。こうした苦痛緩和は医師のみでは対処が困難ですので、看護師や薬剤師、療法士、栄養士、心理士、福祉士などとともに緩和ケアチームを組んで、より良いチーム医療を提供して参ります。

希望実現

希望とは、「その人にとって意味があり、実行することで実現が可能な願い」ですが、患者さんとご家族の希望を初診時から伺いして、実現をめざしたお手伝いを多職種チームで実践させていただきます。

スタッフ紹介



部長 兼 緩和ケアセンター長
梶山 徹 (かじやま とおる)

〈専門領域〉
■ 緩和ケア
■ エンドオブライフ・ケア

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本緩和医療学会認定緩和医療専門医
- 公認心理師

診療対象となる主な疾患

- 各種がん
- 末期心不全や慢性呼吸不全、肝不全、腎不全などの生命を脅かす疾患
- 実存的苦悩(スピリチュアルペイン)例

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

乳腺外科

日本人女性の乳がん罹患率は増加傾向です。乳腺外科では患者さん一人ひとりの人生に向き合って、チームとして診断・治療・手術・緩和を進めていきます。

迅速で正確な診断

検診精査目的や様々な症状で患者さんをご紹介いただいた場合、その日のうちにマンモグラフィと超音波検査を実施します。さらに乳がんが疑われる時には穿刺吸引細胞診または針生検などの組織学的検査を迅速に行います。病理検査にてサブタイプを決定し、CT、MRIなどの全身検査と併せて、患者さんごとに適した標準治療法を決定します。一人ひとりのライフスタイルをふまえて進めていきます。

最適な手術加療を相談

術前化学療法を積極的に取り入れ、症例によっては6カ月間で乳がんをほぼ完全に消し去ることに成功しています。CTなどの術前画像診断で腋窩リンパ節転移の可能性の少ない症例では、術中にセンチネルリンパ節生検(4個程度摘出)を行い、リンパ節郭清を省略します。昨年から「可視光投影装置」(Medical Imaging Projection System：MIPS)を導入し、よりスムーズな手術が可能になりました。リンパ節郭清が必要な場合は上腕からのリンパ流を確認し、リンパ浮腫防止に努めています。リスク低減手術や形成外科と連携して乳房再建手術にも取り組んでいます。手術時は前日入院で、在院日数が短いことも特徴です。就労支援も可能ですので随時ご相談ください。

遺伝性疾患へも対応

最近では遺伝性乳がん卵巣がん症候群(家族性乳がん)に関する多くの検査や治療が保険診療の対象となりました。臨床遺伝専門医、常勤認定遺伝カウンセラーとともに遺伝性疾患の可能性のあるご家族の拾い上げにも力を入れています。カウンセリングで十分な相談とケアを行いながら、保険内外の遺伝子検査、バリエーション陽性者のリスク低減治療や手術にも個別対応しています。院外からのカウンセリングについてもお気軽にお問い合わせください。

チームによってささえる個別化治療の実践

2014年プレストセンターを開設し、乳腺外科・形成外科・腫瘍内科・放射線科・病理・緩和ケア・リハビリ・地域医療機関など多職種で、患者さんの治療を計画しサポートしています。手術・放射線療法・内分泌療法・化学療法・分子標的療法また免疫療法などさまざまな治療を組み合わせ、乳がんの根治、再発リスクの軽減、症状の改善をめざしています。再発治療でもそれぞれの患者さんに適した治療計画を相談し、さらに担当看護師やがん相談支援センターが治療に伴う身体的あるいは精神的負担を軽減できるようアドバイスやケアを行います。京大病院と連携した臨床試験も実施しています。

スタッフ紹介



主任部長
高原 祥子 (たかはら さちこ)

〈専門領域〉
■ 乳腺疾患 診断・治療

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本外科学会認定専門医
- 日本乳癌学会認定乳腺専門医・指導医
- 検診マンモグラフィ認定読影医
- 日本乳房オンコプラスチックサージアリー学会認定責任医師
- ICD (インフェクション コントロール ドクター)
- 京都大学医学部臨床教授

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
橘 強 (たちばな つよし)	副部長	乳腺疾患 診断・治療

医師名	役職	医師名	役職
吉本 有希子 (よしもと ゆきこ)	医員	中川 梨恵 (なかがわ りえ)	非常勤医師
山内 清明 (やまうち あきら)	非常勤医師	板垣 あい (いたがき あい)	常勤認定遺伝カウンセラー
前島 佑里奈 (まえしま ゆりな)	非常勤医師		

診療対象となる主な疾患

● 遺伝性乳がん	● 授乳期乳腺炎	● 乳がん	● 肉芽腫性乳腺炎
● 遺伝性乳がん卵巣がん症候群	● 女性化乳房症	● 乳腺腫瘍、乳腺腫瘍	● 乳頭分泌異常
● 腋窩リンパ節腫脹、腫大	● 線維腺腫	● 乳腺症	● 葉状腫瘍
● 血乳、血性乳頭分泌	● 男性乳がん		

*上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

整形外科

脊椎・脊髄病外科、関節外科、手外科、スポーツ整形外科の各専門分野を柱に、手術治療を中心に診療に当たっています。

脊椎・脊髄病外科

日本脊椎・脊髄病学会指導医が常勤し、頸椎から胸腰椎まで除圧術、固定術などに最新の技術を導入した幅広い治療を行います。正確、かつ安全な手術のため、CTナビゲーションシステムを導入しています。

手外科

肩～手指まで上肢疾患、外傷性疾患に対応しています。絞扼性神経障害(手根管症候群、肘部管症候群など)による手の痺れ)に対しては、詳細な電気生理学的検査と低侵襲手術を行っています。

関節外科

人工関節手術(股関節、膝関節)は極めて良好な長期成績を誇っています。また、病期、年齢に応じて股関節臼蓋形成術、膝骨切り術など関節温存手術、関節鏡視下手術など、多様な治療法を選択しています。肩関節学会認定医師によるリバーズ型人工肩関節置換術も新たに導入、開始しています。

スポーツ整形外科

日本体育協会認定スポーツドクターが常勤し、肩、膝を中心に関節鏡視下のバンカート修復術、半月板縫合術、前、後十字靭帯再建術などを多数行っています。

スタッフ紹介



主任部長
田村 治郎 (たむら じろう)

〈専門領域〉
■ 人工関節(股、膝)
■ 股関節外科

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本整形外科学会認定専門医
- 中部日本整形外科災害外科学会 評議員



部長
太田 雅人 (おた まさと)

〈専門領域〉
■ 脊椎 ■ 脊髄病外科

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本整形外科学会認定専門医
- 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
- 日本脊椎脊髄病学会認定指導医
- 日本脊椎脊髄病学会・日本脊椎脊髄外科専門医委員会認定専門医

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
北折 俊之 (きたおり としゆき)	副部長	脊椎、脊髄病外科、リウマチ外科
佐治 隆彦 (さじ たかひこ)	副部長	スポーツ整形外科、肩関節外科(関節鏡、人工関節)、膝関節外科(関節鏡、人工関節)
石橋 聖之 (いしばし まさゆき)	副部長	整形外科一般

医師名	役職	医師名	役職	医師名	役職
田中 咲良 (たなか さくら)	医員	松本 知文 (まつもと ちかづけ)	専攻医	麻田 義之 (あさだ よしゆき)	非常勤医師
				前田 峻宏 (まえだ たかひろ)	非常勤医師

診療対象となる主な疾患

● アキレス腱炎	● 頸椎後縦靭帯骨化症	● 手根管症候群	● 大腿骨頭壊死症	● ヘバーデン結節
● アキレス腱断裂	● 頸椎症	● 手根不安定症	● 大腿骨頭骨折	● 変形性股関節症
● 円状半月板	● 頸椎症性神経根症	● 手指腱断裂	● 大腿骨頭すべり症	● 変形性膝関節症
● 黄色靭帯骨化症	● 頸椎椎間板ヘルニア	● 手指神経断裂	● 大腿骨内顆骨壊死	● モンテジア骨折
● 外反肘	● 腱鞘炎	● スポーツ外傷(膝・肩)	● 肘部管症候群	● 野球肘
● 外反扁平足	● 腱板損傷	● 脊椎圧迫骨折後偽関節	● 突き指	● 腰椎椎間板ヘルニア
● 外反母趾	● 後十字靭帯損傷	● 前十字靭帯損傷	● デュブイトラン拘縮	● 腰椎分離・分離すべり症
● 肩関節脱臼	● 後縦靭帯骨化症	● 前腕骨骨折	● 橈骨遠位端骨折	● 腰椎分離症
● 滑膜炎	● 股関節臼蓋形成不全	● 前腕骨骨折変形治療	● 橈骨遠位端骨折変形治療	● 腰椎分離すべり症
● ガングリオン	● 骨髄炎	● 足関節骨折	● 内側側副靭帯損傷	● 腰椎変性すべり症
● 関節リウマチ	● 骨粗鬆症	● 大腿骨顆部骨壊死	● 内反肘	● 腰椎変性側弯症
● 胸椎黄色靭帯骨化症	● 膝関節周辺骨折	● 大腿骨頸部骨折	● ばねゆび	● 腰部脊柱管狭窄症
● 頸椎症性脊髄症	● 手関節骨折	● 大腿骨転子部骨折	● 半月板損傷	

*上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

形成外科は主に体表の形態に関する多彩な疾患を扱っている診療科です。当科では形成外科領域で扱われるほとんどの疾患の治療が可能です。治療に際しては、傷跡を可能な限り目立たなくするように配慮することで、生活の質 (Quality Of Life: QOL) の向上をめざします。


当科の特徴と先駆的な取り組み

- 繊細な縫合と皮膚の操作技術により最小限の手術痕となるよう努力しています。
- 拡大鏡(ダーモスコープ)による皮膚の検査を行っています。
- 乳がん術後の組織欠損に対し、乳腺外科医と協力し人工物(シリコンインプラント)や自家組織(広背筋、腹直筋、遊離深下腹壁動脈穿通枝皮弁)による再建術を行っています。
- 原発性および続発性リンパ浮腫(体幹および四肢)に対しICG蛍光観察用光源装置を備えた顕微鏡で手術中に細いリンパ管を可視化しリンパ管細静脈吻合術やリンパ節移植を行っています。
- 下肢静脈瘤に対し、通常の大伏在静脈ストリッピング手術に加え高周波治療を行っています。高周波治療は全身麻酔に加え日帰り手術にも対応しています。
- 皮膚の硬化やむくみ、潰瘍を生じた重症下肢静脈瘤に内視鏡を用いた筋膜下不全穿通枝切離術(SEPS)を行っている数少ない施設の1つです。筋膜下層に内視鏡を挿入し潰瘍の原因となっている不全穿通枝を切離します。この方法では病変のある皮膚に切開を加えず健全な皮膚からアプローチが可能ですので新たな潰瘍の発生や創部の治癒遅延を避けることができます。
- 顔面神経麻痺による閉鎖障害(眼が閉じなくなること)がひどくなると角膜潰瘍が発症します。この角膜潰瘍に対し神経移行術による角膜知覚再建術を行っている数少ない施設の1つです。
- 顔面神経動的再建により、笑ったときや話するときの顔面のゆがみを正常に近づける手術を行っています。
- 小児の日帰り全身麻酔手術を行っています。
- 乳児血管腫やスタージウエーバー症候群、毛細血管奇形などの血管病変に対する可変式ロングパルス色素レーザー(Vビーム)照射を保険診療にて行っています。
- 美容外来で肝斑やアンチエイジング治療、ホクロやシミに対するレーザー治療や男性の髭を含む脱毛レーザー治療を行っています。

シリコンインプラントによる乳房再建手術につきまして

従来発売されていた表面がザラザラした構造のテクスチャードタイプのシリコンインプラントがプレスト・インプラント関連未分化大細胞型リンパ腫BIA-ALCL(Breast Implant-Associated Anaplastic Large Cell Lymphoma)を発症するリスクがあると指摘されました。よって、現在は2019年10月に保険適用となった表面に凹凸のないスムーズタイプのインプラントを使用しています。すでに当科にてテクスチャードタイプのシリコンを挿入している患者さんに対しては、慎重な経過観察を行っています。詳細は当科医師にお問い合わせください。

スタッフ紹介



主任部長
鈴木 義久 (すずき よしひさ)

〈専門領域〉

- やけど
- 多合指症
- 眼瞼下垂症
- 乳房後乳房再建
- 形成外科全般
- 脊髄損傷の再生治療
- 唇裂・口蓋裂
- 皮膚皮下腫瘍

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本形成外科学会認定専門医
- 日本形成外科学会認定皮膚腫瘍外科分野指導医
- 日本創傷外科学会認定専門医
- 日本レーザー医学会認定レーザー専門医
- 京都大学医学部臨床教授
- 神戸大学医学部臨床教授

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
石川 奈美子 (いしかわ なみこ)	副部長	リンパ浮腫、下肢静脈瘤、乳房再建、形成外科全般、形成外科創傷治療、皮膚皮下腫瘍、眼瞼下垂症、美容アンチエイジング
武田 孝輔 (たけだ こうすけ)	副部長	マイクロサージャリー、四肢・顔面外傷、小児形成外科、形成外科全般、頭蓋顎顔面外科

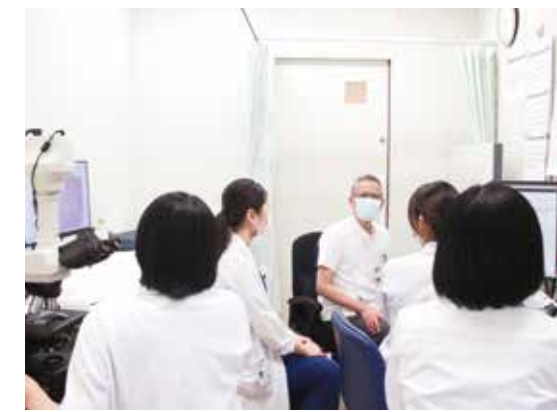
医師名	役職	医師名	役職	医師名	役職
武田 紘司 (たけだ こうじ)	医員	梶川 珠末 (かじかわ たまみ)	専攻医	吉岡 伸高 (よしおかのぶたか)	非常勤医師
				藤田 律 (ふじた りつ)	非常勤医師

診療対象となる主な疾患

● 腋臭症	● 頬骨骨折	● 臍ヘルニア	● 切断指	● 熱傷	● 皮膚皮下腫瘍
● 下肢静脈瘤	● 巨口症	● 耳前瘻孔	● 前頭骨骨折	● 癬痕	● 副耳
● 眼瞼下垂	● 血管腫	● 上顎骨骨折	● 多合指(趾)症	● 癬痕拘縮	● 母指形成不全
● 陥入爪	● ケロイド	● 小耳症	● 立ち耳	● 鼻咽喉閉鎖不全	● 埋没耳
● 陥没乳頭	● 口蓋裂	● 睫毛内反症	● 短合指(趾)症	● 肥厚性癬痕	● リンパ浮腫
● 顔面神経麻痺	● 合指(趾)症	● 褥瘡	● 乳房形成不全	● 鼻骨骨折	● 裂手(趾)症
● 顔面裂	● 口唇裂				

※また、当科では臨床応用を目的として脊髄損傷をはじめとした中枢および末梢神経の再生の研究やリンパ管再生の研究を行っています。
※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

EBMを基本としつつ、患者さん一人ひとりのQOLやライフスタイルに合わせた診療を行うよう心掛けています。



生物学的製剤は積極的かつ適正に使用するよう取り組んでいます

乾癬をはじめとして、皮膚科領域においても生物学的製剤の適応疾患が増えてきました。高い効果が期待できる反面、医療費や副作用など懸念事項もある治療法ですので、完全かつ安心して治療を受けていただけるようスタッフ間での連携を強化し、患者満足度の高い診療を行っています。


乾癬診療には特に重点を置いています

患者さんの重症度やライフスタイルに合わせ、外用療法、内服療法、ナローバンドUVB・エキシマライトなどの光線療法、生物学的製剤を適切に選択しながら治療しています。

円形脱毛症の治療にも積極的に取り組んでいます

日本皮膚科学会のガイドラインを遵守しつつ、患者さんの症状やニーズに合わせた治療を行っています。急性期かつ広範囲の場合には入院のうえステロイドパルス療法も行っています。また、慢性期にはSADBE局所免疫療法や光線療法などを組み合わせ治療しています。

スタッフ紹介



主任部長 兼 医療安全管理部 室長
兼 治験管理センター長
吉川 義顕 (よしかわ よしあき)

〈専門領域〉

- 皮膚科学

資格など

- 日本皮膚科学会認定専門医
- 医療安全管理者

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
古賀 玲子 (こが れいこ)	副部長	皮膚科学

医師名	役職	医師名	役職
山上 優奈 (やまがみ ゆうな)	医員	森脇 寛 (もりわき ひろし)	専攻医
白居 志保 (しらい しほ)	医員		

診療対象となる主な疾患

湿疹・皮膚炎 <ul style="list-style-type: none"> ● アトピー性皮膚炎 ● 接触皮膚炎 ● 自家感受性皮膚炎 ● 脂漏性皮膚炎 ● 皮脂欠乏性皮膚炎 など 	紅斑症 <ul style="list-style-type: none"> ● 多形紅斑 ● 結節性紅斑 など 	ウイルス性皮膚疾患 <ul style="list-style-type: none"> ● 帯状疱疹 ● 単純疱疹 ● 尋常性疣贅 ● 伝染性軟属腫 など 	皮膚真菌症 <ul style="list-style-type: none"> ● 爪白癬 ● 足白癬 ● 股部白癬 	掌蹠膿疱症 褥瘡・皮膚潰瘍 皮膚良性腫瘍 皮膚悪性腫瘍 円形脱毛症 尋常性ざ瘡 化膿性汗腺炎 壊疽性膿皮症
蕁麻疹 痒疹	薬疹 紅皮症 血管炎 <ul style="list-style-type: none"> ● アナフィラクトイド紫斑(IgA血管炎) 	細菌性皮膚疾患 <ul style="list-style-type: none"> ● 伝染性膿痂疹 ● 蜂窩織炎 ● 丹毒 など 	その他の感染症 <ul style="list-style-type: none"> ● 梅毒 ● 疥癬 など 	尋常性乾癬 水疱性類天疱瘡
	水疱症 <ul style="list-style-type: none"> ● 尋常性天疱瘡 ● 水疱性類天疱瘡 			

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

地域の先生方に安心して患者さんのご紹介をいただけるよう、診断、治療の質向上に日々努力しています。また、病診連携を上手く活用し、急性期治療や難症例治療は当科で行い、治療終了後、安定期に入ったら先生方での経過観察をお願いすることで患者さんのQOV/QOLを維持できるよう心がけています。

- 白内障手術については各種眼内レンズをそろえており、患者さんの状態に合わせて乱視矯正レンズや多焦点眼内レンズなど使用可能です。また、従来の単焦点眼内レンズに比較して焦点距離の長い単焦点眼内レンズも新たに採用しました。白内障難症例にも対応可能で、特にチン小帯脆弱症例の白内障手術では予防的に嚢内縫着術を行っており、眼内レンズ脱臼症例には眼内レンズ縫着術や強膜内固定術を施行しています。
- 緑内障手術はレーザー治療から、流出路再建術や濾過手術、チューブシャント手術など初期から末期まで病状に応じた術式が選択可能であり、緑内障白内障同時手術も積極的に行っています。
- 網膜硝子体疾患の治療では、頻度の高い黄斑前膜や黄斑円孔に加えて、難治性黄斑円孔、裂孔原性網膜剥離、増殖硝子体網膜症、増殖糖尿病網膜症など難易度の高い疾患にも積極的に手術を行っています。
- 黄斑疾患の診断・治療では黄斑外来を開設し、黄斑部の変性疾患、難治性疾患の患者さんに、的確な診断と最新の知見に基づいた治療（抗VEGF療法、光線力学的療法など）を提供しています。
- ぶどう膜炎の診断・治療では、ぶどう膜炎専門外来を開設し、的確な診断と最新の知見に基づいた治療を提供しています。
- 中途失明の方のために、ロービジョンケア専門外来を設け、社会生活の維持のためのお手伝いをしています。

スタッフ紹介

主任部長
田邊 晶代 (たなべ てるよ)

〈専門領域〉

- 緑内障

資格など

- 医学博士
- 日本眼科学会認定専門医
- 京都大学医学部臨床教授
- 京都大学医学部非常勤講師

部長
宮原 晋介 (みやはら しんすけ)

〈専門領域〉

- サージカル

資格など

- 医学博士
- 日本眼科学会認定専門医
- 京都大学医学部非常勤講師

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
山川 百李子 (やまかわ ももこ)	副部長	涙道
橋本 宗典 (はしもと ひろおき)	副部長	緑内障、網膜硝子体疾患、白内障

医師名	役職	医師名	役職	医師名	役職
玉垣 瑛 (たまがき よう)	医員	泉谷 祥之 (いずたに よしゆき)	専攻医	吉村 長久 (よしむら ながひさ)	非常勤医師
遠谷 寛人 (えんたに ひろと)	医員	杉浦 楓 (すぎうら ふう)	専攻医	沖波 聡 (おきなみ さとし)	非常勤医師
		兎坂 明由 (とさか あきよし)	専攻医	木村 忠貴 (きむら ただき)	非常勤医師
				國吉 一樹 (くによし かずき)	非常勤医師
				谷口 美砂 (たにくち みさ)	非常勤医師

診療対象となる主な疾患

<p>水晶体関連疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 白内障 ● 眼内レンズ位置異常 <p>緑内障</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 加齢黄斑変性 ● 黄斑変性症、ジストロフィー <p>網膜硝子体関連疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 網膜裂孔 ● 網膜剥離 ● 糖尿病網膜症 ● 硝子体出血 	<ul style="list-style-type: none"> ● 硝子体黄斑牽引症候群 ● 黄斑円孔 ● 黄斑上膜（網膜前膜） ● 黄斑前膜 ● 加齢黄斑変性 ● 黄斑変性症、ジストロフィー ● 網膜色素変性症 ● 網膜静脈閉塞症 ● 網膜動脈閉塞症 ● ぶどう膜炎 	<p>視神経異常、眼球運動障害関連疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 視神経炎 ● 視神経症 ● 眼球運動障害 <p>前眼部疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 角結膜炎 ● 角膜疾患 ● ドライアイ ● 翼状片 	<p>外眼部疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 眼瞼下垂 ● 眼瞼炎 ● 霰粒腫 ● 麦粒腫 ● 内反症 ● 睫毛乱生 <p>涙道部疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 涙囊炎
--	---	--	--

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

治療体制

- 北野病院は、地域の中核病院として、質の高い医療を実践し、信頼される病院をめざします。
- 治療選択に際しては、情報公開・インフォームドコンセントを重視します。
- 鼓膜再生・突発性難聴の新治療を開始しました。
- 慢性中耳炎、真珠腫、錐体尖病変、聴神経腫瘍などの多彩な中耳・内耳・頭蓋底疾患に対する最新の手術治療を行っています。
- 突発性難聴、顔面神経麻痺の薬物治療を行っています。
- めまいの診断と保存的治療・生活指導ならびに難治性めまいに対する手術治療を行っています。
- 中等度難聴に対し、埋め込み型骨誘導補聴器による手術治療を行っています。
- 高度難聴に対する人工内耳手術、耳硬化症に対するアブミ骨手術、メニエール病に対する内リンパ囊開放術などを得意としています。
- 聴神経腫瘍手術、錐体尖手術、側頭骨腫瘍手術を得意としています。
- 鼻副鼻腔において、ナビゲーションシステムを用いた内視鏡手術を行っています。アレルギー性鼻炎に対する後鼻神経切断術などの手術も行っています。
- 喉頭・音声障害に対し機能改善手術（喉頭微細手術・甲状軟骨形成術など）を行っています。
- 頭頸部がん（聴器がん、口腔がん、鼻副鼻腔がん、咽頭がん、喉頭がん、耳下腺がん、甲状腺がんなど）全般のがん診療を行っています。
- 進行頭頸部がんの治療は、放射線治療部・腫瘍内科・形成外科・消化器科・歯科口腔外科と共同で、最善の治療を協議し、患者さんに十分説明し、同意のうえ、診療を行います。
- 2021年度より、PET-CT検査を導入しました。また、強度変調放射線治療も行うことができるようになり、患者さんのQOLを重視した頭頸部がん治療をめざします。

認定施設

- 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科専門医研修基幹病院
- 日本耳科学会耳科手術指導医制度認定研修施設
- 日本内分泌外科学会専門医制度関連施設
- 日本耳鼻咽喉科学会認定指導医
- 日本耳鼻咽喉科学会認定専門医
- 日本耳鼻咽喉科学会認定補聴器相談医
- 日本耳科学会認定耳科手術暫定指導医
- 公益財団法人先端医療振興財団臨床研究情報センター客員上席研究員
- 京都大学医学部臨床教授
- 京都大学医学部非常勤講師
- Best Doctors in Japan™ 2010-2021

スタッフ紹介

主任部長
前谷 俊樹 (まえたに としき)

〈専門領域〉

- 頭頸部腫瘍

特任部長
兼 難聴・鼓膜再生センター長
金丸 眞一 (かねまる しんいち)

〈専門領域〉

- 中耳・内耳・側頭骨・頭蓋底外科学
- 頭頸部再生医療

資格など

- 医学博士
- 日本耳鼻咽喉科学会専門医
- 日本耳鼻咽喉科学会認定指導医
- 京都大学医学部臨床教授

資格など

- 医学博士
- 日本耳鼻咽喉科学会認定専門医
- 日本耳鼻咽喉科学会認定補聴器相談医
- 日本耳科学会認定耳科手術暫定指導医
- 公益財団法人先端医療振興財団臨床研究情報センター客員上席研究員
- 京都大学医学部臨床教授
- 京都大学医学部非常勤講師
- Best Doctors in Japan™ 2010-2021

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域	医師名	役職	医師名	役職
金井 理絵 (かない りえ)	副部長	中耳・内耳	北 真一郎 (きた しんいちろう)	医員	白井 良直 (しらい らずむ)	専攻医
原田 博之 (はらだ ひろゆき)	副部長	頭頸部がん	熊澤 明子 (くまざわ あきこ)	医員		
吉田 季来 (よしだ みさき)	副部長	中耳・内耳	柚木 稜平 (ゆききりょうへい)	医員		
山口 智也 (やまぐち ともや)	副部長	中耳・内耳・鼻副鼻腔				

当科で可能な主要検査

- | | | | | | |
|---------|----------|---------------|----------|-----------|-------------|
| ● CT | ● 電子内視鏡 | ● 聴力検査（純音、語音） | ● 耳管機能検査 | ● 誘発筋電図検査 | ● 穿刺吸引細胞診検査 |
| ● MRI | ● 発生機能検査 | ● 耳鳴検査 | ● 聴性脳幹反射 | ● 電気味覚検査 | ● 組織生検検査 |
| ● 超音波検査 | ● 音響分析検査 | ● 耳音響反射検査 | ● 平衡機能検査 | ● 神経興奮性検査 | |

診療対象となる主な疾患

<p>聴器・側頭骨・顔面疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 先天性耳瘻孔 ● 外耳炎 ● 外耳道異物 ● 聴器がん ● 急性中耳炎 ● 慢性中耳炎 ● 鼓膜損傷 ● 真珠腫性中耳炎 ● 滲出性中耳炎 ● 耳管狭窄症 ● 伝音難聴 ● 機能性難聴 ● 心因性難聴 	<ul style="list-style-type: none"> ● 急性感音難聴 ● 突発性難聴 ● 耳鳴り ● 平衡機能障害 ● メニエール病 ● めまい ● 良性発作性頭位めまい ● 舌腫瘍 ● 口腔がん <p>咽頭・食道疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 咽頭異物 ● アデノイド増殖症 ● 鼻咽喉腔閉鎖不全 ● 咽頭喉頭炎 ● 急性扁桃炎 	<ul style="list-style-type: none"> ● 習慣性扁桃炎 ● 咽頭腫瘍 ● 上咽頭がん ● 中咽頭がん ● 下咽頭がん ● 聴神経腫瘍 ● 顔面神経麻痺 ● 鼻副鼻腔・アレルギー疾患 ● 肥厚性鼻炎 ● 鼻出血 ● 鼻中隔湾曲症 ● 鼻内異物 ● 慢性副鼻腔炎 ● 副鼻腔嚢胞 	<ul style="list-style-type: none"> ● 嗅覚障害 ● 鼻副鼻腔良性腫瘍 ● 鼻副鼻腔がん ● 口唇・口腔疾患 ● 口唇貯留嚢胞 ● 上唇小帯短縮 ● 舌小帯短縮 ● 舌痛症 ● 口内炎 ● 味覚障害 ● 頸部食道がん ● 上気道・喉頭・気管疾患 ● 睡眠時無呼吸症候群 ● 上気道狭窄 ● 咽頭異物 	<ul style="list-style-type: none"> ● 気管異物 ● 声帯ポリープ ● 声帯結節 ● 喉頭内芽腫 ● 喉頭良性腫瘍 ● 反回神経麻痺 ● 唾液腺疾患 ● 急性化膿性耳下腺炎 ● シェーグレン症候群 ● IgG4関連疾患 ● 顎下腺炎 ● 唾石症 ● 唾液腺炎 ● 唾液性腫瘍 ● 耳下腺がん 	<ul style="list-style-type: none"> ● 顎下腺がん ● 舌下腺がん ● 小唾液腺がん ● 甲状腺機能亢進症 ● 甲状腺良性腫瘍 ● 縦隔甲状腺腫 ● 甲状腺がん ● 副甲状腺機能亢進症 ● 副甲状腺がん ● 側頭嚢胞 ● 甲状舌管嚢胞 ● 頭頸部腫瘍 ● 頭頸部原発不明がん ● 頭蓋底腫瘍
--	---	---	---	---	--

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

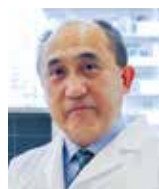
歯科口腔外科

治療体制

- 正しい咬み合わせをめざした各種顎矯正手術
- 骨吸収抑制薬関連顎骨壊死、骨髄炎に対する歯科口腔外科的アプローチ
- 全身麻酔下での手術や化学療法、頭頸部放射線治療を受ける方の周術期口腔機能管理
- 睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置治療
- 顎口腔腫瘍、嚢胞に対する各種外科的治療
- 急性歯性感染症に対する消炎処置
- 顎骨骨折、歯牙脱臼、粘膜損傷などの口腔顔面外傷に対する保存的・外科的治療
- 顎関節症に対する保存的治療
- 智歯(親知らず)抜歯の様な難抜歯、全身管理が必要な患者さんの抜歯
- 中央手術室の全麻手術枠を、以前の1枠(水曜午前1枠)から合計3枠(水曜午前1枠・午後1枠、金曜1枠)に増枠しました。



スタッフ紹介



主任部長
高橋 克 (たかはし かつ)

〈専門領域〉

- 顎変形症
- 骨吸収抑制薬関連顎骨壊死・骨髄炎

資格など

- 医学博士
- 日本口腔科学会認定指導医
- 日本口腔外科学会認定指導医
- 日本再生医療学会認定再生医療認定医
- 日本口腔科学会認定医
- 日本口腔外科学会認定専門医
- 日本小児口腔外科学会認定指導医
- 歯科医師臨床研修指導医

(所属医師・スタッフ)

医師名	役職	専門領域
上田 優貴子 (うえだ ゆきこ)	副部長	口腔外科、小児口腔外科

当科で可能な主要検査

- CT
- MRI
- 骨シンチグラフィ

診療対象となる主な疾患

● エプーリス	● 頬部蜂窩織炎	● 黒毛舌	● 先天性無歯症
● 開咬	● 口腔乾燥症	● 歯原性腫瘍	● 咀嚼筋腱・腱膜過形成症
● 下顎後退症	● 口腔内腫瘍	● 歯原性嚢胞	● 唾液腺疾患
● 下顎前突症	● 口腔内嚢胞	● 歯根嚢胞	● 唾石症
● 下顎非対称	● 口唇粘液嚢胞	● 上顎後退症	● 白板症
● 顎下部蜂窩織炎	● 口腔粘膜疾患	● 上顎前突症	● 抜歯(難抜歯、智歯抜歯)
● 顎関節症	● 口腔扁平苔癬	● 上下顎非対称	● ブランダン・ヌーン嚢胞
● 顎関節脱臼	● 溝状舌	● 睡眠時無呼吸症候群	● 埋伏智歯
● 顎顔面領域の外傷	● 口内炎	● 正中過剰埋伏歯	● 疣性口腔粘膜黄色腫
● がま腫	● 紅板症	● 舌炎	

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

泌尿器科

泌尿器科は、あらゆる泌尿器科領域の疾患に対し、高度かつ患者さんに寄り添った丁寧な医療を提供することをめざしています。



泌尿器科領域における悪性疾患のみならず、尿路結石や排尿障害、尿路感染症などの良性疾患についても、質の高い内科的・外科的治療を行っています。結石発作、腎盂腎炎、急性陰嚢症などに対する救急治療にも積極的に対応しています。

ロボット支援手術(ダ・ヴィンチ)

当科では「ダ・ヴィンチ・サージカルシステム」によるロボット支援体腔鏡手術を行っています。現在までに250例以上の実績があり、前立腺がんに対する前立腺全摘除術に加え、2016年より腎がんに対する腎部分切除術、そして2022年からは腎がんに対する腎摘除術、腎盂尿管がんに対する腎尿管全摘除術、腎尿管移行部狭窄症に対する腎盂形成術も対応可能な体制を整えています。

前立腺肥大症に対する経尿道的手術(PVP、HoLEP)

前立腺肥大症に対する経尿道的手術として、当科ではグリーンライトレーザーを用いた前立腺蒸散術(PVP)およびホルミウムレーザーを用いた前立腺核出術(HoLEP)を行っています。PVPは軽症~中等症の肥大症に対し、出血が少なく安全な処置を行うことが可能であり、HoLEPは高度な肥大症に対し、効率的でより根治的な組織摘除を行うことができます。

重症過活動膀胱に対する手術療法

重症の過活動膀胱に対する外科的治療として、2018年より仙骨神経刺激療法(SNM)を開始しました。特殊な電極を用いて膀胱に持続的に電気刺激を与えることにより、薬物治療が無効な患者さんでも良好な治療効果を得ることができます。また、2020年にはボツリヌス毒素膀胱壁内注入療法も開始しました。尿道からの内視鏡操作にて、膀胱の筋層内にボツリヌス毒素を注入し、1回の処置で約6か月間膀胱の過剰な活動を抑制することができます。

スタッフ紹介



主任部長
岡田 卓也 (おかだ たくや)

〈専門領域〉

- 泌尿器科全般

資格など

- 日本泌尿器科学会認定専門医
- 日本泌尿器科学会認定指導医
- 日本泌尿器科内視鏡・ロボティクス学会認定泌尿器腹腔鏡技術認定医



部長
宗田 武 (そうだ たけし)

〈専門領域〉

- 泌尿器科全般

資格など

- 日本泌尿器科学会認定専門医
- 日本泌尿器科学会認定指導医
- 日本泌尿器科内視鏡・ロボティクス学会認定泌尿器腹腔鏡技術認定医
- 日本内視鏡外科学会認定技術認定医(泌尿器腹腔鏡)
- 日本排尿機能学会認定医
- 日本泌尿器科内視鏡・ロボティクス学会認定泌尿器ロボット支援手術プロクター

(所属医師・スタッフ)

医師名	役職	医師名	役職	医師名	役職
牧田 哲幸(まきた のりゆき)	医員	大塚 光(おおつか ひかり)	医員	山内 智瑛(やまうち ともあき)	専攻医

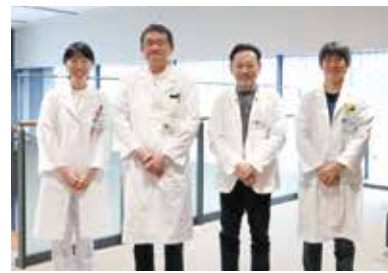
診療対象となる主な疾患

● 陰嚢水腫	● 腎損傷	● 精巣上体炎	● 尿失禁	● 副腎がん
● 過活動膀胱	● 腎嚢胞	● 前立腺炎	● 尿道狭窄	● 副腎良性腫瘍
● 血尿	● 水腎症	● 前立腺がん	● 尿道損傷	● 包茎
● 腎尿管がん	● 精索静脈瘤	● 前立腺肥大症	● 尿路感染症	● 膀胱炎
● 腎がん	● 精巣がん	● 尿管狭窄	● 尿路結石症	● 膀胱がん
● 神経因性膀胱				

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

小児外科

こどもは大人のミニチュアではありません。小児外科では専門知識を持ち、専門のトレーニングを受けた小児外科医が治療や手術を行います。



スタッフ紹介



副院長 兼 主任部長
兼 初期診療センター長
兼 漏斗胸センター長

佐藤 正人 (さとう まさひと)

〈専門領域〉

- 小児内視鏡外科 ■ 小児外科

資格など

- 医学博士 ■ 日本外科学会認定専門医 ■ 日本外科学会認定指導医
- 日本小児外科学会認定専門医 ■ 日本小児外科学会認定指導医
- 日本小児外科学会 評議員 ■ 日本小児外科学会 近畿地方会評議員
- 日本消化器外科学会認定医 ■ 日本内視鏡外科学会認定技術認定医 (小児外科)
- 日本内視鏡外科学会 評議員・COI委員会委員 ■ 日本小児がん学会認定外科医
- 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 ■ 近畿外科学会 評議員
- International Pediatric Endosurgery Group Member
- Pacific Association of Pediatric Surgeons Member
- Best Doctors in Japan™ 2020-2023

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
岩出 珠幾 (いわで たまき)	副部長	小児外科一般、小児救急、重症心身障害患者に対する外科治療
遠藤 耕介 (えんどう こうすけ)	副部長	小児内視鏡外科
園田 真理 (そのだ まり)	副部長	小児外科一般

医師名	役職
諸富 嘉樹 (もろとみ よしき)	非常勤医師

診療対象となる主な疾患

小児外科では脳脊髄、眼、心臓、骨を除くすべての疾患を治療します。

顔面・頸部	食道	小腸・大腸	肝・胆・脾・膵・門脈	泌尿器
● 耳前瘻孔 ● 副耳 ● 舌小帯短縮症 ● 正中顎嚢胞 ● 側頸嚢胞 ● 梨状窩瘻 など	● 先天性食道閉鎖症 ● 先天性食道狭窄症 ● 食道アカラシア ● 胃食道逆流症 ● 消化管異物 など	● 壊死性腸炎 ● 先天性腸閉鎖症・狭窄症 ● 胎便性腹膜炎 ● 腸回転異常 ● メッケル憩室 ● 消化管重複症 ● 腸重積症 ● 急性虫垂炎 ● 潰瘍性大腸炎・クローン病 ● 消化管ポリープ ● ヒルシュスプルング病 ● 腸閉塞 (イレウス・腸管癒着症) など	● 先天性胆道閉鎖症 ● 先天性胆道拡張症 ● 胆石症 ● 脾炎 ● 脾嚢胞 ● 脾臓疾患 ● 門脈圧亢進症 など	● 水腎症・尿管管症 ● 嚢胞性腎疾患 ● 膀胱尿管逆流症 ● 尿道下裂 ● 包茎 など
● 肺分画症 ● 漏斗胸 ● 気管切開 など	● 横隔膜 ● 食道裂孔ヘルニア ● 横隔膜ヘルニア ● 横隔膜弛緩症 など	● 腸重積症 ● 急性虫垂炎 ● 潰瘍性大腸炎・クローン病 ● 消化管ポリープ ● ヒルシュスプルング病 ● 腸閉塞 (イレウス・腸管癒着症) など	● 腹壁・臍・鼠径部・精巣・卵巣 ● 腹壁破裂 ● 臍帯ヘルニア ● 臍ヘルニア ● 臍腸管・尿管管遺残 ● 鼠径ヘルニア ● 陰嚢水腫 ● 停留精巣 ● 急性陰嚢症 (精巣捻転など) ● 卵巣疾患 など	● 神経芽細胞腫 ● 腎芽腫 ● 肝芽腫 ● 横紋筋肉腫 ● リンパ管腫 など
● 先天性胆道閉鎖症 ● 先天性胆道狭窄症 ● 食道アカラシア ● 胃食道逆流症 ● 消化管異物 など	● 横隔膜 ● 食道裂孔ヘルニア ● 横隔膜ヘルニア ● 横隔膜弛緩症 など	● 腸重積症 ● 急性虫垂炎 ● 潰瘍性大腸炎・クローン病 ● 消化管ポリープ ● ヒルシュスプルング病 ● 腸閉塞 (イレウス・腸管癒着症) など	● 腹壁・臍・鼠径部・精巣・卵巣 ● 腹壁破裂 ● 臍帯ヘルニア ● 臍ヘルニア ● 臍腸管・尿管管遺残 ● 鼠径ヘルニア ● 陰嚢水腫 ● 停留精巣 ● 急性陰嚢症 (精巣捻転など) ● 卵巣疾患 など	● 水腎症・尿管管症 ● 嚢胞性腎疾患 ● 膀胱尿管逆流症 ● 尿道下裂 ● 包茎 など

太字：内視鏡外科 (腹腔鏡・胸腔鏡など) 手術が可能
下線：日帰り手術可能

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

産婦人科

産婦人科は妊娠・出産、婦人科良性疾患、婦人科悪性疾患の広い分野で最新かつ安全な医療を患者さんにご提供しています。



総合病院の利点を生かした安全な妊娠・出産

大阪府の地域周産期母子医療センターに指定されており、OGCS搬送にも積極的に対応しています (早産症例は原則として妊娠26週以後)。一方、リスクの低い妊婦さんに関してはクリニックで妊婦健診、当院で分娩という連携にも取り組んでいます。

婦人科良性疾患に対する低侵襲手術

子宮頸部上皮内腫瘍 (CIN) に対しては、1泊入院でのLEEP手術が施行可能です。また婦人科良性疾患に対する低侵襲手術に関しては、子宮・卵巣良性疾患に対する腹腔鏡手術、子宮良性疾患に対するロボット支援手術にも積極的に取り組んでいます。

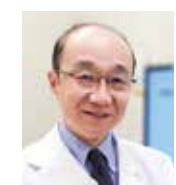
子宮悪性腫瘍に対する低侵襲治療

子宮頸がんに対してはセンチネルリンパ節生検、広汎子宮頸部摘出術による術後QOLの保持に努めています。また子宮頸がん、子宮体がんに対する腹腔鏡下根治手術、ロボット支援手術 (子宮体がん) も学会の施設認定を受けて施行しています。

遺伝子情報にもとづく婦人科悪性腫瘍治療の個別化

院内遺伝子カウンセラーと連携しながら、家族性乳がん卵巣がん症候群の患者さんに対する予防的卵巣卵管切除術に積極的に取り組んでいます。また通常の卵巣がんや難治性婦人科がんに対しても、遺伝子情報に基づいて化学療法を選択を行っています。

スタッフ紹介



主任部長
樋口 壽宏 (ひぐち としひろ)

〈専門領域〉

- 婦人科腫瘍 ■ 産婦人科一般

資格など

- 日本産科婦人科学会認定専門医 ■ 日本産科婦人科学会認定指導医
- 日本婦人科腫瘍学会認定専門医 ■ 日本婦人科腫瘍学会認定指導医
- 母体保護法指定医
- 全日本病院協会 医療安全管理者
- da Vinci surgical system Off-site training program修了

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
吉岡 弓子 (よしおか ゆみこ)	副部長	婦人科腫瘍、産婦人科
関山 健太郎 (せきやま けんたろう)	副部長	婦人科腫瘍、腹腔鏡手術、ロボット支援手術
奥田 亜紀子 (おくだ あきこ)	副部長	周産期、産婦人科一般、腹腔鏡手術、ロボット支援手術
小圃 祐喜 (こぞの ゆうき)	副部長	産婦人科一般、婦人科腫瘍、ロボット支援手術

医師名	役職	医師名	役職	医師名	役職
森部 絢子 (もりべ あやこ)	医員	森 将 (もりしょう)	専攻医	辻 なつき (つじ なつき)	非常勤医師
児嶋 真千子 (こじま まちこ)	医員	阿部 秋子 (あべ あきこ)	専攻医	松岡 麻理 (まつおか まり)	非常勤医師
河合 恵理 (かわい えり)	医員	樫原 由樹 (かしはら ゆき)	専攻医	瀬尾 晃司 (せお こうじ)	非常勤医師
高折 彩 (たかおり あや)	医員	山村 聡俊 (やまむら さとし)	専攻医		
大月 美輝 (おおつき みき)	医員	横田 美緒 (よこた みお)	専攻医		
山内 綱太 (やまうち こうた)	医員	井関 梨花 (いせき りか)	専攻医		
中村 しほり (なかむら しほり)	医員				

診療対象となる主な疾患

● 異所性妊娠 (子宮外妊娠)	● 子宮内膜ポリープ	● 正常妊娠	● 双胎妊娠
● 子宮筋腫	● 子宮肉腫	● 切迫早産	● 腹膜炎
● 子宮頸がん	● 常位胎盤早期剥離	● 切迫流産	● 卵巣がん
● 子宮体がん	● 子宮頸部上皮内腫瘍	● 前置胎盤	● 卵巣腫瘍
● 子宮内膜症			

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

麻酔科・集中治療部

麻酔科

麻酔科医師の最大の役割は患者さんに安全に手術を受けていただくことです。安心して手術に臨めるよう、麻酔科一同、全力を尽くします。

豊富な麻酔症例

当院麻酔科では年間3,500~3,800件の麻酔症例を管理し、そのうち3,100~3,400件が全身麻酔です。生後間もない未熟児から100歳を越える超高齢者まで、様々な方の麻酔管理を日夜行っています。

充実した麻酔科スタッフ

常勤の麻酔科スタッフは14名、麻酔科専門医10名、レジデント2名(2022年4月現在)。夜間休日においても麻酔科医師1~2名が24時間365日、院内に常駐して緊急手術に対応しています。

集中治療部

当院集中治療部は、術後症例を中心に、救急・院内発症の重症例が集約されます。安全で効率的な重症患者管理をめざしています。

集中治療専門医(専従)を中心とした24時間体制の全身管理

当院集中治療部では一般病院では数少ない専従の集中治療専門医が中心となって全身管理を担当し、専門性の高い分野を担当医が行うsemi-closedシステムをとっています。このことにより、枠組みにとらわれない安定した患者管理と統一性のある集中治療室運営が可能になりました。

説明と同意に基づいた麻酔方法

手術術式と患者さんの全身状態から判断して最適と思われる麻酔方法を考えます。執刀医や関係科医師らとも打ち合わせます。さらに実際の麻酔手順や麻酔の副作用などについて患者さんに詳しく説明させていただき、十分にご納得された上で麻酔方法を決めています。

疼痛管理

当院ではペインクリニック外来は開設していませんが、入院患者さんの疼痛に関しては可能な範囲で対応させていただきます。

多職種連携によるチーム医療の重視

現代の複雑な背景をもった重症患者管理には、各診療科・看護部・薬剤部・臨床工学部・リハビリテーション・栄養科などの多職種連携が不可欠です。今後も他部門と情報交換しながら、より高度な医療をコンスタントに提供できるようICUスタッフが一丸となって努力していききたいと思います。

スタッフ紹介



麻酔科 主任部長
兼 中央手術部 部長
加藤 茂久(かとう しげひさ)

〈専門領域〉
■ 麻酔全般

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本専門医機構認定麻酔科専門医
- 日本麻酔科学会認定指導医
- 関西医科大学臨床教授



麻酔科 部長
足立 健彦(あだち たけひこ)

〈専門領域〉
■ 麻酔科学 ■ 集中治療医学

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本専門医機構認定麻酔科専門医
- 日本麻酔科学会認定医
- 日本麻酔科学会 監事
- 日本老年麻酔学会認定老年麻酔指導医



集中治療部 主任部長
宮崎 嘉也(みやざき よしや)

〈専門領域〉
■ 疼痛治療 ■ 集中治療医学 ■ 麻酔全般

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本専門医機構認定麻酔科専門医
- 日本麻酔科学会認定医
- 日本麻酔科学会認定指導医
- 日本ペインクリニック学会認定専門医
- 日本集中治療医学会認定専門医
- I-C-D



麻酔科 部長
黒崎 明子(くろさき あきこ)

〈専門領域〉
■ 小児麻酔

資格など

- 日本専門医機構認定麻酔科専門医
- 日本麻酔科学会認定指導医
- 日本小児麻酔学会認定医
- 日本小児麻酔学会 代議員

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域	医師名	役職	専門領域
原 朋子(はら ともこ)	副部長		直井 紀子(なおいのりこ)	副部長	
前川 俊(まえかわ しゅん)	副部長	麻酔全般、心臓血管麻酔、集中治療医学	村田 裕(むらた ゆたか)	副部長	麻酔全般

医師名	役職	医師名	役職	医師名	役職
柚木 圭子(ゆのき けいこ)	医員	岡本 駿和(おかもと たかかず)	専攻医	佐々木 由紀子(ささき ゆきこ)	非常勤医師
伊藤 史織(いとう しおり)	医員	吉盛 太郎(よしもり たろう)	専攻医	岩田 良佳(いわた よしか)	非常勤医師
中村 緑(なかむら みどり)	医員			松山 智紀(まつやま ともり)	非常勤医師
辻 和也(つじ かずや)	医員			三好 健太郎(みよし けんたろう)	非常勤医師
				吉田 裕治(よしだ ゆうじ)	非常勤医師

中央手術部

中央手術部では外科系各科の手術および全身麻酔の必要な処置・治療が円滑に行えるように、管理運営を行っています。

当院では、年間8,000件ほどの手術を施行しており、医師・看護師・臨床工学技士などがチームとして、協力して運営にあたっています。また、アイセンター開設に伴い、眼科ならびに局所麻酔用手術室を2室新設し、2023年1月より稼働を開始しました。さらに2023年秋には中央手術室が拡張されて、新たにハイブリッド手術室と心臓外科専用手術室が稼働する予定です。

手術を受ける患者さんの不安が少しでも少なくなるよう、そして安全に手術が受けられるよう、スタッフが一丸となって、援助させていただきます。

デイ・サージャリー室(眼科ならびに局所麻酔用)



手術室



手術用ロボット「ダ・ヴィンチ」を使用した手術風景



放射線診断科

全身の様々な疾患に対する画像診断を通じて、当院の診療の質の向上に貢献できるように取り組んでいます。

PET/CTを導入しました

2021年に高感度のPET/CT装置を導入し、悪性腫瘍の病期診断、転移・再発の診断に有用なFDG-PET/CT検査を行っています。院外からも地域医療サービスセンターを通じて検査のご依頼が可能です。経験豊富な専門医が診断を行う体制が整っています。

画像診断の質の向上に努めています

コロナ禍の中で導入された京大病院放射線診断科の専門領域のオンラインカンファレンスに積極的に参加し、院内各科や科内のカンファレンスともあわせ、画像診断の質の向上に日々取り組んでいます。

主な機器紹介

X線CT組合せ型ポジトロンCT装置 (PET/CT)

当院で導入されたPET/CT装置は、体軸方向に26cmという最大級の視野を持つ検出器を搭載し、従来機種に比較して圧倒的な高感度を実現しています。また、最新のPET画像再構成法により、「画質」と「定量精度」の向上を同時に実現しています。これらにより、病変の描出能の向上、隣接する病変の識別能の向上、肝などのノイズの大きな臓器での画質の向上が実現し、高い診断能によりがん診療に貢献します。



核医学診断用検出器 回転型SPECT装置

当院で導入されたSPECT装置は、新たな低エネルギー高感度・高分解能コリメータにより、画質の向上と短時間収集を同時に実現します。検出器が移動する間もデータを収集する新たな撮像方法により、SPECT収集カウンターの最大20%増が可能となり、撮像時間の短縮、病変描出能の改善をもたらします。さらに、最新の核医学装置専用ワークステーションを使用することにより、様々な検査目的を持つ核医学診断に適した定量解析が可能となりました。骨シンチ、脳血流シンチ、DATシンチ、そして心筋シンチなど、新たなSPECT装置により診療の質の向上をめざして参ります。

院外からの検査のご依頼にも対応しています

PET/CTだけでなく、CT・MRI・SPECT検査も院外からのご依頼が可能で、専用の予約枠を設けています。地域医療サービスセンターを通じてご依頼いただき、検査後には画像データ (CD-R) ・診断報告書をお送りします。

多職種連携したチーム医療で最適な検査を行います

画像診断は、放射線診断科医師だけでなく、検査ご依頼の医師、診療放射線技師、看護師など多くの方が関わるチーム医療で成り立っています。多職種間の連携を図り、患者さんに有益な検査・IVRが安全・適切に施行されるように努めています。

病理診断科

診療科としての標榜は2012年からですが、1979年に検査部から独立し、40年以上の歴史を有しています。

京都大学の病理診断科と緊密な連携をとっています

当院の他の診療科と同じく、京都大学の病理診断科と緊密な連携をとり、スタッフの派遣や稀少症例の確定診断のための免疫染色やFISH法の実施などで協力体制を敷き、診断レベルの向上に努めています。

スタッフ紹介



主任部長
弓場 吉哲 (ゆば よしあき)

〈専門領域〉
■ 外科病理一般 ■ 病理診断

資格など

- 日本病理学会認定病理専門医
- 日本臨床細胞学会認定細胞診専門医
- 死体解剖資格
- 日本病理学会 学術評議員
- 京都大学医学部臨床教授
- 病理専門医研修指導医
- 日本臨床細胞学会認定細胞診指導医



部長
本庄 原 (ほんじょう げん)

〈専門領域〉
■ 外科病理一般 ■ 病理診断

資格など

- 日本病理学会認定病理専門医
- 病理専門医研修指導医
- 日本臨床細胞学会認定細胞診専門医
- 日本臨床細胞学会認定細胞診指導医
- 死体解剖資格

当科で可能な検査

- 細胞診断
- 手術で摘出された臓器・組織の診断
- 病理解剖
- 生検組織診断
- 手術中の迅速診断

スタッフ紹介



主任部長 兼 放射線部部長

石守 崇好
(いしもり たかよし)

〈専門領域〉
■ 画像診断 ■ 核医学
■ PET-CT

資格など

- 日本医学放射線学会認定放射線診断専門医
- 日本医学放射線学会認定放射線科研修指導者
- 日本核医学会認定核医学専門医
- 日本核医学会認定PET核医学認定医
- 京都大学臨床教授



部長

広川 侑奨
(ひろかわ ゆうすけ)

〈専門領域〉
■ 画像診断 ■ 核医学
■ IVR

資格など

- 日本医学放射線学会認定放射線診断専門医
- 日本医学放射線学会認定放射線科研修指導者
- 日本核医学会認定核医学専門医
- 日本核医学会認定PET核医学認定医
- 日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ読影認定医 (評価A-S)
- 臨床研修指導医 ■ 京都大学医学博士



嘱託部長

奥村 亮介
(おくむら りょうすけ)

〈専門領域〉
■ 脳神経

資格など

- 日本医学放射線学会認定放射線診断専門医
- 日本医学放射線学会認定放射線科研修指導者

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
久保 滋人 (くぼ しげと)	副部長	画像診断、女性骨盤、肝胆膵、心血管領域
澤田 健 (さわだ たけし)	副部長	画像診断、神経放射線
糟谷 誠 (かずや まこと)	副部長	画像診断

医師名	役職	医師名	役職	医師名	役職
井上 依里香 (いのうえ えりか)	医員	高田 知和 (たかだ ともかず)	医員	高橋 瞭 (たかはし りょう)	専攻医
油谷 英孝 (ゆたに ひでたか)	医員	伊藤 玲佳 (いとう れいか)	医員		

診断・治療に難渋する感染症に対して感染症指導医・専門医が各診療科と連携を図りながら積極的な診療支援を行っています。



重症感染症症例における感染症診療に関する助言・指導・診療

臨床検査部の協力を得ながら、菌血症症例などの重症感染症の診断・治療や無菌検体からの細菌検査陽性症例などを選択して、助言、指導、および診療をしています。各診療科の主治医や担当医師からの情報を得て方針を確認した上でカンファレンスにて全員で治療内容を検討し、感染症診療に関する治療上の問題点や方針を討議しています。

抗菌薬適正指導(AST)活動

広域抗菌薬・抗MRSA薬などを使用する重症感染症症例、治療薬選択が難しい薬剤耐性菌感染症症例などを当科が選択し、適切な抗菌薬治療の助言、指導、および診療を行っています。これにより、適切な抗菌薬使用推進をはかっています。

感染症コンサルテーション

様々な感染症に対して各診療科から入院・外来を問わず、随時対診を受けています。患者さんの状態や検査データなどから抗菌薬の選択や感染症治療に関する相談に加え、退院に向けたプロセスなど、長期的な視点をもったコンサルテーションを実施しています。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)後遺症の診療

COVID-19の感染拡大に伴いCOVID-19後遺症患者も増加し、その受診の受け皿がないことが問題となっています。後遺症の専門外来では、多彩な臨床症状を呈する後遺症患者の総合的なアプローチによる診療を行っています。

スタッフ紹介



部長 兼 病院長補佐 兼 感染制御対策室長
兼 初期診療センター副センター長

丸毛 聡 (まるも さとし)

〈専門領域〉

- 気管支喘息 ■ 慢性閉塞性肺疾患(COPD)
- 抗酸菌症 ■ 間質性肺炎

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本内科学会認定総合内科専門医
- 日本呼吸器学会認定専門医
- 日本アレルギー学会認定専門医
- 日本結核病学会結核非結核性抗酸菌症認定医
- 日本結核病学会結核非結核性抗酸菌症認定指導医
- 日本感染症学会認定専門医
- Infection Control Doctor
- 日本内科学会認定内科医
- 日本内科学会認定指導医
- 日本アレルギー学会認定専門医



部長
羽田 敦子 (はた あつこ)

〈専門領域〉

- 夜尿 ■ 感染症 ■ 腎臓

資格など

- 医学博士
- 日本小児科学会認定指導医
- 日本感染症学会認定指導医
- 日本小児感染症学会認定暫定指導医
- 日本化学療法学会認定抗菌薬化学療法指導医
- 日本夜尿症学会 理事
- 日本小児科学会認定専門医
- 日本感染症学会認定専門医
- 日本感染症学会 評議員
- ICD (infection control doctor)
- 日本小児科医会 子どもの心相談医

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
井上 大生 (いのうえ だいせい)	部長	呼吸器内科全般
中島 俊樹 (なかじま としき)	副部長 兼 感染制御対策室副室長	臨床免疫学(リウマチ・膠原病疾患)
稲野 将二郎 (いな の しょうじろう)	副部長	血液学、腫瘍学

医師名	役職
藤田 昌昭 (ふじた まさあき)	客員研究員

診療対象となる主な疾患

● 脳膿瘍・髄膜炎などの中枢神経系感染症	● 感染性心内膜炎などを含む菌血症	● 肺炎・膿胸などの呼吸器感染症
● 腸管感染症	● 肝膿瘍・胆管炎などの肝・胆道系感染症	● 尿路感染症
● 皮膚・軟部組織・骨関節感染症	● ウイルス感染症全般(COVID-19含む)	● 不明熱 など

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービセンターまでお問い合わせください。

病院機能の活用による質の高い健診

個々の検査について専門医が診断し、健診を専門とする医師がそれらを統合して判定し、説明を行っています。当人間ドックで発見された異常については、関連各科と連携し、できる限り早期確定診断、早期治療ができるように取り計らっています。

チーム医療

医師、看護師、管理栄養士、検査技師、放射線科技師、事務といった多職種によるチーム医療で、単に検査するだけでなく受診者一人ひとりの個性や生活環境に応じた健康管理をめざします。

科学的根拠に基づく健診

検査項目などの選定だけでなく、結果のフィードバックや生活習慣改善への介入においてもEBMの実践をめざしたプログラムの開発をめざしています。また、この分野におけるエビデンスの発信を積極的に行っていくことを念頭に、臨床および研究活動を行っています。

人間ドックについて

当院では予防医学の重要性に早くから注目し、1955年に人間ドックを開業して以来、長年にわたり、人間ドックを行ってきました。当人間ドックでは受診日当日に医師による検査結果の説明と二次検査あるいは各科受診の指示を行っています。さらに、ドックで発見された異常はできる限り早期に対応ができるように取り計らっています。

● 1泊2日コース

14階の特別個室にお泊りいただき、時間をかけて全身チェックを行います。2日目に、糖負荷検査(OGTT)、眼底検査、結果説明を行います。

● 日帰りコース

午前中に検査を行い、管理栄養士による食事指導を聞きながらの昼食後、午後に結果の説明、および今後の生活習慣病予防のための指導を個別に行います。お忙しい方に、ピットリコースです。

● 脳ドック

MRI、MRA、頸動脈エコー、頭頸部X線検査に、心電図、胸部XP、眼底検査、血液・尿検査を行います。また、MRI、MRA、頸動脈エコー、頭頸部X線検査のみを行う「脳画像診断コース」もございます。日帰りドックと同じく昼食後、午後からは脳神経外科、または脳神経内科医師による結果説明を行います。

● 心臓ドック(1泊2日コース)

運動負荷検査、心臓エコー検査などの心臓生理検査に加えて、長時間の心電図測定などの不整脈や心不全に関する検査や、睡眠時無呼吸に関する検査も実施いたします。2日目に、循環器内科医師による結果説明を行います。

※1泊ドックコースでは以下のオプション検査を追加することが可能です。

- 大腸検査(大腸ファイバースコープ)
- 脳検査
- 心臓検査(詳細または簡易)
- 肺検査
- PET-CT検査(日帰りコースでも選択できます)

スタッフ紹介



主任部長 兼 健康管理センター長

高森 行宏 (たかもり ゆきひろ)

〈専門領域〉

- 予防医学 ■ 公衆衛生
- 内科一般 ■ 産業保健

資格など

- 大阪大学医学博士
- 日本人間ドック学会認定医
- 日本人間ドック健診専門医制度委員会認定専門医
- 日本人間ドック健診専門医制度委員会認定指導医
- 日本公衆衛生学会認定公衆衛生専門家
- 日本医師会認定産業医
- 社会医学系専門医・指導医
- 日本内科学会認定内科医
- 日本人間ドック学会認定遺伝学的検査アドバイザー
- 労働衛生コンサルタント
- 日本医師会認定健康スポーツ医

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
遠藤 真紀子 (えんどう まきこ)	副部長	予防医学、産業保健
榊原 敦子 (さかきばら あつこ)	副部長	一般産婦人科学、婦人科腫瘍学

医師名	役職	医師名	役職
光野 重根 (こうの しげね)	非常勤医師	川口 清隆 (かわぐち きよたか)	非常勤医師
藤川 潤 (ふじかわ じゅん)	非常勤医師	飯森 啓 (いもり けい)	非常勤医師

リハビリテーション科

患者さんの機能回復・QOL(生活の質)の向上をめざし急性期から維持期まで幅広く日々リハビリテーションに励んでいます。



急性期リハビリテーション

急性期病院としての役割を担う集中治療期を含む早期からリハビリテーション介入をさせていただいています。早期介入による早期機能回復をめざしています。

訪問リハビリテーション

退院後の在宅生活において身体機能の回復・ADLの向上および疾病管理をめざし北区・都島区の方に対し訪問リハビリテーションを行っています。病院と地域の方々の架け橋になるべく活動しています。

サイボーグ型ロボットHAL® (Hybrid Assistive Lumb®) 外来

サイボーグ型ロボットHAL® (Hybrid Assistive Lumb®) 医療用下肢タイプを用いた外来リハビリテーションを行っています。脊髄性筋萎縮症、球脊髄性筋萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、シャルコー・マリー・トゥース病、遠位型ミオパチー、封入対筋炎、先天性ミオパチー、筋ジストロフィーが対象となっています。

スタッフ紹介



部長代行

大洞 佳代子 (おおぼら かよこ)

〈専門領域〉

- 摂食・嚥下リハビリテーション職業リハビリテーション博士(リハビリテーション科学)

資格など

- 日本リハビリテーション医学会認定専門医
- 日本リハビリテーション医学会認定指導医
- 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士
- 日本嚥下医学会認定嚥下相談医
- がんのリハビリテーション研修修了

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職
澤田 優子(さわだ ゆうこ)	非常勤医師

栄養部

当院の管理栄養士は病棟にいます。患者さんの最適な栄養状態の保持に全力で努め、生命の根源である栄養面からの診療支援を行います。



栄養管理業務

患者さんのベッドサイドで顔の見える管理栄養士として食事摂取状況や体重・筋肉量の変動など多角的に栄養状態を評価し、診療に沿って栄養管理計画を策定しています。また、入退院サポートステーションにおいて、看護師・薬剤師と共に入院前から患者さんの栄養評価をしています。

チーム医療

チーム医療への参画では、栄養サポートチーム(NST)、褥瘡対策チーム、口腔ケア・嚥下リハビリチーム、がんリハビリチーム、緩和ケアチームなどに所属し、職種部門を超えた活動を行っています。

栄養食事指導・患者会

栄養食事指導を通じて患者さんの正しい食生活を支えます。外来と入院で個人栄養指導を、また糖尿病教室など、他部門と協力し集団栄養指導も行っています。継続した支援ができるよう患者会「糖尿病患者会(えんぼ/パンジーの会)」へ積極的に参加しています。

給食管理業務

栄養管理計画に基づき、安全・安心・美味しい病院食を提供をします。月に1度管理栄養士、調理師と「献立会議」を開催しおいしさの向上に努めています。

栄養指導

● 個別栄養指導(1回約30分：予約制)

糖尿病や腎臓病の食事療法をはじめ、心疾患や肝疾患などの慢性疾患、胃・十二指腸潰瘍、炎症性腸疾患、手術後の食事、がん、摂食・嚥下困難、低栄養の患者さん、嚥下調整食など病状や食生活に応じた栄養食事指導を行っています。

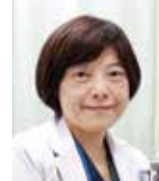
● 集団栄養指導(1回約60分：予約制)

※新型コロナウイルス感染対策のため、各種集団指導・教室については、開催中止となる場合があります。

集団指導	開催日時	備考
糖尿病集団指導	毎週火曜日 14:00~15:00	糖尿病をはじめとする生活習慣病の患者さん対象。



スタッフ紹介



栄養部 部長
兼 糖尿病内分泌内科 副部長

本庶 祥子 (ほんじょ さちこ)

〈専門領域〉

- 内分泌代謝
- 糖尿病

資格など

- 日本内科学会認定内科医
- 日本糖尿病学会認定専門医
- 日本内分泌学会認定指導医
- 日本病態栄養学会認定専門医
- 日本内科学会認定総合内科専門医
- 日本内分泌学会認定専門医
- 日本病態栄養学会認定専門医

〈スタッフ〉管理栄養士 17名

〈認定資格〉糖尿病療養指導士、病態栄養認定管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、栄養サポートチーム専門療法士、静脈経腸栄養(TNT-D)管理栄養士、腎臓病療養指導士 他

看護部

看護部では、地域の皆さまの信頼に応えられるように、急性期病院におけるあらゆる疾患の患者さんに適切で質の高い看護を提供できるよう取り組んでいます。

幅広い看護の知識・技術をもったジェネラリスト看護職を育成することと、より専門領域に対応できるスペシャリスト看護職を育成することを両輪として、看護職員の育成を推進し、患者さんやご家族の多様なニーズに応じた看護実践をめざしています。

また、高度先進医療を提供できるように医師・コメディカルと協働し、患者さんを中心としたチーム医療を強化しています。

看護部の理念「へだてなく、よりの確に、こまやかに」

より質の高い看護を分け「へだてなく」公平に、患者さんの病状・状況に応じて「よりの確に」、個性に応じた温かみのある看護を「こまやかに」提供できるように、日々努力しています。

看護部の方針

1. 看護専門職として、一人ひとりが高い倫理観に基づいた自律的な看護実践を行う。
2. 科学的根拠に基づいた安全で質の高い看護を提供する。
3. チーム医療メンバーとして多職種と協働し患者中心の看護を提供する。
4. 病院職員として、病院の健全経営に参画する。
5. 看護専門職として実践・教育・研究の能力を継続的に開発し、組織の発展に努める。

看護部ビジョン

1. やりがいを持って働き続けられる組織
2. 一人ひとりの成長とキャリア開発による質の高い看護の提供
3. 現場の声がへだてなく届き改善につながる組織

看護部体制

看護部門の職員は、看護師、助産師などの看護職者と看護補助者、保育士で構成されています。一般病棟、ICUなど集中治療が必要なユニット、小児科病棟、手術室、外来部門など、院内の各部門・部署で活動しています。また、認定看護師などのスペシャリストを病棟や外来あるいは専従者として配置しています。

看護部の特色

- 1. 地域連携を強化し、安全・安心な入退院支援を行います**
患者さんが住み慣れたご自宅や地域の医療機関から安心して当院に入院し、退院できるように、医師・薬剤師や栄養士などと協働して入院前から退院までの安全・安心な看護を提供します。外来・病棟の全看護職員が地域の医療・福祉・行政機関と連携する重要性を理解して患者さんやご家族を支援できるように、地域医療サービスセンターとの連携を強化しています。
- 2. 専門性の高い看護を提供します**
当院では、専門性の高い知識や技術をもった専門・認定看護師が2023年4月現在15領域22名います。専門・認定看護師は患者さんに専門性の高い看護を提供するとともに、当院の看護職の相談に応じ、指導するなど、全看護職の看護の質を高めています。専門・認定看護師たちは患者さんや看護職の資源であり、「リソースナース」(右表参照)として活動しています。
- 3. 医療チームの一員として患者さん中心の看護を提供します**
急性期病院としての機能を果たすために、どの部署の看護職も急性期の看護を提供できるように院内集合教育とOn The Job Trainingを充実させています。患者さん中心の看護を医療チームの一員として提供できるよう多職種と連携し、患者さんの生活背景を理解し、一人ひとりの患者さんに応じた看護を提供できるよう努めています。



スタッフ紹介

(リソースナース)

●専門看護師(日本看護協会認定)

がん看護専門看護師 2名

●認定看護師(日本看護協会認定)

感染管理認定看護師 2名

糖尿病看護認定看護師 1名

皮膚・排泄ケア認定看護師 2名

緩和ケア認定看護師 3名

乳がん看護認定看護師 1名

集中ケア認定看護師 2名

クリティカルケア認定看護師 1名

認知症看護認定看護師 2名

慢性心不全看護認定看護師 1名

がん放射線療法看護認定看護師 1名

がん薬物療法看護認定看護師 1名

手術看護認定看護師 1名

救急看護認定看護師 1名

●特定看護行為研修修了看護師(再掲)

皮膚・排泄ケア認定看護師 1名

がん薬物療法看護認定看護師 1名

緩和ケア認定看護師 1名

クリティカルケア認定看護師 1名

15領域 計 22名

薬剤部

薬剤部では、医学研究所北野病院の理念である「信頼される病院・安心の得られる病院」をもとに、「地域の皆さまに愛される病院」「患者さんに信頼と安心を与えるため何が出来るか常に考えて、行動できる薬剤師」をめざしています。



治療方針

- 患者さんや他の医療従事者から信頼されて活躍できる薬剤師をめざします。
- 北野病院の理念、運営および地域医療に対して積極的に貢献します。
- 薬剤部職員がやりがいと医療人としての誇りを感じ取ることが出来る薬剤部にします。
- 「北野ビジョン」に対応する薬剤部にします。

下記の項目を推進・貢献します。

- 医療安全の確保
- 医薬品の適正使用の推進
- 病棟業務・チーム医療の充実
- 生涯学習(自己研鑽)・臨床研究
- 病院経営への関与
- 教育・改善・ICT・広報

体制

入院患者さんに対する関わり

●入院前からの持参薬確認

地域連携を強化させる上で、現在服用中の薬剤を把握することは入院後の治療をより適切に行う上で最も大切なことです。患者さんの薬と手術や検査などに関わる安全性のさらなる向上をめざして、入院が決まると外来通院中に薬剤師が持参薬を確認し、必要に応じて医師の指示のもと服用中止などの説明を行います。紹介される際には、薬だけでなく、薬袋・薬の説明書・お薬手帳も大切な情報源ですので必ずお持ちいただくようお願いください。入院当日も薬剤師が面談を行い、正確な服薬状況を把握し、入院スタッフと情報共有をはかっています。

※持参薬とは、患者さんが入院時に持ち込まれる普段お使いになっている薬(飲み薬・点眼薬・貼り薬・注射など全てのお薬)

●チーム医療

感染制御や栄養サポートなどの組織横断的な専門医療チームにも参画しています。

●病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務

薬物療法の有効性と安全性の向上、チーム医療の充実をめざして、全病棟に病棟薬剤師を配属しています。処方歴、電子カルテ、カンファレンス、看護師の申し送りなどから患者さんの情報を収集し、得られた情報から服薬状況の把握・確認、患者指導や副作用モニタリングなどを行っています。院内フォーミュラリーも導入し、また、多職種協働でポリファーマシーにも積極的に取り組んでいます。入院中の薬は、調剤室・注射室などに所属している薬剤師が、処方箋に従った正確かつ安全な調剤・監査を実施し、各病棟へ薬を供給しています。特に抗がん剤については、厳密な監査を実施し、薬剤師が安全キャビネット内で調製を行っています。退院後にはご自宅や紹介施設でのフォローとなることが多いため、薬の説明書やお薬手帳シールを使用して退院時の薬の内容を患者さんに理解してもらうよう努力しています。

外来患者さんに対する関わり

- 当院では、全面「院外処方箋」となっています。2020年1月より、患者さんの検査値の一部を処方監査に必要な情報として院外処方箋に記載しています。
- 外来で注射薬の抗がん剤治療を受ける患者さんに対しては、朝夕に行われる化学療法センターのミーティングに参加し、患者さんの情報を共有しています。複数の薬剤師が抗がん剤の投与量や投与スケジュールを確認した後に、調製しています。また、必要に応じて患者さんに治療スケジュールや副作用の説明などを行っています。
- 数カ月に1回の頻度で、近隣の保険薬局、大阪市北区薬剤師会、大阪市北区の基幹病院と情報交換会を開催しています。
- 保険薬局を対象に年1回、吸入指導の勉強会を開催し、地域で吸入指導の統一化を図っています。現在、大阪市北区基幹3病院で吸入依頼書と吸入報告書を統一しています。
- 連携充実加算の質的向上をめざし、年1回以上、保険薬局を対象に抗がん剤に関する研修会を開催しています。
- 保険薬局からの服薬情報提供書(トレーシングレポート)を介して医師への情報提供を行っています。

その他

- 治験事務局があり、治験薬の管理・調剤などを行っています。
※治験薬とは、厚生労働省の製造承認を得る前の治療効果を調べている段階の薬剤のこと。動物実験を終え、人間について臨床試験を行っているときのもの。

血液浄化センター

血液透析、腹膜透析、アフェレシスなど、あらゆる血液浄化療法にチーム医療で対応します。また保存期腎不全での患者指導も行います。

活動内容

1. 末期腎不全では個々のライフスタイル・生活設計に合わせて血液透析、腹膜透析、腎移植まで対応します。
2. 合併症や疾病治療のため他診療科に入院中の透析を病態に合わせて行います。
3. 急性腎障害に対して迅速に対応し、診断と原因の除去・透析を行います。
4. 保存期腎不全の段階での透析予防指導、腎代替療法選択指導を行います。
5. ショント造設、ショントトラブルに対応しLPTAなどを行います。
6. あらゆるアフェレシスに対応可能で、種々の病態に対し他診療科と連携して治療にあたります。
7. 保存期腎不全検査教育入院や腎臓病教室を通して、腎臓病教育と知識の普及のサポートをしています。
8. 透析患者さんの足病変に対して、早期発見と早期治療介入を行っています。
9. 院内全ての血液浄化療法を各部署のスタッフと情報共有しながら、一元的に管理・担当しています。

腎臓病教室

腎臓病の予防、進行の防止をめざして医師・看護師・薬剤師・検査技師・栄養士・理学療法士・ソーシャルワーカーなどが講師となって1シリーズ4回の公開講座を年2回開催しています。この教室は「大阪府慢性腎臓病対策協議会」の後援で行われる企画であり、北野病院に受診歴のない患者さんあるいは患者ご家族の方でも参加無料です。日程などの詳細につきましては随時ホームページに掲載していきます。

※コロナ禍により2023年4月現在実施していません。再開の目処が立ちましたらホームページにてお知らせいたします。



キドニーデー

腎臓病の早期発見と治療の重要性を啓発する国際的な取り組み「世界腎臓デー (World Kidney Day)」が毎年3月の第2木曜日に制定されています。当院でも、腎臓病について沢山の人が知っていただくため、世界の腎臓病デーに合わせて、毎年3月にキドニーデーを開催しています。

※2022年度はコロナ禍によりオンラインで開催いたしました。

腹膜透析

専用診察室 / 2床 (火曜日および木曜日)

看護師外来

平日 10:00~15:00

進行した腎不全を呈している患者さんへの腎代替療法(血液透析、腹膜透析、腎移植)の説明と療法選択支援を行っています。

外来内容 / 腎臓病指導外来、糖尿病透析予防指導外来、移植後患者指導外来、腹膜透析外来

血液透析

透析ベッド / 20床 月~土(祝日・休診日も通常通り)

治療時間 / 9:00 ~ 15:00

アフェレシス

血漿交換・血液吸着・末梢血幹細胞採取など

難聴・鼓膜再生センター

種々の原因による鼓膜穿孔の閉鎖に対して、これまで様々な治療がなされてきました。しかし、現行の治療法は鼓室形成術や鼓膜形成術といったそのほとんどが手術療法であり、皮膚外切開と自己組織採取などの創傷を伴います。また、正常鼓膜が形成されず形成された鼓膜が極端に分厚くなったり、ツチ骨との接触が不十分だったりなどの原因から聴力がさほど改善しないこともしばしばあります。さらに手術時間や麻酔、術後の不快感や後遺症、一定期間の安静や入院、さらには高額な医療費、手術不成功による再手術と患者さんに対する多くの負担と制約を伴っています。

本治療法の意義と成果

本治療法は、従来の皮膚外切開や自己組織採取などは不要で、わずか20分間程度の外来処置のみで、処置直後より聴力が改善し、高い成功率で鼓膜穿孔の閉鎖が可能な再生医療による全く新しい治療法です。治療後の日常生活での制約もほとんどなく、正常あるいはそれに近い鼓膜の再生が可能なため、聴力も理想的な改善が得られます。

本治療により、耳科手術は、全く新しい局面を迎えることになると考えられます。

適応症例の診断基準

鼓膜穿孔のある慢性中耳炎で中耳・外耳に活動性の感染・炎症がない症例、外傷性鼓膜穿孔で自然に治癒する見込みがないと判断される症例、滲出性中耳炎による鼓膜切開ないし鼓膜チューブ留置後に孔が残った症例などを対象にしています。

治療の流れ

外来診察において鼓膜穿孔がありかつ活動性の感染・炎症がないことを確認し、4%キシロカインに浸した綿花を鼓膜穿孔部に当てるように外耳道内に挿入します(下図内1)。約15分間後、外来診察用の顕微鏡下に、鼓膜穿孔縁に鼓膜切開刀で傷をつけ穿孔縁の上皮を全周性に除去します(下図内2)。引き続き鼓膜穿孔より大きなゼラチンスポンジ塊にbFGFを浸潤させて、鼓膜穿孔部位を十分覆うようにゼラチンスポンジ塊を留置する。この後、これをフィブリン糊で固定します(下図内3)。

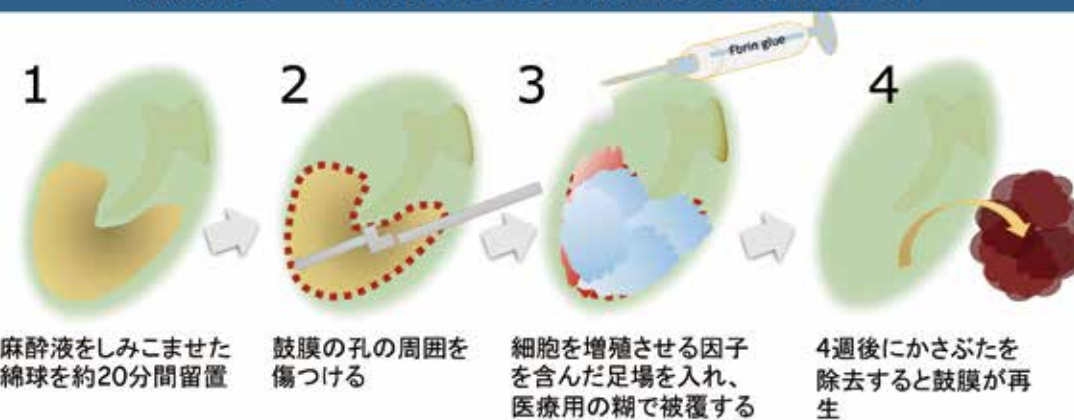
患者さんには、強い鼻すすりや鼻かみなど耳に圧力がかかるようなことはしないように指導し、3~4週間後に外来受診をさせます。鼓膜上の痂皮を除去し、再生を確認します(下図内4)。1回の処置で穿孔が閉鎖しない症例に対しては、4回を目途に同処置を繰り返していきます。

北野病院の治療実績

(2020年1月~2021年12月)

鼓膜再生率 **97%** 聴力改善 **100%**

鼓膜再生 Kanemaru S. Nature Outline 2017



当院での受診には、診療情報提供書とご予約が必須となっています。疑わしい症例がございましたら、当院耳鼻咽喉科宛にぜひご紹介をよろしくお願い申し上げます。

漏斗胸センター

当院に漏斗胸の診断・治療を複合的に行える漏斗胸センターを2018年10月に開設しました。

漏斗胸とは？

胸壁の中央部が凹んでいる変形を漏斗胸といいます。肋軟骨の変形が原因とされており、胸の凹みの程度は人により様々で、軽い凹みから非常に高度の凹みまであります。以前は気づかなかつたのに、背が伸びてきて目立ってくることもあります。約1,000人に1人程度の割合で起きるといわれ、まれな症状ではありません。幼児期では凹み以外の症状はないことが多いですが、思春期以降では胸痛、動悸、労作時の呼吸苦があります。学童期、思春期では「心」の問題、いじめに関連する精神的悩みが漏斗胸患者さんにとって大きな問題になります。

侵襲の少ない“Nuss手術”を行います

1998年にNuss先生が報告した低侵襲手術である胸腔鏡補助下胸骨挙上術(ナス手術)を行います。両側胸部に3~4cmの皮切から金属のバーを胸の中に埋めて、前胸部を持ち上げて凹みを治します。従来の方法と違い肋骨や胸骨を切らないので、手術時間が短く、出血量も少なく、傷も目立ちません。金属バーは1年半から3年後に抜去します。両脇に傷跡が残りますが、正面には残りません。肋軟骨を矯正するため強い痛みを伴いますので、背中から硬膜外カテーテルを手術の時に立てて疼痛管理を行います。小児外科医が中心になりますが、センター化で成人の症例にも対応できるようになりました。



受診方法

- 小児外科外来(水曜日、奇数週土曜日)で受付、小児外科医が診察します。
- 小児外科もしくは漏斗胸センターあてに紹介状をお願いします。

医学研究所北野病院 漏斗胸センター ホームページ
(https://www.kitano-hp.or.jp/section/funnelchest_center) を参照してください。



こどものヘルニアセンター

こどもで頻度の高い鼠径ヘルニア“脱腸”と臍ヘルニア“でべそ”治療の専門センターを開設しました。鼠径ヘルニアの腹腔鏡下経皮的腹膜外ヘルニア門閉鎖術(LPEC法)と臍ヘルニアの臍形成術を日帰りで行っています。

小児と若年成人の鼠径ヘルニア・臍ヘルニアを治療

小児と若年成人鼠径ヘルニアのLPEC手術、臍ヘルニアの臍形成術を日帰りで行うセンターです。LPEC手術は径3mmの内視鏡で実施、手術時間は15分程度で対側の隠れたヘルニア門も閉鎖します。類縁疾患の陰嚢/精索水腫にも適応できます。臍ヘルニア手術は30分程度です。手術日は月曜、火曜です。「こどものヘルニアセンター」はまず小児外科外来を受診してください。

受診方法

- 小児外科外来(火~金と奇数週土曜日)で受付、小児外科医が診察します。
- 小児外科あてに紹介状をお願いします。

医学研究所北野病院 こどものヘルニアセンター ホームページ
(https://www.kitano-hp.or.jp/section/shonigeka/hernia_center) を参照してください。



臨床検査部

当検査室は、国際規格「ISO15189(臨床検査室-品質と能力に関する特定要求事項)」認定を受けています。検体検査、生理検査および輸血を担当しており、24時間365日の緊急検査、緊急輸血対応、および迅速報告体制に尽力しています。また、検査の質を重視し、毎年日本医師会、大阪府医師会、日本臨床検査技師会などの外部精度管理サーベイに参加し、優秀な成績を収めているほか、看護部門などの協力をいただいで、検査の全過程における精度保証活動を展開しています。さらに、検査情報(LI)室を設置し、医療者および患者さんからの検査に関する相談を受け付けています。また、栄養サポートチーム(NST)に参加し、栄養指標検査実施、低栄養症例スクリーニング、情報発信などの活動や、抗菌薬適正使用支援チーム(AST)として薬剤耐性菌の疫学調査、また感染制御チーム(ICT)での院内環境ラウンドなど、院内感染予防活動にも力をいれています。糖尿病教室、腎臓病教室およびリウマチ膠原病教室にて、検査についての講座も担当しています。

検体検査部門

血液・尿など、体から採取したものを対象としています。血液・一般、生化学・血清、細菌の検査を実施しているほか、外注検査を一元管理しています。正確なデータを迅速に報告するため、検査の依頼・採取・測定・報告の過程を全てコンピュータで管理しています。必要な検査データがいつでも即時に報告できる「ノンストップ・リアルタイムの検査室」をめざし、血液・尿・生化学・血清・ホルモン・感染・腫瘍マーカーなど、ほとんどの検査が迅速検査・即時報告体制をとっています。結果が出たその瞬間から院内各部署のコンピュータ端末の画面で医師が参照できるようになっています。

生理検査部門

2階生理検査室で、心電図・脳波・超音波など身体を直接に対象とする検査を専門のトレーニングを受けた臨床検査技師が、各科の医師とともに担当しています。生理検査、超音波検査の報告書・画像はコンピュータに取り込んで管理しており、院内の各部署の端末で参照できます。

主な検査項目

- 循環器生理検査(心電図、負荷心電図、ホルター心電図、脈波伝播速度、皮膚灌流圧など、心臓や血管の機能検査)
- 呼吸生理検査(肺活量、気道可逆性、呼吸抵抗、呼気NOなど、肺の機能検査)
- 神経生理検査(脳波、神経伝導、誘発電位、筋電図など、脳・神経系・筋肉の機能検査)
- 超音波検査(心エコー、腹部エコー、頸動脈エコー、下肢エコーなど、各部位の画像検査)
- 熱画像検査(サーモグラフィ)
- 睡眠時呼吸検査(睡眠時無呼吸簡易検査、ポリソムノグラフィなど)

輸血部門

血液製剤(アルブミン製剤含む)発注・保管・輸血検査・在庫など、全てを24時間365日臨床検査部で担当、認定輸血検査技師を含むスタッフが一元管理しています。輸血の安全体制を重視し、厚生労働省の指針に準拠した管理体制をとっています。輸血検査データはコンピュータ管理により厳重な照合を行っています。自己血採取(瀉血)装置・チューブシーラを管理し、採取部署に貸し出すとともに、採取された自己血の保管と在庫を行っています。末梢血幹細胞移植用の自己および同種幹細胞凍結保存管理を行っています。また輸血管理料I・輸血適正使用加算算定の認可を受けています(輸血管理体制および適正な輸血実施を評価するものです)。

臨床工学部

高度で専門性の高いスキルが要求される医療機器の操作や適切な点検修理を行い、安全で効果的な医療が提供できる医療機器環境を整えています。

医療機器中央管理業務

中央管理業務は、医療機器の保守点検から、病棟での不具合対応、各部門への機器の貸出・返却・所在把握、機器購入時の機器選定、院内スタッフに対する医療機器の操作安全講習など、院内の医療機器全般に関する業務を行っています。

心臓センター業務

経皮的冠動脈形成術(PCI)や頻脈性不整脈へのアブレーション治療などの心臓カテーテル治療における臨床介助、心臓外科手術での人工心肺装置の操作などを行っています。また、ベースメーカーの遠隔モニタリングなども行っています。

血液浄化センター部門

透析液の水質管理や透析機器の管理を徹底し、安全な治療を提供するとともに、透析を受けられる患者さんのQOLの向上をめざしています。

感染制御チーム (ICT)

当院ICTは、医療関連感染防止対策の組織として感染制御全般に関与しています。ICTのリーダーは感染管理認定看護師(ICN)が務め、メンバーには医師(ICD)、感染管理認定看護師(ICN)、感染制御認定薬剤師(BCPIC)、臨床検査技師、理学療法士、管理栄養士、事務などが加わっています。

週1回ICTミーティングと院内ラウンドを実施し、安全で安心できる医療環境を提供できるよう感染予防活動を行っています。

活動内容

1. 院内感染事例、院内感染発生率に関するサーベイランスなどの情報分析・評価
2. 院内感染防止対策の実施状況の把握・指導
3. 抗菌薬の適正使用の推進
4. 感染対策マニュアル・規程の更新・周知
5. 職業感染防止対策の推進
6. 職員研修の実施
7. 感染防止対策地域連携医療機関との合同カンファレンス
8. ワクチン集団接種や針刺し・抗体価など衛生管理



抗菌薬適正使用支援チーム (AST)

近年、不適切な抗菌薬の使用による薬剤耐性菌の増加・蔓延に対する対策は世界的にも大きな課題となっています。そこで個々の患者さんに対して抗菌薬を使用する際、最大限の治療効果を導くと同時に有害事象を最小限にとどめ、いち早く感染症治療が完了できるように支援を行う事を目的として2017年6月に発足しました。

感染症科医師や薬剤師、臨床検査技師、看護師が所属し、活動しています。

抗菌薬適正使用と的確な感染症治療の推進

今後の活動予定

1. 院内感染発生事例、菌血症など重症感染症、全診療科感染症患者の情報分析・評価
2. 広域抗菌薬の使用状況の把握・指導
3. 抗菌薬の適正使用の推進
4. 感染対策マニュアル・規程の更新・周知
5. 職業感染防止対策の推進
6. 職員研修の実施



褥瘡対策チーム

当院の褥瘡対策チームは、医師、看護師、理学/作業療法士、管理栄養士、薬剤師、事務職と多職種から構成されています。各々の専門性が十分に発揮できるようコミュニケーションを大切にしながら、褥瘡発生の予防や治療効果をあげることを目的にチームで取り組んでいます。

毎週木曜日には、院内の褥瘡患者さんをラウンドし、主治医・病棟看護師も一緒になって課題を検討し、最善のケア方法や治療の提供に努めています。また、院内の医療従事者へ向けた啓発活動として、年間計画に基づいた研修会を開催しています。深い褥瘡の場合、入院中だけでは治癒せず在宅に戻られてからも継続して治療が必要となります。また、新たに褥瘡を発生させないためには在宅での予防やケアが重要となります。今後は院内での活動だけでなく、地域の医療機関や施設とも情報を共有し、在宅褥瘡ケアのための体制構築に貢献できるよう活動の範囲を広げていく必要があると感じています。地域の先生方のご助言・ご協力をお願いすることもあると思いますので、今後ともよろしくご挨拶申し上げます。



認知症ケアチーム

チームの対象者は、身体疾患をもって入院された認知症患者さんや認知機能の低下した高齢患者さんとそのご家族です。そして、直接ケアを行う病棟看護師をはじめとしたスタッフへの指導や支援を行っています。

身体疾患の苦痛に加えて、認知機能低下に伴う大きな不安を抱えた患者さんにご家族が安心して治療にのぞめること、そして入院を契機とした、身体機能低下、認知機能低下予防を行い、その人らしさが保てる生活へ戻れることをめざしています。

活動内容

1. 週に2回(火・金)チームカンファレンスと、病棟ラウンドを行っています。
2. 病棟看護師ともカンファレンスを行い、コミュニケーションや環境調整、在宅復帰への支援、介護支援連携、家族支援、ポリファーマシーの調整、向精神薬や身体拘束の緩和、中止の提案や支援を行っています。また認知機能低下や高齢患者さんにおける倫理的課題への支援(臨床倫理カンファレンスなど)、ACPの視点を提案なども始めています。
3. 定期的に院内研修を行い、当院医療スタッフのケアの質向上をはかっています。
4. コロナ禍で面会できず、モバイルツールを活用できない患者さんのために、現在はiPadを活用したオンライン面会を行っています。

遺伝性疾患サポートチーム

遺伝性疾患サポートチームは、私たちの体の設計図である遺伝子や染色体に生まれつきの変化を持っていることが原因で病気を発症しやすい体質をお持ちの方や、そのご家族のサポートを行っています。

このような遺伝子や染色体の変化は全身の細胞で起きているため、一つの診療科だけではなく複数の診療科が連携して診断・治療フォローアップなどを含めた遺伝診療を行います。

当院では臨床遺伝専門医および認定遺伝カウンセラー(遺伝カウンセリングを専門にする医療者)を中心に乳腺外科、消化器内科、消化器外科、小児外科、小児科、産婦人科、耳鼻咽喉科、泌尿器科など多くの診療科の医師、さらに認定看護師、臨床心理士、臨床検査技師が連携をとりチーム医療を行っています。また、遺伝性疾患サポートチームが関わる診療は、患者さんだけではなく血縁者の方々にも関わる可能性があります。認定遺伝カウンセラーによる遺伝カウンセリングを通して、遺伝医療に関わる様々な情報提供や、希望された場合の遺伝学的検査の体制整備、その後のフォローアップなどをチーム一丸となって実施しています。



呼吸ケアチーム (RCT)

医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士という複数の医療専門職が呼吸に関するそれぞれの分野の専門知識を持ち寄り、安全かつ効果的に呼吸療法が行われるよう、アドバイス・選択・実践する医療チームとして、2010年10月に組織されました。

当院では人工呼吸器対象の患者さんだけでなく、NPPVやハイフローセラピー中の患者さんのラウンドも行い、機器の点検や装着による皮膚損傷の有無など安全に使用できているかを観察しています。

活動内容

1. チームラウンド：毎週木曜日に病棟ラウンドを行い、該当患者さんのベッドサイドにおいて診療を行っています。
2. チーム会議：第4木曜日に会議を開き、事故予防策や事故発生時の問題解決、人工呼吸器や酸素療法に関する物品の検討、研修の企画などを行っています。
3. スタッフ教育：定期的に研修を開き、当院医療スタッフの意識向上をはかっています。研修内容としては、呼吸器系の解剖生理、人工呼吸器、NPPV、ハイフローセラピーの正しい使用・装着方法、呼吸理学療法、吸引技術などについて看護師および臨床工学技士、理学療法士向けに研修を開催しています。



支援部門 (チーム医療)

がんリハビリテーションチーム

がん患者さんは、がんやその治療によって体力が低下し、日常生活に支障をきたすことがあります。がんのリハビリテーションは、がんと診断された直後から、各治療や病期に応じたリハビリテーションを展開して、がん患者さんの日常生活の質を、できる限り維持・向上することを目的としています。

当院では、指定の研修会を受講したスタッフを中心に、がんのリハビリテーションを実施しています。2015年9月、がん患者さんに対するリハビリテーションなどの医療の質向上を目的として、「がんリハビリテーションチーム」が発足しました。当チームでは、がん患者さんに対するスタッフの知識向上を図るため、院内勉強会の開催を始めとして、他チームとの協同や研修会参加の推進などを通じ、院内におけるがんのリハビリテーションの拡充を進めています。



緩和ケアチーム

当院の緩和ケアチームは専門の医師や看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・作業療法士・臨床心理士など多職種から構成されています。がんの診断時からあらゆる時期における、身体的・精神的なつらさを和らげ、患者さん・ご家族さんのQuality of life (生活の質)の維持・向上、および、「その人らしく過ごせること」を目標に活動しています。退院後は、必要に応じて、緩和ケア外来やがん相談支援センターで継続してサポートし、入院・外来問わず、継続して緩和ケアを提供できる体制の構築に努めています。

活動内容

1. 専門の医師や看護師が定期的に患者ラウンド(回診)を行い、主治医や病棟の担当看護師と連携しながら苦痛緩和に努めています。
2. 週に1回チームカンファレンスを行い、よりよい生活を送ることができるよう、多職種間で調整を行っています。
3. 外来移行後は、患者さん・ご家族のニーズに応じ、緩和ケア外来やがん相談支援センターでサポートしています。



口腔ケア・嚥下リハビリチーム

医師(耳鼻咽喉科、リハビリテーション科)、歯科医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、歯科衛生士、言語聴覚士、理学療法士、と複数の医療専門職で構成しています。食事摂取が困難な入院患者さんを対象とし、食べる喜びを支えるための専門医療チームとして2014年に組織され、活動しています。

チームで毎週火曜日12時から病棟ラウンドを行い、患者さんのベッドサイドにて嚥下内視鏡検査による嚥下機能評価、口腔ケア、食事形態や姿勢調整およびその指導を行っています。多職種での評価により適切な食事提供を行っています。その他、院内講習会を開き、患者さんが日々安全に食べてもらうことを目標とし、病院全体として知識・技術向上に努めています。



糖尿病サポートチーム

糖尿病のコントロールはすべての疾患の経過に影響します。糖尿病サポートチームでは、入院中の血糖コントロールを専門の医師、看護師、管理栄養士などの多職種でサポートいたします。また、糖尿病以外の疾患の治療目的で入院された患者さんにも適切な糖尿病診療・ケアを早期から提供できるよう活動を行っています。

チームで毎週金曜日に病棟ラウンドを行い、患者さんのベッドサイドでの診療・ケアを行っています。薬剤の調製、治療に必要な手技指導、栄養指導などの介入を早期から行うことで、スムーズな退院や転院の支援につなげています。こうしたチーム診療活動を通じて、患者さんとそのご家族への糖尿病の知識の普及、さらには治療に関わるすべての医療スタッフも含めた診療技術の向上をめざしています。また、新型コロナウイルス感染症対策に準じながら院内研修会・勉強会開催にも取り組んでいます。

活動内容

1. 週1回、金曜日に病棟ラウンドを行い、患者さんのベッドサイドで診療・ケアを行っています。
2. 薬剤調整、手技指導、栄養指導などを早期から介入することにより、スムーズな退院・転院支援を行っています。
3. 診療活動と通じた患者さんとそのご家族の知識の普及、さらに医療スタッフも含めた知識の向上をめざしています。
4. 院内研修会・勉強会を開催し、スタッフの知識向上を図っています。



栄養サポートチーム (NST)

当院の栄養サポートチーム(NST)は、医師・歯科医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師・理学療法士・言語聴覚士・歯科衛生士・事務員で構成され、患者さんに適切な栄養管理を提供するためのチームです。

病状や治療のために入院患者さんが十分な栄養を経口摂取できない場合などに適切な栄養補給の提案や、手術などの術後合併症予防のため、術前からの計画的な栄養管理の提案などを行っています。この活動により、栄養状態の改善、治療効果の向上、合併症の予防、QOL(Quality of Life:生活の質)の向上、在院日数の短縮などを目標として活動しています。

毎週木曜日にチームで病棟ラウンド(回診)を行い、患者さんのベッドサイドに訪室、多職種でカンファレンスを行い栄養管理の提案を行います。院内で定期開催している勉強会では、外部講師などを招き、栄養管理についての啓発活動も行っています。尚、勉強会の開催については、新型コロナウイルス感染症対策に準じて実施を行っています。



がん診療センター

がん診療センター

当院は大阪府がん診療拠点病院として、がん診療を病院の中核事業の一つと位置づけ、診療の充実、質の向上に取り組んでいます。その一環として、最新の放射線治療機器（リニアック、密封小線源）を導入した放射線治療センターの開設、化学療法センターの移転拡張、緩和ケアセンターの設置などを順次進めてきました。

当センターではがん患者さんを身体的・精神的・社会的に多職種で幅広くサポートする体制を整えています。これからも「がん診療センター」として、患者さんとそのご家族の方々のごさまざまな苦痛や悩みに誠実に対応できるよう努めてまいります。

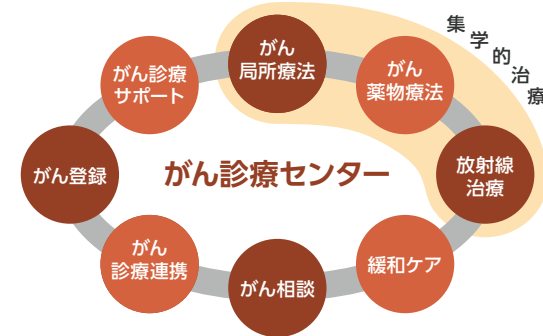
取り組み

「医学研究所附設の臨床病院」として、安全で先進的ながん診療に、チームで取り組みます。

- 科学的根拠に基づき、かつ患者さんのニーズに応じた最善のがん診療を提供します。
- 多職種の医療チームが、多角的にがん診療をサポートします。
- がん相談や情報提供の体制を整え、患者さんやご家族を支援します。
- 緩和ケアチームが、身体的、精神的苦痛の緩和に努めます。
- 住み慣れた地域での生活を支えるために、かかりつけ医や介護事業者などとシームレスな連携を行います。
- 京都大学とともに、がん診療の発展をめざし、研究・教育・研修に努めます。

がん診療体制

がん診療センターが全体を統括する形で、がん診療にかかわる院内の各部門が連携して患者さんにとって最適な治療を提供します。



院内がん登録

当院は、2009年4月に大阪府から「大阪府がん診療拠点病院」の指定を受け、院内がん登録の取り組みを行っています。この情報は、「当院のがん診療の実態把握および診療の質の向上」、「患者さん、ご家族の方の支援」を目的とした以下の活動に活用しています。

- 病院の対がん医療活動の企画、評価のための資料提供
- 診療活動の支援、研修、教育のための資料提供
- がん患者さんの受療状況の把握
- 院内がん患者さんの生存率の計測
- 院内がん患者さんの継続受診支援
- 臨床疫学研究の支援
- 国や大阪府などへの届出

がん局所療法	外科的切除、内視鏡治療、血管内治療、焼灼療法など
がん薬物療法	化学療法センターおよび各診療科での薬物療法
放射線治療	リニアック、密封小線源を用いた放射線治療
緩和ケア	多職種による身体的、精神的苦痛の緩和
がん相談	がん専門相談員による相談支援、がん情報室での情報提供
地域医療連携	かかりつけ医や地域の医療機関との連携、介護事業者などとの連携
がん登録	院内がん登録の実施
がん診療サポート	チーム医療（緩和ケア、がんリハビリ、遺伝性疾患、栄養サポート、口腔ケア など）

放射線治療センター／腫瘍放射線科

放射線治療センターでは最先端の治療機器を揃えて、各診療科と連携して以下の高精度放射線治療を提供します。

- 強度変調放射線治療（腫瘍の形に合わせて照射）
 - 画像誘導放射線治療（治療直前に治療ベッド上でX線画像やCT画像を取得、位置補正を行い正確に照射）
 - 肺がんや肝臓がんに対しての体幹部定位放射線治療（ピンポイント照射）
 - 呼吸性移動がある腫瘍に対して動体追跡照射
 - リモートアフターローディングシステム（RALS）を用いた小線源治療
- いずれの治療方法も腫瘍に放射線を集中させ正常組織の線量を軽減することによって、高い治療効果と副作用の低減が可能になり患者さんに優しい治療を実現します。

スタッフ紹介



副院長 兼 消化器外科主任部長 兼 消化器センター長
兼 がん診療センター長 兼 地域医療サービスセンター長

寺嶋 宏明（てらしま ひろあき）

〈専門領域〉

- 肝胆膵外科
- 肝がん・胆道がん・膵がん
- 消化器外科
- ヘルニア外科

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本外科学会認定専門医
- 日本外科学会認定指導医
- 日本消化器外科学会認定専門医
- 日本消化器外科学会認定指導医
- 日本消化器外科学会消化器がん治療認定医
- 日本肝胆膵外科学会高度技能指導医
- 日本肝胆膵外科学会評議員
- 近畿外科学会評議員
- 京都大学先端・国際医学講座客員准教授
- 京都大学医学部臨床教授
- 優秀専門臨床医 2021-2024
- 緩和ケア研修修了

お問い合わせ

日時 月曜日～金曜日 / 9:00～17:00
※休診日を除きます。

場所 1階 ⑫地域医療サービスセンター

連絡先 06-6131-3338

がん相談支援センター

病気になると、体のことだけではなく、様々な悩みや不安が出てくることがあります。専門の相談員である看護師や、ソーシャルワーカーなどが、がんに関する情報提供を始め、在宅支援や緩和ケアのことなど皆さまの疑問や悩みをお聞きしながら、一緒に考え、良い方法を見つけたいお手伝いをさせていただきます。

1階がん相談支援センター（がん情報室）には、がんに関する図書やお持ち帰りいただける各種リーフレットをご用意しています。室内に設置しているパソコンでがん情報を閲覧していただけますのでお気軽にご利用ください。



ご相談内容の一例

- 介護サービスや福祉サービスで、何か利用できるものはある？
- がんと診断され、どうしたらいいかわからない。
- がんに関する治療や検査について教えてほしい。
- 治療の副作用について教えてほしい。
- 医師からの説明がよくわからなかった。
- 今後の医療費のことが心配。
- 緩和ケアってどうすれば受けられる？
- 仕事は継続できる？
- セカンドオピニオンについて教えて欲しい。
- 治療したら妊娠できない？ など

リンパ浮腫教室 ※

がん手術後に腕や脚がむくんでいませんか？もしかすると、リンパ浮腫の症状かもしれません。リンパ浮腫教室では、専門の知識を持った看護師がリンパ浮腫についての基本的なことや、マッサージ方法などをお話させていただきます。参加無料、申し込み不要です。ぜひお気軽にご参加ください。

〈日時〉毎月第4木曜日（11:00～12:00）

〈場所〉本館5階 第6会議室

※コロナ禍により現在実施していません。
再開の目処が立ちましたらホームページにてお知らせいたします。

相談・予約方法

〈相談方法〉

- 対面相談（30分程度を目安）
- 電話相談（10分程度を目安）

※原則、ご相談は対面相談をお願いしています。
※事前に予約していただければ基本的には個室でのご相談となります。

〈予約方法〉

- 電話予約 / 下記受付時間内に06-6131-2555までお電話ください。
- メール予約 / 専用メールフォームからご予約をお願いします。改めて担当者よりご連絡させていただきます。なお、メールでのご相談は行っていませんのでご了承ください。

専用メールフォーム



- 直接ご来訪 / 1階がん情報室内に内線電話がございますので、表示にしたがって内線でご連絡ください。

お問い合わせ

日時 月曜日～金曜日 / 9:00～17:00
※休診日を除きます。

場所 1階 ⑮がん相談支援センター

費用 無料

連絡先 06-6131-2555

最新機器紹介

ダ・ヴィンチXi

高度な内視鏡手術を可能にする、最先端の手術支援ロボットです。複数の関節を持つ専用鉗子による手術操作性の向上と10倍もの拡大率を持つ3D画像による立体視をできることが最大の特徴です。また保険適用の拡大により、適用疾患の幅が広がっています。



リニアック

がん病巣に集中して放射線を照射し正常な組織への線量を低減することにより患者さんにやさしい高精度放射線治療の実施が可能です。本機器は、強度変調放射線治療 (IMRT)、回転型強度変調放射線治療 (VMAT)、画像誘導放射線治療 (IGRT) などの高精度放射線治療に対応し、従来の機器より高い線量率での照射が可能で短時間の放射線治療が可能です。



PET-CT

最新PET画像再構成機能は、従来法では困難であった「画質」と「定量精度」の向上を同時に実現しています。これにより、微小病変の描出能の向上、隣接する病変の識別能の向上、肝などのノイズの大きな臓器での画質向上が実現し、がん治療における診断能が向上します。



MRガイド下集束超音波治療器 (MRgFUS)

本態性振戦やパーキンソン病の新しい治療法としてMRガイド下集束超音波治療を導入しました。このMRガイド下集束超音波治療では皮膚や頭蓋骨を切らず治療機器も埋め込みません。ふるえやからだのこわばりの原因となる脳の一点に超音波を集め、神経の異常活動を抑え、ふるえやこわばりを軽くします。「きる」手術ではなく、手術の危険性や治療機器の埋め込みを心配なさる方にもお勧めできます。



病気の名前から 診療科を探す

病気の名前から診療科を探す

あ

疾患名	科	ページ
亜急性甲状腺炎	糖尿病内分泌内科	P34
アキレス腱炎	整形外科	P43
アキレス腱断裂	整形外科	P43
悪性胸膜中皮腫	腫瘍内科	P32
悪性高血圧	腎臓内科	P35
悪性黒色腫	腫瘍内科	P32
悪性リンパ腫	小児科	P36
	血液内科	P39
アクロコルドン	皮膚科	P45

疾患名	科	ページ
足白癬	皮膚科	P45
アデノイド増殖症	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
アトピー性皮膚炎	小児科	P36
	皮膚科	P45
アナフィラクトイド紫斑 (IgA血管炎)	皮膚科	P45
アミロイドーシス	皮膚科	P45
アミロイド苔癬	皮膚科	P45
アルポート症候群	腎臓内科	P35
アレルギー性鼻炎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47

い

疾患名	科	ページ
胃・十二指腸潰瘍	消化器外科	P24
胃悪性リンパ腫	消化器内科	P22
胃炎	消化器内科	P22
胃潰瘍	消化器内科	P22
	小児外科	P50
胃がん	消化器内科	P22
	消化器外科	P24
	腫瘍内科	P32
異汗性湿疹	皮膚科	P45
胃軸捻転	小児外科	P50
胃静脈瘤	消化器内科	P22
胃食道逆流症	小児外科	P50
移植片対宿主病	皮膚科	P45
異所性妊娠 (子宮外妊娠)	産婦人科	P51
一過性脳虚血発作	脳神経外科	P31
	脳神経内科	P30
遺伝性球状赤血球症	小児科	P36

疾患名	科	ページ
遺伝性球状赤血球症や特発性血小板減少性紫斑病の外科治療 (脾臓摘出術)	小児外科	P50
遺伝性乳がん	乳腺外科	P42
遺伝性乳がん卵巣がん症候群	乳腺外科	P42
胃粘膜下腫瘍	消化器内科	P22
異物肉芽腫	皮膚科	P45
異物の誤飲・誤嚥	小児外科	P50
胃ポリープ	消化器内科	P22
胃マルトリンパ腫	消化器内科	P22
インスリノーマ	糖尿病内分泌内科	P34
咽頭炎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
咽頭がん	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
	腫瘍内科	P32
咽頭腫瘍	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
陰嚢水腫	泌尿器科	P49
	小児外科	P50
インフルエンザ	小児科	P36

う

疾患名	科	ページ
ウイルス性肝炎 (B型・C型など)	消化器内科	P22
ウイルス感染症	小児科	P36
ウィルソン病	消化器内科	P22
ウィルムス腫瘍	小児外科	P50

疾患名	科	ページ
うつ滞性皮膚炎	皮膚科	P45
うつ病	神経精神科	P40
運動ニューロン病	脳神経内科	P30
ウンナ母斑	皮膚科	P45

え

疾患名	科	ページ
腋窩リンパ節腫脹	乳腺外科	P42
腋臭症	形成外科	P44
壊死性腸炎	小児外科	P50
炎症性脱髄性多発神経炎	脳神経内科	P30

疾患名	科	ページ
壊疽性膿皮症	皮膚科	P45
エリテマトーデス	皮膚科	P45
円形脱毛症	皮膚科	P45
円状半月板	整形外科	P43

お

疾患名	科	ページ
横隔膜挙上症	小児外科	P50
横隔膜ヘルニア	小児外科	P50
黄色腫	皮膚科	P45
黄色靭帯骨化症	整形外科	P43
黄斑円孔	眼科	P46

疾患名	科	ページ
黄斑上膜 (網膜前膜)	眼科	P46
黄斑前膜	眼科	P46
黄斑変性症・ジストロフィー	眼科	P46
横紋筋肉腫	腫瘍内科	P32

か

疾患名	科	ページ
外傷性肝破裂	消化器外科	P24
外傷性脾破裂	消化器外科	P24
外傷性膵破裂	消化器外科	P24
外耳炎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
外耳道異物	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
外耳道がん	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
疥癬	皮膚科	P45
外反肘	整形外科	P43
外反偏平足	整形外科	P43
外反母趾	整形外科	P43
潰瘍性大腸炎	消化器内科	P22
	消化器外科	P24
解離性障害	神経精神科	P40
化学熱傷	皮膚科	P45
過活動膀胱	泌尿器科	P49
角化症	皮膚科	P45
顎関節症	歯科口腔外科	P48
顎顔面領域の外傷	歯科口腔外科	P48
顎下腺炎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
顎下腺がん	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
角結膜炎	眼科	P46
角膜疾患	眼科	P46
下肢静脈瘤	形成外科	P44
下垂体機能低下症	糖尿病内分泌内科	P34
	小児科	P36
下垂体腺腫	脳神経外科	P31
	糖尿病内分泌内科	P34
下腿潰瘍	皮膚科	P45
肩関節脱臼	整形外科	P43
褐色細胞腫	糖尿病内分泌内科	P34
滑膜炎	整形外科	P43
滑膜肉腫	腫瘍内科	P32
化膿性肉芽腫	皮膚科	P45
過敏性肺臓炎	呼吸器内科	P28
カフェオレ斑	皮膚科	P45
下部消化管出血	消化器内科	P22
貨幣状湿疹	皮膚科	P45
カポジ水痘様発疹症	皮膚科	P45
カポジ肉腫	皮膚科	P45
加齢黄斑変性症	眼科	P46
川崎病	小児科	P36
肝炎ウイルス関連腎炎	腎臓内科	P35
肝芽腫	眼科	P46
肝外胆管がん	消化器外科	P24

疾患名	科	ページ
汗管腫	皮膚科	P45
眼球運動障害	眼科	P46
ガングリオン	整形外科	P43
	皮膚科	P45
眼瞼炎	眼科	P46
眼瞼下垂	形成外科	P44
	眼科	P46
汗孔角化症	皮膚科	P45
肝硬変	消化器内科	P22
肝細胞癌	消化器内科	P22
	腫瘍内科	P32
カンジダ症	皮膚科	P45
間質性腎炎	腎臓内科	P35
間質性肺炎	呼吸器内科	P28
肝腫瘍	消化器内科	P22
	小児外科	P50
環状紅斑	皮膚科	P45
汗疹	皮膚科	P45
関節リウマチ	整形外科	P43
	リウマチ膠原病内科	P38
乾癬	皮膚科	P45
感染性心内膜炎	循環器内科	P25
感染性腸炎	消化器内科	P22
	小児科	P36
眼先天異常	眼科	P46
肝臓がん	消化器内科	P22
肝内胆管がん	消化器内科	P22
肝内結石症	消化器外科	P24
陥入爪	形成外科	P44
	皮膚科	P45
肝嚢胞	消化器内科	P22
肝膿瘍	消化器内科	P22
肝破裂	消化器外科	P24
乾皮症	皮膚科	P45
肝不全	消化器内科	P22
陥没乳頭	形成外科	P44
顔面痙攣	脳神経外科	P31
顔面神経麻痺	形成外科	P44
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
顔面播種状粟粒性狼瘡	皮膚科	P45
顔面裂	形成外科	P44
肝門部胆管がん	消化器外科	P24
肝良性腫瘍	消化器内科	P22
冠動脈疾患	心血管外科	P27

病気の名前から診療科を探す

き

疾患名	科	ページ
キアリ奇形	脳神経外科	P31
期外収縮	不整脈科	P26
気管支炎	呼吸器内科 小児科	P28 P36
気管支拡張症	呼吸器内科	P28
気管支喘息	呼吸器内科 小児科	P28 P36
気胸	呼吸器内科 呼吸器外科	P28 P29
奇形腫	小児外科	P50
器質性肺炎	呼吸器内科	P28
偏痛風	リウマチ膠原病内科	P38
気道狭窄	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
機能性難聴	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
気分障害	神経精神科	P40
木村病	皮膚科	P45
逆流性食道炎	消化器内科 消化器外科	P22 P24
キャッスルマン病	血液内科	P39
嗅覚障害	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
急性化膿性耳下腺炎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
急性肝炎	消化器内科	P22
急性感音難聴	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
急性肝不全	消化器内科	P22
急性硬膜外血腫	脳神経外科	P31
急性硬膜下血腫	脳神経外科	P31
急性散在性脳脊髄炎	脳神経内科	P30
急性糸球体腎炎	腎臓内科 小児科	P35 P36
急性腎不全	腎臓内科	P35

<

疾患名	科	ページ
クインケ浮腫	皮膚科	P45
空腸がん	腫瘍内科	P32
クッシング症候群	糖尿病内分泌内科	P34
クッシング病	糖尿病内分泌内科	P34
屈折異常	眼科	P46

け

疾患名	科	ページ
鶏眼	皮膚科	P45
頸椎症性脊髄症	整形外科	P43
頸椎後縦帯骨化症	整形外科	P43
頸椎症	整形外科 脳神経外科	P43 P31
頸椎症性神経根症	整形外科	P43

疾患名	科	ページ
急性膵炎	消化器内科 消化器外科	P22 P24
急性ストレス反応	神経精神科	P40
急性胆嚢炎	消化器内科	P22
急性中耳炎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
急性虫垂炎	消化器外科 小児外科	P24 P50
急性頭部外傷	脳神経外科	P31
急性動脈閉塞	循環器内科	P25
急性腹症	消化器外科	P24
急速進行性糸球体腎炎	腎臓内科	P35
頰骨骨折	形成外科	P44
狭心症	循環器内科	P25
胸水	呼吸器内科	P28
胸腺癌	腫瘍内科	P32
胸椎黄色靭帯骨化症	整形外科	P43
強迫性障害	神経精神科	P40
強皮症	皮膚科 リウマチ膠原病内科	P45 P38
胸部外傷	呼吸器外科	P29
胸壁腫瘍	呼吸器外科	P29
胸膜炎	呼吸器内科	P28
虚血性視神経症	眼科	P46
虚血性脳血管障害	脳神経外科	P31
巨口症	形成外科	P44
魚鱗癬	皮膚科	P46
ギラン・バレー症候群	脳神経内科	P30
筋萎縮性側索硬化症	脳神経内科	P30
筋疾患	脳神経内科	P30
菌状肉肉症	皮膚科	P45

疾患名	科	ページ
くも膜嚢胞	脳神経外科	P31
グループ症候群	小児科	P36
クローン病	消化器内科 消化器外科	P22 P24

疾患名	科	ページ
頸椎椎間板ヘルニア	整形外科	P43
頸動脈狭窄症	脳神経外科	P31
頸動脈プラーク	脳神経内科	P30
頸部食道がん	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
劇症肝炎	消化器内科	P22

疾患名	科	ページ
血管炎	呼吸器内科 皮膚科	P28 P45
血管拡張性肉芽腫	皮膚科	P45
血管腫	形成外科	P44
血管性浮腫	皮膚科	P45
血球貪食症候群	小児科	P36
血球貪食性症候群	リウマチ膠原病内科	P38
結節性紅斑	皮膚科	P45
結節性多発動脈炎	リウマチ膠原病内科	P38
結節性痒疹	皮膚科	P45
血栓性血小板減少性紫斑病	リウマチ膠原病内科	P38
結腸がん	腫瘍内科	P32
血乳、血性乳頭分泌	乳腺外科	P42
血尿	腎臓内科 泌尿器科	P35 P49
血尿・蛋白尿	小児科	P36

こ

疾患名	科	ページ
口蓋裂	形成外科	P44
高カルシウム血症	糖尿病内分泌内科	P34
口腔がん	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
口腔内腫瘍	歯科口腔外科	P48
口腔内嚢胞	歯科口腔外科	P48
口腔粘膜疾患	歯科口腔外科	P48
高血圧	循環器内科 小児科	P25 P36
高血圧性脳内出血	脳神経外科	P31
高血糖性高浸透圧性昏睡	糖尿病内分泌内科	P34
膠原病	小児科	P36
好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA)	リウマチ膠原病内科	P38
好酸球性膿疱性毛包炎	皮膚科	P45
好酸球性肺炎	呼吸器内科	P28
高脂血症	糖尿病内分泌内科	P34
合指(趾)症	形成外科	P44
後十字靭帯損傷	整形外科	P43
後縦帯骨化症	整形外科	P43
甲状舌管嚢胞	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
甲状腺がん	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 腫瘍内科	P47 P32
甲状腺機能亢進症	糖尿病内分泌内科 小児科	P34 P36
甲状腺機能低下症	糖尿病内分泌内科 小児科	P34 P36
甲状腺疾患	糖尿病内分泌内科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P34 P47
甲状腺腫瘍	糖尿病内分泌内科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P34 P47

疾患名	科	ページ
血友病	小児科	P36
ケルスス禿瘡	皮膚科	P45
ケロイド	形成外科 皮膚科	P44 P45
原因不明の消化器出血	消化器内科	P22
腱鞘炎	整形外科	P43
検尿異常(顕微鏡的血尿、蛋白尿)	腎臓内科	P35
原発性アルドステロン症	糖尿病内分泌内科	P34
原発性肝癌(肝細胞癌、肝内胆管癌など)	消化器外科	P24
原発性硬化性胆管炎	消化器内科	P22
原発性胆汁性肝硬変	消化器内科	P22
原発性腹膜癌	腫瘍内科	P32
原発性マクログロブリン血症	血液内科	P39
原発不明がん	腫瘍内科	P32
腱板損傷	整形外科	P43
顕微鏡的多発血管炎	リウマチ膠原病内科	P38

疾患名	科	ページ
甲状腺中毒症	糖尿病内分泌内科	P34
甲状腺乳頭腺がん	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
口唇貯留嚢胞	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
口蓋裂	形成外科	P44
光線性皮膚疾患	皮膚科	P45
喉頭炎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
喉頭がん	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 腫瘍内科	P47 P32
喉頭腫瘍	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
高度蛋白尿	腎臓内科	P35
口内炎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
紅皮症	皮膚科	P45
後腹膜腫瘍	消化器外科	P24
高プロラクチン血症	糖尿病内分泌内科	P34
硬膜下膿瘍	脳神経外科	P31
硬膜静脈洞奇形	脳神経外科	P31
硬膜動静脈瘻	脳神経外科	P31
抗リン脂質抗体症候群	小児科 リウマチ膠原病内科	P36 P38
股関節臼蓋形成不全	整形外科	P43
呼吸不全	呼吸器内科	P28
骨髄異形成症候群	血液内科	P39
骨髄炎	整形外科	P43
骨髄線維症	血液内科	P39
骨粗鬆症	糖尿病内分泌内科 整形外科	P34 P43
骨代謝疾患	小児科	P36
股部白癬	皮膚科	P45
鼓膜損傷	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
混合性結合組織病	リウマチ膠原病内科	P38

病気の名前から診療科を探す

さ

疾患名	科	ページ
臍炎	小児外科	P50
再生不良性貧血	小児科 血液内科	P36 P39
臍帯ヘルニア	小児外科	P50
臍ヘルニア	消化器外科 形成外科	P24 P44
左脚ブロック	小児外科	P50

し

疾患名	科	ページ
ジアンソッティ症候群	皮膚科	P45
しいたけ皮膚炎	皮膚科	P45
シェーグレン症候群	リウマチ膠原病内科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P38 P47
シェーンライン・ヘンッホ紫斑病	リウマチ膠原病内科	P38
自家感受性皮膚炎	皮膚科	P45
痔核・痔瘻	消化器外科	P24
耳下腺炎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
耳下腺がん	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
耳管狭窄症	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
膝関節周辺骨折	整形外科	P43
色素性母斑	皮膚科	P45
子宮がん	腫瘍内科	P32
子宮筋腫	産婦人科	P51
子宮頸がん	産婦人科 腫瘍内科	P51 P32
子宮頸部上皮内腫瘍	産婦人科	P51
子宮体がん	産婦人科 腫瘍内科	P51 P32
子宮内膜症	産婦人科	P51
子宮内膜ポリープ	産婦人科	P51
子宮肉腫	産婦人科	P51
自己免疫性肝疾患	消化器内科	P22
自己免疫性好中球減少症	小児科	P36
脂質異常症	糖尿病内分泌内科	P34
思春期早発症	小児科	P36
視神経炎	眼科	P46
視神経疾患	眼科	P46
視神経症	眼科	P46
視神経脊髄炎	脳神経内科	P30
ジストニア	脳神経外科	P31
耳前瘻孔	形成外科 小児外科	P44 P50
失神	不整脈科	P26
湿疹	皮膚科	P45
紫斑病性腎炎	腎臓内科	P35
ジベルいぼら色靴襠疹	皮膚科	P45
脂肪肝	消化器内科	P22
弱視	眼科	P46
斜頸	脳神経外科	P31

疾患名	科	ページ
鎖肛	小児外科	P50
匙形爪	皮膚科	P45
ざ瘡	皮膚科	P45
サルコイドーシス	呼吸器内科	P28
三叉神経痛	脳神経外科	P31
三尖弁閉鎖症	小児科	P36
霰粒腫	眼科	P46
霰粒症	眼科	P46

疾患名	科	ページ
斜視	眼科	P46
シャルコマリートゥース病	脳神経内科	P30
縦隔気腫	呼吸器内科	P28
縦隔甲状腺腫	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
縦隔腫瘍	呼吸器外科	P29
重症筋無力症	脳神経内科	P30
	呼吸器外科	P29
十二指腸潰瘍	消化器内科	P22
十二指腸がん	消化器外科	P24
十二指腸腫瘍	消化器内科 消化器外科	P22 P24
十二指腸乳頭部がん	消化器外科 腫瘍内科	P24 P32
十二指腸乳頭部腫瘍	消化器内科 消化器外科	P22 P24
絨毛腫瘍	腫瘍内科	P32
手関節骨折	整形外科	P43
手根管症候群	整形外科	P43
手根不安定症	整形外科	P43
手指腱断裂	整形外科	P43
手指神経断裂	整形外科	P43
手掌多汗症	呼吸器外科	P29
授乳期乳腺炎	乳腺外科	P42
上衣腫	脳神経外科	P31
常位胎盤早期剥離	産婦人科	P51
消化管悪性リンパ腫	消化器外科	P24
消化管間葉系腫瘍(GIST)	消化器外科	P24
消化管出血	消化器外科	P24
消化管穿孔	消化器外科 小児外科	P24 P50
上顎骨骨折	形成外科	P44
小細胞肺癌	腫瘍内科	P32
小耳症	形成外科	P44
小唾液腺がん	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
硝子体黄斑牽引症候群	眼科	P46
硝子体出血	眼科	P46
上唇小帯短縮	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
掌蹠角化症	皮膚科	P45
掌蹠膿疱症	皮膚科	P45
小腸癌	腫瘍内科	P32

疾患名	科	ページ
小腸結核	消化器内科	P22
小腸腫瘍	消化器内科 消化器外科	P22 P24
上皮小体機能亢進症	糖尿病内分泌内科	P34
上皮小体機能低下症	糖尿病内分泌内科	P34
上部消化管出血	消化器内科	P22
静脈湖	皮膚科	P45
睫毛内反症	形成外科	P44
睫毛乱生	眼科	P46
褥瘡	形成外科 皮膚科	P44 P45
食道異物	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
食道がん	消化器内科 消化器外科 腫瘍内科	P22 P24 P32
食道静脈瘤	消化器内科	P22
食道粘膜下腫瘍	消化器内科	P22
食道裂孔ヘルニア	消化器外科 小児外科	P24 P50
食物アレルギー	小児科 皮膚科	P36 P45
書痙	脳神経外科	P31
女性化乳房症	乳腺外科	P42
痔裂	消化器外科	P24
脂漏性角化症	皮膚科	P45
脂漏性湿疹	皮膚科	P45
脂漏性皮膚炎	皮膚科	P45
心因性難聴	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
腎盂癌	腫瘍内科	P32
腎盂腎炎	腎臓内科	P35
腎尿管がん	泌尿器科	P49
腎炎	小児科	P36
腎がん	泌尿器科	P49
腎機能低下	腎臓内科	P35
心筋炎	循環器内科	P25
心筋梗塞	循環器内科	P25
真菌症	皮膚科	P45

す

疾患名	科	ページ
睪炎	小児外科	P50
髄芽腫	脳神経外科	P31
膵管胆管合流異常	消化器外科	P24
膵管癒合不全	消化器外科	P24
膵がん	消化器外科 腫瘍内科	P24 P32
水腎症	泌尿器科	P49
膵石	消化器内科	P22
膵臓癌	消化器内科	P22
水痘	皮膚科	P45
膵内分泌系腫瘍	消化器内科	P22
水疱症	皮膚科	P45

疾患名	科	ページ
心筋症	循環器内科	P25
神経因性膀胱	泌尿器科	P49
神経芽細胞腫	脳神経外科	P31
神経芽腫	小児科 小児外科	P36 P50
神経膠腫	脳神経外科	P31
神経症	小児科 神経精神科	P36 P40
神経内分泌腫瘍	消化器外科	P24
神経内分泌腫瘍(肺・胃・直腸・卵巣・膵)	腫瘍内科	P32
腎硬化症	腎臓内科	P35
進行性核上性麻痺	脳神経内科	P30
腎細胞癌	腫瘍内科	P32
心室細動	不整脈科	P26
心室頻拍	不整脈科	P26
真珠腫性中耳炎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
滲出性中耳炎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
尋常性乾癬	皮膚科	P45
尋常性ざ瘡	皮膚科	P45
尋常性疣贅	皮膚科	P45
心身症	小児科	P36
新生児黄疸	小児科	P36
真性多血症	血液内科	P39
心臓植え込み型心臓除細動器	不整脈科	P26
心臓腫瘍	循環器内科	P25
心臓ペースメーカー植え込み	不整脈科	P26
心臓弁膜症	循環器内科	P25
腎損傷	泌尿器科	P49
身体表現性障害	神経精神科	P40
腎嚢胞	泌尿器科	P49
じん肺	呼吸器内科	P28
深部静脈血栓症	循環器内科	P25
心不全	循環器内科	P25
腎不全	腎臓内科 小児科	P35 P36
心房細動	不整脈科	P26
蕁麻疹	皮膚科	P45

疾患名	科	ページ
水疱性類天疱瘡	皮膚科	P45
髄膜炎	脳神経内科 小児科	P30 P36
髄膜腫	脳神経外科	P31
睡眠時無呼吸症候群	呼吸器内科 歯科口腔外科	P28 P48
頭蓋底腫瘍	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
頭痛	脳神経内科	P30
ストレス関連障害	神経精神科	P40
スポーツ外傷(膝・肩)	整形外科	P43

病気の名前から診療科を探す

せ

疾患名	科	ページ
星細胞腫	脳神経外科	P31
精索静脈瘤	泌尿器科	P49
正常圧水頭症	脳神経外科	P31
正常妊娠	産婦人科	P51
成人GH分泌不全症	糖尿病内分泌内科	P34
成人スチル病	リウマチ膠原病内科	P38
精巣がん	泌尿器科	P49
	腫瘍内科	P32
精巣上体炎	泌尿器科	P49
声帯結節	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
声帯ポリープ	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
正中頸嚢胞	小児外科	P50
赤芽球癆	血液内科	P39
脊椎圧迫骨折後偽関節	整形外科	P43
脊髄炎	脳神経内科	P30
脊髄空洞症	脳神経外科	P31
脊髄血管障害	脳神経外科	P31
脊髄脂肪腫	脳神経外科	P31
脊髄腫瘍	脳神経外科	P31
脊髄障害	脳神経内科	P30
脊髄小脳変性症	脳神経内科	P30
脊髄髄膜瘤	脳神経外科	P31
脊髄性筋萎縮症	脳神経内科	P30
脊柱管狭窄症	脳神経外科	P31
脊椎・脊髄外傷	脳神経外科	P31
脊椎椎間板ヘルニア	脳神経外科	P31
せつ	皮膚科	P45
舌咽神経痛	脳神経外科	P31
舌下腺がん	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
舌がん	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
	腫瘍内科	P32

疾患名	科	ページ
舌腫瘍	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
舌小帯短縮	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
舌小帯短縮症	小児外科	P50
接触皮膚炎	皮膚科	P45
切断指	形成外科	P44
舌痛症	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
切迫早産	産婦人科	P51
切迫流産	産婦人科	P51
線維腺腫	乳腺外科	P42
尖圭コンジローマ	皮膚科	P45
前十字靭帯損傷	整形外科	P43
全身性エリテマトーデス	リウマチ膠原病内科	P38
喘息性気管支炎	小児科	P36
先端巨大症	糖尿病内分泌内科	P34
前置胎盤	産婦人科	P51
先天性腎尿路異常	腎臓内科	P35
先天性耳瘻孔	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
先天性胆道拡張症	小児外科	P50
先天性難聴	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
先天性血小板減少症	小児科	P36
先天性食道閉鎖症	小児外科	P50
先天性心疾患	循環器内科	P25
	小児科	P36
先天性ヘモグロビン異常症	小児科	P36
前頭骨骨折	形成外科	P44
前立腺炎	泌尿器科	P49
前立腺がん	泌尿器科	P49
	腫瘍内科	P32
前立腺肥大症	泌尿器科	P49
全腕骨骨折	整形外科	P43
全腕骨骨折変形治癒	整形外科	P43

そ

疾患名	科	ページ
躁うつ病	神経精神科	P40
巣状糸球体硬化症	腎臓内科	P35
総胆管拡張症	消化器外科	P24
総胆管結石	消化器内科	P22
足関節骨折	整形外科	P43

疾患名	科	ページ
単径ヘルニア	消化器外科	P24
	小児外科	P50
側頸嚢胞	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
側頸瘻	小児外科	P50

た

疾患名	科	ページ
帯状疱疹	皮膚科	P45
苔癬状靴癬疹	皮膚科	P45
大腿骨顆部骨壊死	整形外科	P43
大腿骨頸部骨折	整形外科	P43
大腿骨転子部骨折	整形外科	P43
大腿骨頭壊死症	整形外科	P43
大腿骨頭骨折	整形外科	P43
大腿骨頭すべり症	整形外科	P43
大腿骨内顆骨壊死	整形外科	P43
大腿ヘルニア	消化器外科	P24
大腸がん	消化器内科	P22
	腫瘍内科	P32
大腸(結腸・直腸)がん	消化器外科	P24
大腸狭窄	消化器外科	P24
大腸憩室	消化器内科	P22
大腸憩室症	消化器外科	P24
大腸ポリープ	消化器内科	P22
大動脈炎症候群(側頭動脈炎も含む)	リウマチ膠原病内科	P38
大動脈解離	循環器内科	P25
大動脈瘤	循環器内科	P25
	心臓血管外科	P27
胎便性腹膜炎	小児外科	P50
ダウン症	小児科	P36
唾液腺炎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
唾液腺癌	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
唾液腺疾患	歯科口腔外科	P48
唾液腺腫瘍	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
多汗症	皮膚科	P45
多形紅斑	皮膚科	P45
多系統萎縮症	脳神経内科	P30
多合指(趾)症	形成外科	P44
唾石	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
立ち耳	形成外科	P44

ち

疾患名	科	ページ
チック	小児科	P36
昼間遺尿・尿失禁	小児科	P36
中耳炎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
虫刺症	皮膚科	P45
虫垂炎	消化器内科	P22
	消化器外科	P24
虫垂癌	腫瘍内科	P32
虫垂腫瘍	消化器外科	P24
中毒疹	皮膚科	P45
中皮腫	呼吸器内科	P28
肘部管症候群	整形外科	P43

疾患名	科	ページ
脱毛症	皮膚科	P45
多発血管炎性肉芽腫症(GPA)	リウマチ膠原病内科	P38
多発性筋炎	脳神経内科	P30
	リウマチ膠原病内科	P38
多発性硬化症	脳神経内科	P30
多発性骨髄腫	血液内科	P39
多発性単神経炎	脳神経内科	P30
多発性嚢胞腎	腎臓内科	P35
グリエー病	皮膚科	P45
胆管がん	消化器外科	P24
	腫瘍内科	P32
	消化器内科	P22
胆管結石	消化器内科	P22
	消化器外科	P24
短合指(趾)症	形成外科	P44
男性型脱毛症	皮膚科	P45
男性乳がん	乳腺外科	P42
胆石	消化器内科	P22
	小児外科	P50
胆石症	消化器外科	P24
胆道癌	腫瘍内科	P32
胆道閉鎖症	小児外科	P50
丹毒	皮膚科	P45
胆嚢炎	消化器外科	P24
胆嚢がん	腫瘍内科	P32
	消化器内科	P22
	消化器外科	P24
胆嚢結石	消化器内科	P22
	消化器外科	P24
胆嚢腺筋腫症	消化器外科	P24
胆嚢ポリープ	消化器内科	P22
	消化器外科	P24
蛋白尿	腎臓内科	P35

疾患名	科	ページ
腸回転異常症	小児外科	P50
腸管バーチエット病	消化器内科	P22
腸管重複症	小児外科	P50
腸器がん	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
聴神経腫瘍	脳神経外科	P31
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
腸閉鎖	小児外科	P50
腸閉塞	消化器外科	P24
直腸癌	腫瘍内科	P32
直腸脱・肛門脱	消化器外科	P24

病気の名前から診療科を探す

つ

疾患名	科	ページ
椎骨脳底動脈循環不全症	脳神経内科	P30
突き指	整形外科	P43

て

疾患名	科	ページ
手足口病	皮膚科	P45
手足症候群	皮膚科	P45
低温熱傷	皮膚科	P45
低カリウム血症	糖尿病内分泌内科	P34
低カルシウム血症	糖尿病内分泌内科	P34
低血糖症	糖尿病内分泌内科	P34
	小児科	P36
低身長症	小児科	P36
停留精巣(停留睾丸)	小児外科	P50
適応障害	神経精神科	P40
デューリング疱疹状皮膚炎	皮膚科	P45
デュアイトラン拘縮	整形外科	P43

と

疾患名	科	ページ
頭蓋咽頭腫	脳神経外科	P31
頭蓋骨骨折	脳神経外科	P31
頭蓋内出血	脳神経外科	P31
頭頸部がん	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
	腫瘍内科	P32
頭頸部原発不明がん	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
頭頸部腫瘍	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
統合失調症	神経精神科	P40
橈骨遠位端骨折	整形外科	P43
橈骨遠位端骨折変形治癒	整形外科	P43
洞不全症候群	不整脈科	P26
凍瘡	皮膚科	P45
糖尿病	糖尿病内分泌内科	P34
	小児科	P36
糖尿病合併症	糖尿病内分泌内科	P34

疾患名	科	ページ
爪白癬	皮膚科	P45

疾患名	科	ページ
転移性肝がん	消化器外科	P24
転移性脳腫瘍	脳神経外科	P31
転移性肺腫瘍	呼吸器外科	P29
伝音難聴	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
てんかん	脳神経内科	P30
	小児科	P36
伝染性紅斑	皮膚科	P45
伝染性軟属腫	皮膚科	P45
伝染性膿痂疹	皮膚科	P45
癜風	皮膚科	P45
天疱瘡	皮膚科	P45

疾患名	科	ページ
糖尿病性壊疽	皮膚科	P45
糖尿病性ケトアシドーシス	糖尿病内分泌内科	P34
糖尿病性神経障害	糖尿病内分泌内科	P34
糖尿病性腎症	糖尿病内分泌内科	P34
	腎臓内科	P35
糖尿病性足病変	皮膚科	P45
糖尿病網膜症	眼科	P46
特発性色素性紫斑	皮膚科	P45
特発性食道破裂	消化器外科	P24
特発性門脈圧亢進症	消化器内科	P22
特発性血小板減少性紫斑病	小児科	P36
	血液内科	P39
突発性難聴	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
ドライアイ	眼科	P46

な

疾患名	科	ページ
内側側副靭帯損傷	整形外科	P43
内臓動脈瘤(肝動脈瘤、脾動脈瘤など)	消化器外科	P24
内反症	眼科	P46

に

疾患名	科	ページ
面皰	皮膚科	P45
肉芽腫	皮膚科	P45
肉芽腫性乳腺炎	乳腺外科	P42
肉腫	腫瘍内科	P32
二次性高血圧症	糖尿病内分泌内科	P34
日光角化症	皮膚科	P45
乳がん	乳腺外科	P42
	腫瘍内科	P32
乳児血管腫・母状血管腫	小児科	P36
乳児痔瘻・肛門周囲膿瘍	小児外科	P50
乳腺腫瘍、乳腺腫瘍	乳腺外科	P42
乳腺腫瘍(良性)	乳腺外科	P42
乳腺症	乳腺外科	P42
乳頭部がん	消化器外科	P24
乳頭分泌異常	乳腺外科	P42

ね

疾患名	科	ページ
熱傷	形成外科	P44
	皮膚科	P45
熱性痙攣	小児科	P36

の

疾患名	科	ページ
脳炎	脳神経内科	P30
脳炎・脳症	小児科	P36
膿痂疹	皮膚科	P45
膿胸	呼吸器内科	P28
脳血管炎	脳神経内科	P30
脳血管障害	脳神経内科	P30
脳梗塞	脳神経外科	P31
	脳神経内科	P30
脳腫瘍	脳神経外科	P31
	腫瘍内科	P32
	小児科	P36

疾患名	科	ページ
内反肘	整形外科	P43
軟性線維腫	皮膚科	P45
難聴	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47

疾患名	科	ページ
乳房形成不全	形成外科	P44
尿管癌	腫瘍内科	P32
尿管狭窄	泌尿器科	P49
尿細管間質性腎炎	腎臓内科	P35
尿失禁	泌尿器科	P49
尿道狭窄	泌尿器科	P49
尿道損傷	泌尿器科	P49
尿管症	糖尿病内分泌内科	P34
尿管管遺残症	小児外科	P50
尿路感染症	泌尿器科	P49
	小児科	P36
尿路結石症	泌尿器科	P49
尿路上皮癌	腫瘍内科	P32
妊娠性痒疹	皮膚科	P45
妊娠糖尿病	糖尿病内分泌内科	P34

疾患名	科	ページ
ネフローゼ症候群	腎臓内科	P35
	小児科	P36

疾患名	科	ページ
脳塞栓症	脳神経内科	P30
脳動静脈奇形	脳神経外科	P31
脳動静脈狭窄症	脳神経外科	P31
脳動脈瘤	脳神経外科	P31
脳内出血	脳神経外科	P31
脳腫瘍	脳神経外科	P31
膿皮症	皮膚科	P45
膿疱症	皮膚科	P45

病気の名前から診療科を探す

は

疾患名	科	ページ
パーキンソン症候群	脳神経内科	P30
パーキンソン病	脳神経内科 脳神経外科	P30 P31
肺アルベスギルス症	呼吸器内科	P28
肺炎	呼吸器内科 小児科	P28 P36
肺がん	呼吸器外科 呼吸器内科	P29 P28
肺結核	呼吸器内科	P28
肺血栓塞栓症	循環器内科 呼吸器内科	P25 P28
肺高血圧症	呼吸器内科	P28
胚細胞腫瘍	腫瘍内科	P32
胚腫(ジャーミノーマ)	脳神経外科	P31
梅毒	皮膚科	P45
肺膿瘍	呼吸器内科	P28
肺出血	呼吸器内科	P28
稗粒腫	皮膚科	P45
白癬	皮膚科	P45

ひ

疾患名	科	ページ
非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)	消化器内科	P22
鼻咽腔閉鎖不全	形成外科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P44 P47
皮角	皮膚科	P45
非結核性抗酸菌症	呼吸器内科	P28
靴糠疹	皮膚科	P45
肥厚性癬痕	形成外科 皮膚科	P44 P45
肥厚性鼻炎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
肥厚性幽門狭窄症	小児外科	P50
鼻骨骨折	形成外科	P44
皮脂欠乏性皮膚炎	皮膚科	P45
皮質基底核変性症	脳神経内科	P30
脾腫	消化器外科	P24
脾腫瘍	消化器外科	P24
鼻出血	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
非小細胞肺癌	腫瘍内科	P32
微小変異型ネフローゼ	腎臓内科	P35
鼻中隔湾曲症	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
非特異性小腸潰瘍	消化器内科	P22

疾患名	科	ページ
白癬症	皮膚科	P45
白内障	眼科	P46
白斑	皮膚科	P45
麦粒腫	眼科	P46
橋本病	糖尿病内分泌内科	P34
パセドウ病	糖尿病内分泌内科	P34
白血病	小児科 血液内科	P36 P39
抜歯(難抜歯、智歯抜歯)	歯科口腔外科	P48
発達・発育障害	小児科	P36
鼻茸	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
パニック障害	神経精神科	P40
ばねゆび	整形外科	P43
半月板損傷	整形外科	P43
癬痕	形成外科 皮膚科	P44 P45
癬痕拘縮	形成外科	P44
ハンチントン病	脳神経内科	P30
反応性穿孔性膠原線維症	皮膚科	P45

疾患名	科	ページ
鼻内異物	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
脾破裂	消化器外科	P24
皮膚アレルギー性血管炎	皮膚科	P45
皮膚潰瘍	皮膚科	P45
皮膚癌	腫瘍内科	P32
皮膚感染症	皮膚科	P45
皮膚筋炎	脳神経内科 リウマチ膠原病内科	P30 P38
皮膚腫瘍	皮膚科	P45
皮膚線維腫	皮膚科	P45
皮膚掻痒症	皮膚科	P45
皮膚皮下腫瘍	形成外科	P44
飛蚊症	眼科	P46
肥満症	糖尿病内分泌内科 小児科	P34 P36
百日咳	小児科	P36
ひょう疽	皮膚科	P45
表皮のう腫	皮膚科	P45
ヒルシスプルング病	小児外科	P50

ふ

疾患名	科	ページ
不安障害	神経精神科	P40
フィッシャー症候群	脳神経内科	P30
風疹	皮膚科	P45
フォンビルブランド病	小児科	P36
腹腔内出血	消化器外科	P24
副甲状腺がん	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
副甲状腺機能亢進症	糖尿病内分泌内科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P34 P47
副甲状腺機能低下症	糖尿病内分泌内科	P34
複視	脳神経内科	P30
副耳	形成外科 小児外科	P44 P50
副腎がん	泌尿器科	P49
副腎機能不全	糖尿病内分泌内科	P34
副腎偶発腫瘍	糖尿病内分泌内科	P34
副腎疾患	小児科	P36

へ

疾患名	科	ページ
平滑筋肉腫	腫瘍内科	P32
平衡機能障害	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
閉塞性黄疸	消化器内科	P22
閉塞性動脈硬化症	循環器内科	P25
ペーチェット病	リウマチ膠原病内科	P38
ヘバーデン結節	整形外科	P43
ヘモクロマトーシス	消化器内科	P22
ヘルペス	皮膚科	P45
変形性股関節症	整形外科	P43

ほ

疾患名	科	ページ
蜂窩織炎	小児科 皮膚科	P36 P45
包茎	泌尿器科 小児外科	P49 P50
膀胱炎	泌尿器科	P49
膀胱がん	泌尿器科 腫瘍内科	P49 P32

疾患名	科	ページ
副腎腫瘍	糖尿病内分泌内科	P34
副腎皮質機能低下症	糖尿病内分泌内科	P34
副腎良性腫瘍	泌尿器科	P49
副鼻腔炎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
副鼻腔嚢胞	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
腹壁破裂	小児外科	P50
腹壁癬痕ヘルニア	消化器外科	P24
腹膜炎	消化器外科	P24
腹膜がん	産婦人科	P51
浮腫	皮膚科	P45
不整脈	小児科	P36
ぶどう膜炎	眼科	P47
不明熱	小児科	P36
ブルガダ症候群	不整脈科	P26
プロラクチノーマ	糖尿病内分泌内科	P34
粉瘤	皮膚科	P45

疾患名	科	ページ
変形性膝関節症	整形外科	P43
片頭痛	脳神経内科	P30
扁桃炎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
扁桃肥大	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
便秘	小児外科	P50
扁平上皮癌	腫瘍内科	P32
扁平苔癬	皮膚科	P45
弁膜症	心臓血管外科	P27

疾患名	科	ページ
房室ブロック	不整脈科	P26
母指形成不全	形成外科	P44
発作性上室性頻拍症	不整脈科	P26
母斑	皮膚科	P45
本態性血小板増多症	血液内科	P39
本能性振戦	脳神経外科 脳神経内科	P31 P30

病気の名前から診療科を探す

ま

疾患名	科	ページ
マイコプラズマ肺炎	小児科	P36
埋没耳	形成外科	P44
巻き爪	皮膚科	P45
膜性腎症	腎臓内科	P35
膜性増殖性腎炎	腎臓内科	P35
麻疹	小児科	P36
	皮膚科	P45
マダニ刺咬症	皮膚科	P45
末梢神経障害	脳神経内科	P30
末端肥大症	糖尿病内分泌内科	P34

み

疾患名	科	ページ
味覚障害	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47

む

疾患名	科	ページ
無菌性髄膜炎	脳神経内科	P30
無月経	小児科	P36

め

疾患名	科	ページ
メッケル憩室	小児外科	P50
メニエール病	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47

も

疾患名	科	ページ
毛孔性苔癬	皮膚科	P45
蒙古斑	皮膚科	P45
網状皮斑	皮膚科	P45
毛包炎	皮膚科	P45
網膜色素変性症	眼科	P46
網膜静脈閉塞症	眼科	P46
網膜動脈閉塞症	眼科	P46

疾患名	科	ページ
馬拉セチア毛包炎	皮膚科	P45
慢性肝炎	消化器内科	P22
慢性硬膜下血腫	脳神経外科	P31
慢性腎炎症候群	腎臓内科	P35
慢性腎臓病 (CKD)	腎臓内科	P35
慢性腎不全	腎臓内科	P35
慢性膵炎	消化器内科	P22
	消化器外科	P24
慢性閉塞性肺疾患 (COPD)	呼吸器内科	P28

疾患名	科	ページ
耳鳴り	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47

疾患名	科	ページ
ムチン沈着症	皮膚科	P45
無痛性甲状腺炎	糖尿病内分泌内科	P34

疾患名	科	ページ
めまい	脳神経内科	P30
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47

疾患名	科	ページ
網膜剥離	眼科	P46
網膜裂孔	眼科	P46
もやもや病	脳神経外科	P31
モルフェア	皮膚科	P45
モンテジア骨折	整形外科	P43
モンドール病	皮膚科	P45

や

疾患名	科	ページ
野球肘	整形外科	P43
薬剤性腎障害	腎臓内科	P35
薬剤性肺炎	呼吸器内科	P28

ゆ

疾患名	科	ページ
有棘細胞癌	腫瘍内科	P32

よ

疾患名	科	ページ
よう	皮膚科	P45
痒疹	皮膚科	P45
腰椎椎間板ヘルニア	整形外科	P43
腰椎分離・分離すべり症	整形外科	P43
腰椎分離症	整形外科	P43

ら

疾患名	科	ページ
ラクナ梗塞	脳神経内科	P30
卵管がん	腫瘍内科	P32
卵巣がん	産婦人科	P51
	腫瘍内科	P32

り

疾患名	科	ページ
リウマチ性多発筋痛症	リウマチ膠原病内科	P38
梨状窩瘻	小児外科	P50
リベド血管炎	皮膚科	P45
良性肝腫瘍	消化器外科	P24

る

疾患名	科	ページ
類乾癬	皮膚科	P45
涙囊炎	眼科	P46

れ

疾患名	科	ページ
裂肛	小児外科	P50

ろ

疾患名	科	ページ
漏斗胸	小児外科	P50

疾患名	科	ページ
薬疹	皮膚科	P45
薬物性肝障害	消化器内科	P22
夜尿症	小児科	P36

疾患名	科	ページ
疣贅	皮膚科	P45

疾患名	科	ページ
腰椎分離すべり症	整形外科	P43
腰椎変性すべり症	整形外科	P43
腰椎変性側弯症	整形外科	P43
腰部脊柱管狭窄症	整形外科	P43
翼状片	眼科	P46

疾患名	科	ページ
卵巣腫瘍	産婦人科	P51
卵巣嚢腫	小児外科	P50
ランパートイトン筋無力症候群	脳神経内科	P30

疾患名	科	ページ
良性発作性頭位めまい	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P47
緑内障	眼科	P46
リンパ管腫	小児外科	P50
リンパ浮腫	形成外科	P44

疾患名	科	ページ
ループス腎炎	腎臓内科	P35

疾患名	科	ページ
裂手(趾)症	形成外科	P44

病気の名前から診療科を探す

英字

疾患名	科	ページ
ACTH単独欠損症	糖尿病内分泌内科	P34
ADH分泌異常症	糖尿病内分泌内科	P34
ANCA関連血管炎	腎臓内科	P35
ANCA関連腎炎	腎臓内科	P35
Evans症候群	小児科	P36
IgA血管炎(紫斑病性腎炎)	腎臓内科	P35

疾患名	科	ページ
IgA腎症	小児科 腎臓内科	P36 P35
IgG4関連疾患	リウマチ膠原病内科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	P38 P47
QT延長症候群	不整脈科	P26
WPW症候群	不整脈科	P26

数字

疾患名	科	ページ
1型糖尿病	糖尿病内分泌内科	P34

疾患名	科	ページ
2型糖尿病	糖尿病内分泌内科	P34

医学研究所北野病院 FAQ ～よくある質問～

Q1 予約なしでも受診できますか？ 外来受付時間を教えてください。

A 予約なしでも当日受診は可能です。受付時間は8時45分～11時30分です。土、日、祝日、年末年始は休診です。ただし、神経精神科、心臓血管外科、歯科口腔外科、小児専門外来、火曜日の整形外科は完全予約制です。診察待ち時間が長時間になる場合がありますが、ご了承ください。

Q2 紹介状がなくても受診できますか？

A 受診していただけますが、当院初診の患者さんは、初診料金の他、選定療養費1万1,000円が別途かかります。※整形外科・耳鼻咽喉科・眼科・心臓血管外科・歯科口腔外科では初診の患者さんは紹介状をお持ちの方のみとさせていただきます。

Q3 選定療養費とは何ですか？

A 厚生労働省により制定された「紹介受診重点医療機関のうち一般病床200床以上の病院で、初診時に紹介状をお持ちでない患者さんを対象に自己負担金をいただく制度」です。ただし、次に該当する場合は、ご負担いただきません。
● 他の医療機関からの紹介状をご持参の場合
● 今回受診する診療科は初めてだが、別の診療科に6ヵ月以内に受診歴のある方

Q4 検査だけでも予約できますか？

A 放射線診断科(PET-CT・CT・MRI・Rシンチ・骨密度)・生理検査(腹部エコー・甲状腺エコー)・胃内視鏡検査は、医療機関からの申し込みのみ検査予約ができます。

Q5 患者からでも診察予約は取れますか？

A 紹介状をお持ちの患者さんは、事前予約を受付けています。お申し込みは、FAXまたはインターネット(<https://www.kitano-hp.or.jp/section/local>) でお願ひしています。診療科によっては紹介状の取り寄せが必要となりますので、当院より紹介元の医療機関様へ連絡させていただくことがあります。予約方法については、**地域医療サービスセンター 06-6131-2955**へお問い合わせください。

Q6 駐車場はありますか？また、料金はいくらですか？

A 駐車場は、当院地下にごございます。受診当日の利用料金は、1時間まで200円、1時間以降5時間まで400円、5時間以降1時間毎に100円となっています。その他の優待割引もごございますので、詳細につきましてはお問い合わせください。

Q7 セカンドオピニオンは予約制ですか？

A 予約制です。セカンドオピニオン利用申込書にてお申し込みください。料金は、一回3万3,000円です。お申し込みは医療機関からのみ受け付けています。なお、以下の事例での相談は受けていません。
● 主治医が了解していない場合
● 医療過誤および裁判係争中に関する相談
● 死亡された患者さんを対象とする場合
● 相談内容が、当院の専門外の場合
● 「診療情報提供書」、検査データ、画像データなどの資料、また当院が指定した資料をお持ちでない場合
● 現在受診中の病院・主治医に対する不満
● 医療費の内容、医療給付に関わる相談
● 患者さん・ご家族さん以外からの相談

Q8 救急受診の連絡はどこへするの？

A 8：45～17：25までは地域医療サービスセンター 06-6131-2955へ、ご連絡ください。速やかに、受診手配をいたします。17：25～翌日8：45までは、**代表電話 06-6312-1221**へご連絡ください。救急受付事務が対応いたします。時間外の救急受診の場合は、初診・再診に関わらず救急車での来院や紹介状をご持参の場合を除き、選定療養費が必要となります。

Q9 地域医療従事者向けの講演会・研修会はありますか？

A オンラインを中心に状況を見ながら対面でも開催しています。予定は医学研究所北野病院ホームページをご覧ください。

Q10 最新の外来診察表・診療情報提供書・封筒が欲しい。

A **地域医療サービスセンター 06-6131-2955**へご連絡ください。郵送させていただきます。

Q11 入院患者の様子を診に行きたい、主治医に会いたい時はどのようにすればいいのでしょうか？

A **地域医療サービスセンター 06-6131-2955**へご連絡ください。入院病棟・主治医へ連絡いたします(名札をご準備させていただきます)。なお、面会は状況を見ながら一定の制限下で実施していますのでご了承ください。

※ 本冊子は2023年5月発行であり、掲載されている人事情報は、2023年4月現在のものです。